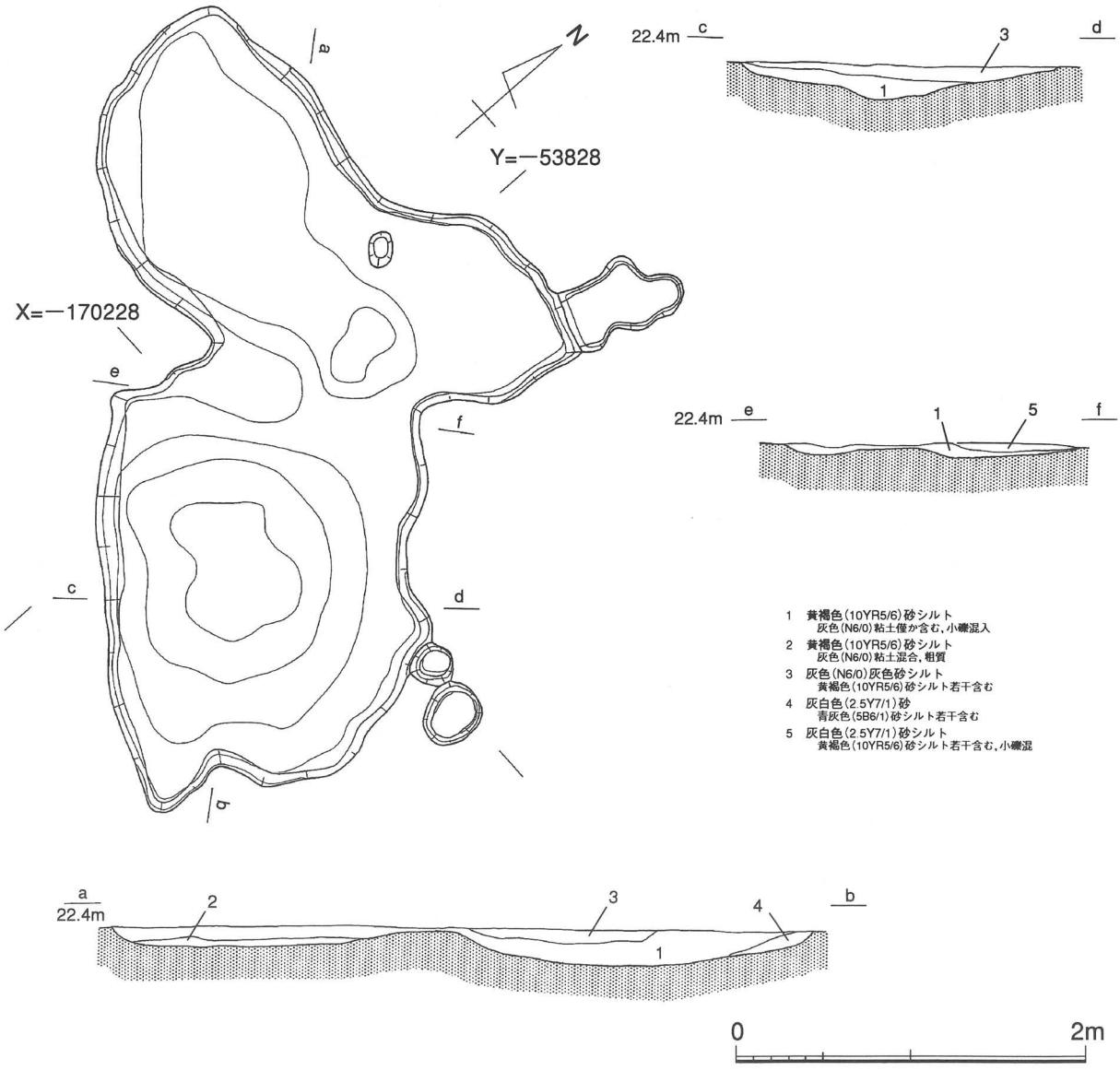
堆積土はいずれも粘シルトからなる4つの層に分かれるが、4層が底面から壁体上辺にかけて溜まったのち、1～3層で埋まった。そうした堆積状況から、人為的に埋められた可能性が高い。出土遺物は、時期・器種の比定ができない土器1点・10gだけで、図示もできなかった。

049土坑(第44・74・77・79・88図)

04－1区南西辺のほぼ中央に位置する不定形土坑である。調査区外に延び出ているため、全容は不明である。

現状で、北西－南東方向5.5m、北東－南西方向4.7mを測る。底面は、一部を除いて、あまり起伏はない。深さは最大60cmを測るが、大半の部分では40cmほどである。土坑内堆積土は、２～６層が底面上に散在的に溜まり、その上にオリーブ褐色粗砂が厚く覆っている。

土坑内からは122点・3285gの遺物が出土した。弥生～古墳時代の土器が45点・375g(全体の36.9%・11.4%)を占めるが、須恵器4点・65g(3.3%・2.0%)、灰釉陶器1点・5g(0.8%・0.2%)、瓦器5点・10g(4.1%・0.3%)、陶器5点・120g(4.1%・3.7%)、磁器17点・100g(13.9%・3.0%)、



第78図　073土坑

青磁1点・10g(0.8%・0.3%)、白磁1点・5g(0.8%・0.2%)、炻器1点・25g(0.8%・0.8%)、燻瓦39点・2520g(32.0%・76.7%)なども含む。このように、一定量の近世および近代の遺物が認められる点に留意される。

こうした遺物のうち、復元実測により4点を図示し、また3点の拓影を掲載した。

469は陶器の蓋である。外面に鉄釉によって文様が描かれている。470は磁器の碗である。471は磁器の皿である。銅版転写により文様が描かれている。これらの陶・磁器は近代のものである。472はガラス製の小瓶である。時期の詳細は不明であるが、やはりこれも近代のものであろう。

拓影で示した3点はいずれも須恵器である。497と498は甕の破片で、前者は外面に平行タタキ・スリケシ調整、内面には当具痕が同心円文として残る。後者は外面に格子タタキ調整がなされ、内面には当具痕がスリ消されている。499は杯蓋の端部で、TK47型式である。

以上のように、049土坑からは弥生～古墳時代とともに近世・近代の遺物が出土した。このことから、本土坑は近代(前半)に掘削・廃棄されたと考えられ、さらに同類の不定形土坑の廃棄時期も、遺物出土の有無に関わらず、近代に求めることができよう。

073土坑(第44・74・78・79図)

04－1区の北西辺近くのほぼ中央に位置する不定形土坑である。北西－南東方向4.5m、北東－南西方向2.1mほどを測る。底面には起伏があり、中央が小高い。深さは最大で20cm強である。

土坑内堆積土は、過半を占める下層の1層と、その上に堆積した3～5層に大別されるが、北西寄りでは1層下に灰色粘土を混入した2層土が存在し、北西から埋まった状況を示している。

出土遺物は62点・525gを数える。そのうち弥生～古墳時代の土器が53点・340g(85.5%・64.8%)を占めるが、灰釉陶器1点・5g(1.6%・1.0%)、緑釉陶器1点・5g(1.6%・1.0%)、燻瓦3点・95g(4.8%・18.1%)も出土している。

これらの遺物のうち、図示し得たものは473の1点のみである。473は布留式系甕で、口縁部端は僅かに肥厚している。摩滅のため胴部外面の調整は不明。混入品と判断される。

遺構出土遺物(第79図)

既述以外の04－1区の遺構で、遺物の出土が認められたのは、003土坑(17点・40g)、007小穴(1点・5g)、008小穴(4点・5g)、009小穴(1点・5g)、013土坑(2点・20g)、017小穴(1点・10g)、022土坑(2点・15g)、023土坑(5点・35g)、027溝状遺構(3点・5g)、040土坑(3点・5g)、041土坑(19点・80g)、044土坑(4点・15g)、047小穴(4点・45g)、050土坑(10点・40g)、052土坑(23点・300g)、060土坑(4点・25g)、069小穴(3点・5g)、070小穴(1点・5g)、077小穴(2点・10g)、078土坑(7点・55g)である。このうち022土坑で瓦器1点・5g、023土坑で磁器1点・30g、047小穴で燻瓦1点・25gが出土している。

これらの20基から出土した116点・725gの遺物のうち、図示できたのは2点である。

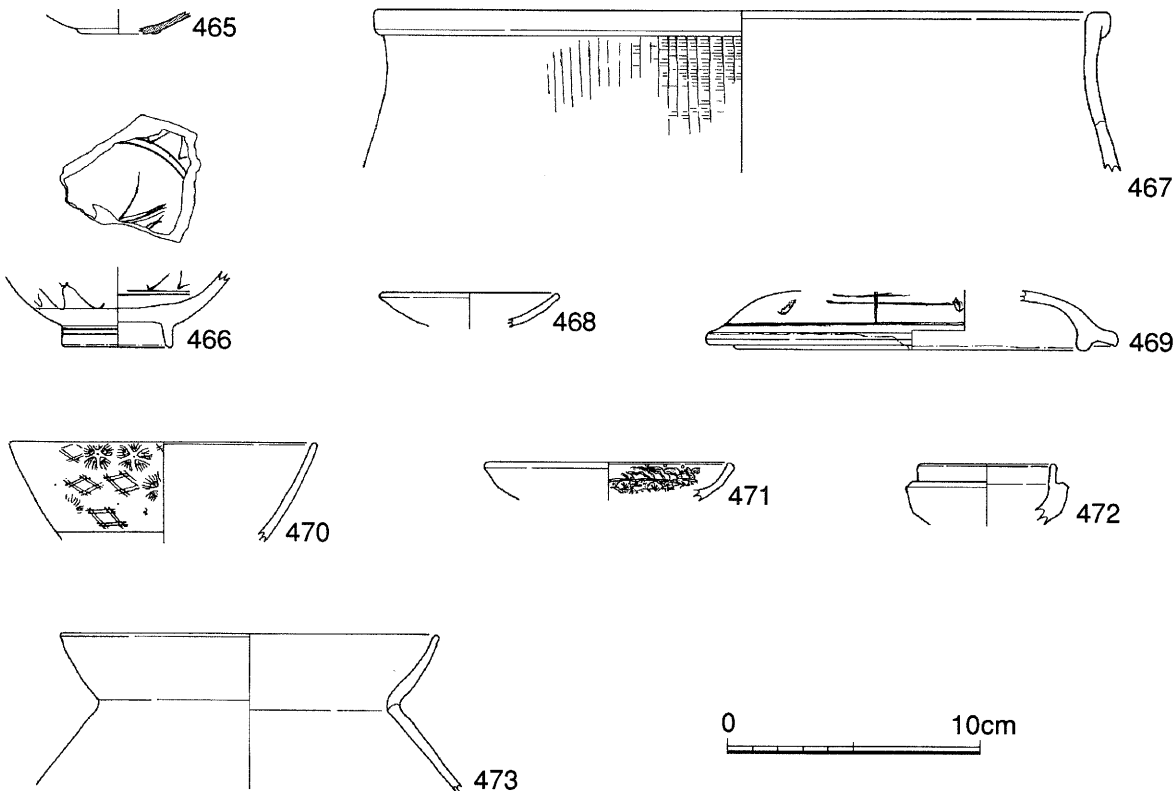
465は022土坑出土の瓦器椀である。022土坑は、030土坑の北方約2mに位置し、長軸140cm、短軸60cm、深さ15cmほどを測る。この瓦器椀は、高台部が脆弱化していて、13世紀後半のもの

といえる。

466は023土坑から出土した磁器碗である。023土坑は、030土坑の北東約1mに位置する。長軸150cm、短軸110cm、深さ10cmを測る。碗の外面には一重網目が描かれている。17世紀後半のものである。

		弥生中期後半	弥生後期	弥生一括	庄内	庄内～布留	布留	弥生～古墳	須恵器	土師質土器	灰釉陶器	緑釉陶器	瓦器	陶器	磁器	青磁	白磁	炻器	瓦	その他
No003	点数	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No004	点数	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No007	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No008	点数	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No009	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No013	点数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No016	点数	0	0	0	1	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	15	0	0	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No017	点数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No022	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
No023	点数	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0
No025	点数	3	3	3	26	0	5	326	1	0	1	0	3	1	1	0	0	0	0	1
	重量	70	30	5	330	0	35	1320	5	0	5	0	15	5	5	0	0	0	0	65
No027	点数	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No030	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	240	0	
No040	点数	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No041	点数	0	0	0	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	10	0	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No044	点数	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	10	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No045	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No047	点数	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	
No049	点数	2	0	1	3	1	0	38	4	0	1	0	5	5	17	1	1	1	39	3
	重量	35	0	30	35	10	0	265	65	0	5	0	10	120	100	10	5	25	2520	50
No050	点数	0	0	0	0	0	0	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	35	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
No052	点数	0	0	0	1	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	重量	0	0	0	20	0	0	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120	10	
No060	点数	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	10	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No069	点数	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No070	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No073	点数	1	0	1	0	0	1	50	3	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0	
	重量	5	0	45	0	0	25	265	30	50	5	5	0	0	0	0	0	95	0	
No076	点数	0	0	0	4	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	90	0	0	185	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No077	点数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No078	点数	0	0	1	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	20	0	0	20	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
No079	点数	0	0	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	10	0	5	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

第8表　04—1区検出遺構出土遺物組成



第79図　04－1区検出遺構出土遺物

遺構外出土物(第80図)

遺構検出面の精査や側溝掘削によって出土した、遺構の帰属が明確でない遺物を遺構外出土遺物とした。04－1区出土では640点・5900gを数える。大半が弥生～古墳時代の土器であるが、須恵器2点・45g、瓦器1点・5g、陶器2点・15g、瓦2点・45gなども含まれている。

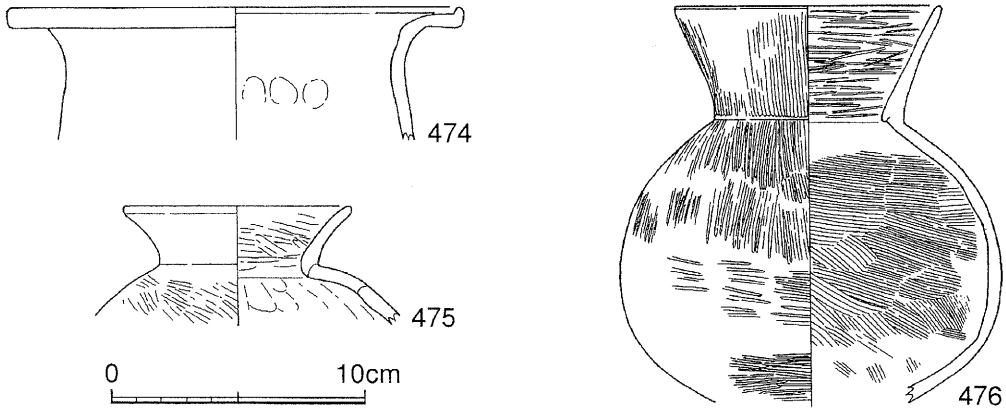
これらのうち、図示し得たものは474～476の3点、拓影を示したものは1点である。

474は弥生中期後半の壺である。口縁部は強く外反し、端部は直立する。475は直口壺である。口縁部は短めである。口縁部内面および胴部外面にはミガキ調整がなされている。布留式期のもである。476も直口壺である。口縁部内外面および胴部外面にミガキ調整がなされている。この壺も布留式期である。

拓影で示した496は須恵器の胴部である。胴部外面に細かな平行タタキが格子状に重複している。内面の当具痕は同心円文となって残ったままである。

			弥生中期中葉	弥生中期後半	弥生後期	弥生一括	庄内	庄内～布留	布留	弥生～古墳	須恵器	瓦器	陶器	磁器	瓦	その他
1区	包含層	点数	0	4	1	3	48	1	15	281	1	0	0	0	0	1
		重量	0	140	30	150	625	35	170	1435	5	0	0	0	0	50
	一括	点数	1	4	2	2	35	1	2	232	1	1	2	0	2	0
		重量	10	120	40	20	570	10	25	2360	40	5	15	0	45	0
2区	包含層	点数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		重量	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0
	一括	点数	0	0	0	7	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0
		重量	0	0	0	20	0	0	5	0	0	0	0	10	0	0

第9表　04－1・2区の遺構外出土遺物組成



第80図　04－1区の遺構外出土遺物

基盤層の調査(第81～83・87・89図)

04－1区の北西辺および中央に、調査区の長辺に沿ったトレンチを設定して、遺構検出面下の基盤層の調査を行なった。トレンチの深さは約1.5mである。その結果、基盤層は単一な土層ではなく、おおむね粘土、粘シルト、砂シルト、砂質土、砂からなっていることが判明した。それら各質の層は、同質あるいは類似するものが一定のまとまりをもつ部分と、入り乱れた状態にある部分とに分かれている。また、山状に盛り上がった砂・砂シルト・砂質土の谷間に粘土・粘シルトが堆積するという状況も観察された。

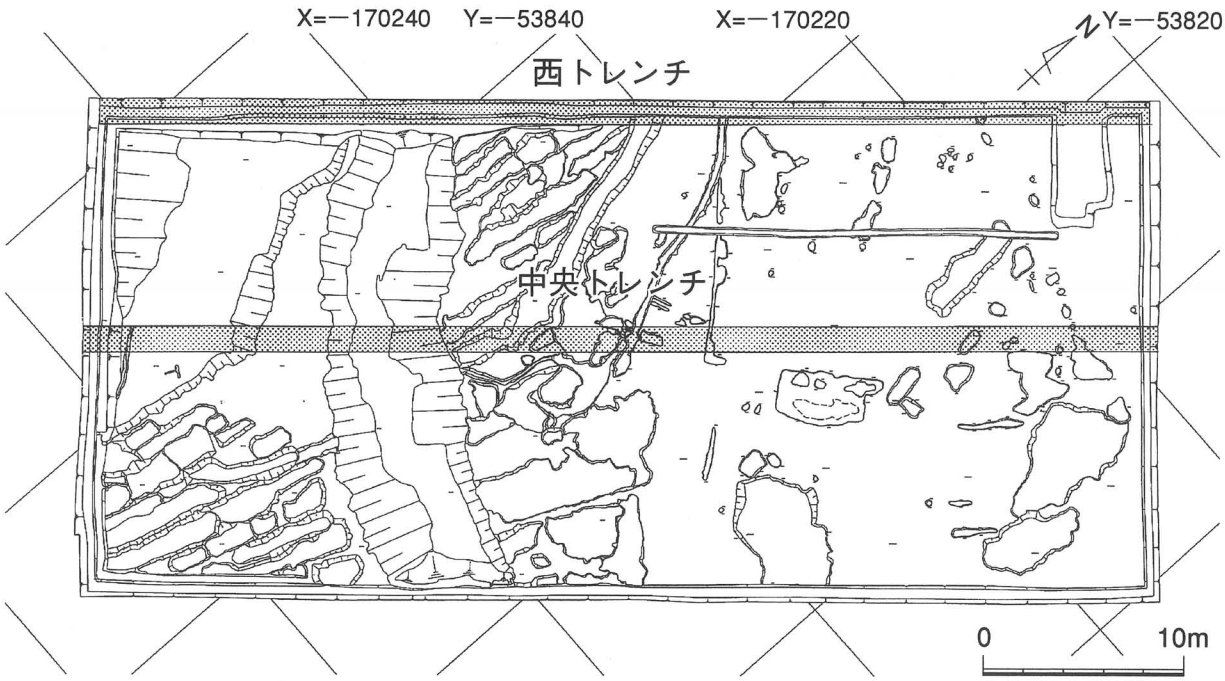
さらに両トレンチにおいて、ともに北東側では粘土や粘シルトが、南西側では砂・砂シルト・砂質土が基盤層の構成主体をなしていることが判明した。その境界は080溝付近である。この点は重要で、近世・近代の土地利用と大きく関わっている。

また、砂層中には径1～3cmほどの礫が多包されることもあるが、その他の土質層では礫の包含は少ないことも判明した。この点も、長方形土坑内の堆積土に含まれた礫の供給源を考える上で参考となる。

			弥生中期中葉	弥生中期後半	弥生後期	弥生一括	庄内	弥生～古墳	炻器	その他
中央トレンチ	0～30cm	点数	0	1	0	22	3	0	1	1
		重量	0	5	0	120	35	0	30	30
	30～60cm	点数	1	1	0	0	0	0	0	0
		重量	30	30	0	0	0	0	0	0
	60～90cm	点数	0	0	0	1	0	0	0	0
		重量	0	0	0	10	0	0	0	0
	90～100cm	点数	0	0	0	3	0	0	0	0
		重量	0	0	0	25	0	0	0	0
	100～150cm	点数	0	0	0	2	0	0	0	1
		重量	0	0	0	25	0	0	0	10
西トレンチ	0～30cm	点数	0	0	1	0	0	8	0	0
		重量	0	0	10	0	0	85	0	0
	60～90cm	点数	0	0	0	1	0	0	0	0
		重量	0	0	0	75	0	0	0	0
	100～150cm	点数	0	0	0	0	0	1	0	0
		重量	0	0	0	0	0	20	0	0
	150～180cm	点数	0	0	0	0	0	4	0	0
		重量	0	0	0	0	0	20	0	0

第10表　トレンチ出土遺物組成

基盤層内からは51点・550gの遺物が出土した。中央トレンチの掘削面下0～30cmで炻器の擂鉢1点・30g(1)とサヌカイト片1点・30g、100～150cm間で縄文土器1点・10g(16)が検出されたほかは、いずれも弥生中期中葉～古墳時代の土器である。これらの土器の1点当たりの重量は平均10.2gにしか過ぎず、しかも点数比で中央トレンチでは77.8%、北西トレンチでは60.0%が0～30cm間からの出土であることから、いずれも基盤層上面からの混入品とみられる。



第81図　04−1区トレンチ位置

出土遺物のうち、復元実測できたものはないが、拓影2点を示し得た。477は縄文後期の浅鉢である。中央トレンチの北東端より5〜10m間、深さ100〜150cmの灰色系砂層から出土した。78〜81層に該当する。501は炻器の擂鉢である。近世以降のものである。中央トレンチの北東端より30〜35m間の深さ0〜30cm部分で出土した。破片の大きさと出土位置から考えて、基盤層上面に生じた亀裂に落ち込んだものであろう。

(3)　04−2区の調査

河道1(第84〜86図)

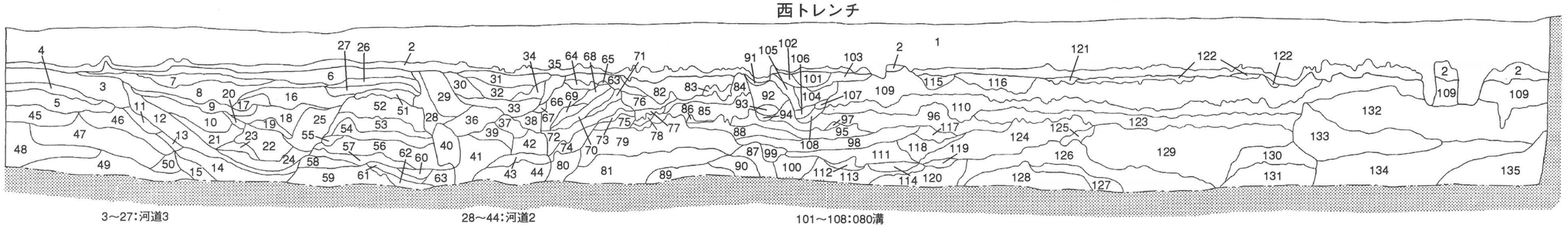
04−2区の北東半を占める自然河道である。南岸は検出されたが、北岸は調査区外にあり、河道幅を捉えることができない。現状での最大幅は12mを測る。

岸壁の立上がりは割合に直線的で、04−1区の河道2や河道3でみられたテラス状の平坦面はここでは存在しなかった。底面はなだらかに西方に下降していて、起伏はほとんどみられない。深さは西端で1.6m、東端では現状0.8mほどを測る。また横断方向の土層からは、南壁側から埋没が進んだように観察される。

河道内堆積土は、僅かに砂シルト層が認められるものの、大半は砂である。しかも各砂層には礫が多少なりとも包含されている。砂シルトはベルト1の14・24層、ベルト2の22層、ベルト3の22層で、14層以外は崩れた壁体の再堆積土である。

出土遺物は9点・380gを数える。そのうち3点・55gは弥生中期後半の土器、4点・35gは弥生〜古墳時代の土器で、いずれも検出面下0〜30cm間で検出された。これに対し、60〜90cmの深さで出土した2点・290gは縄文土器である。0〜30cm間検出の7点は、その層位と、1点当たり12.9gという小ささから、河道上からの混入の可能性があるが、60〜90cm下で出土した2点はこの河道の

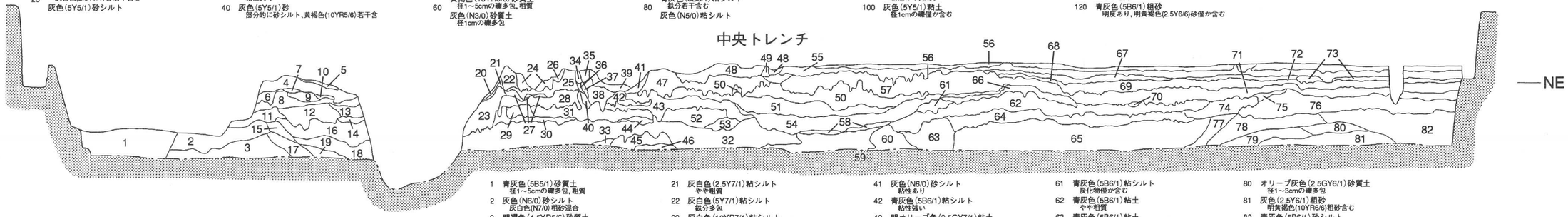
西トレンチ



3～27:河道3　28～44:河道2　101～108:080溝

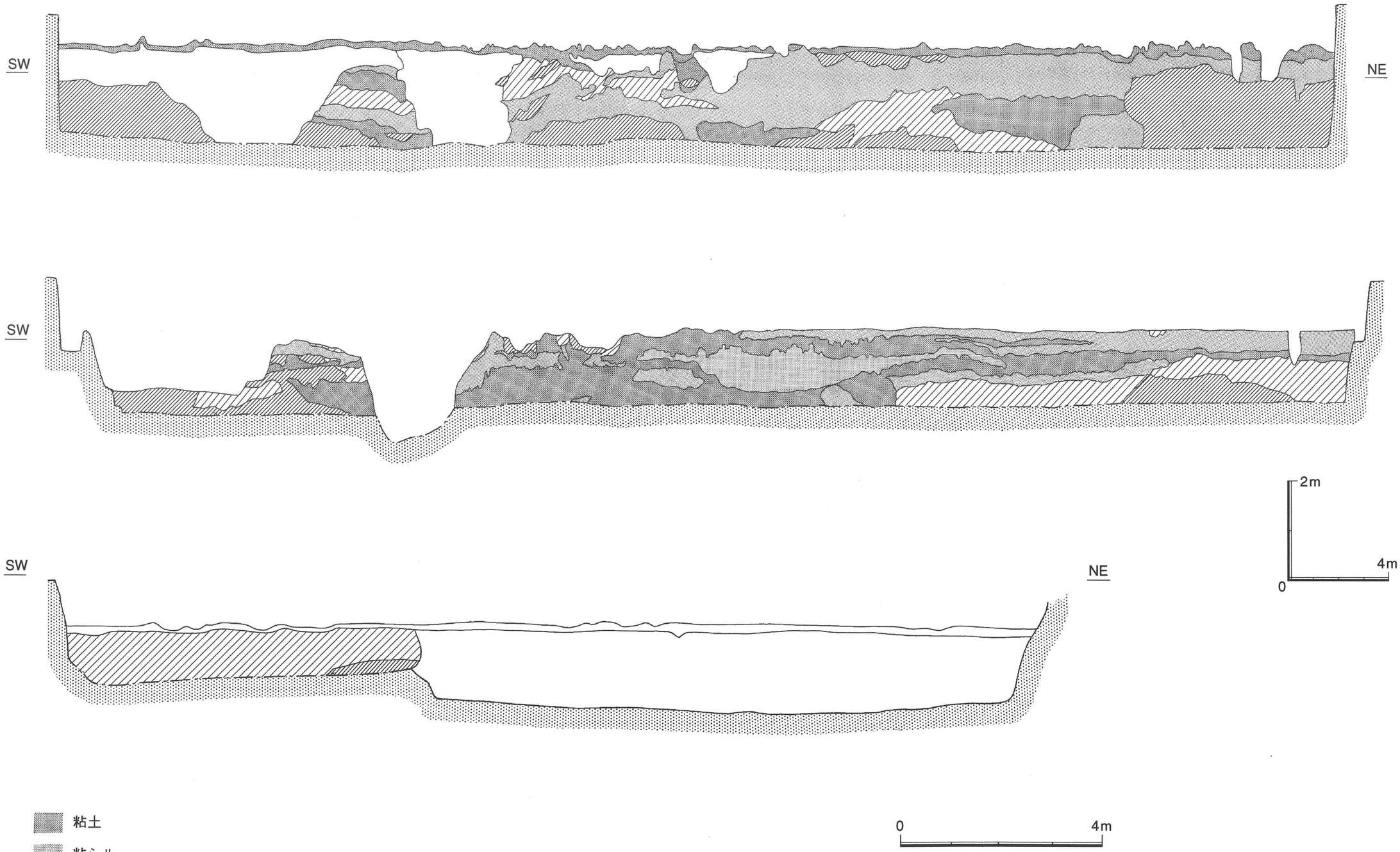
1 盛土
2 暗灰色(N3/0)粘土
旧耕作土，粗質
3 灰色(5Y4/1)粘土
粗質，鉄分多包
4 灰色(5Y5/1)粘土
粗質，鉄分多包
5 黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト
粗質，粘性やや欠く，鉄分含む
6 明黄褐色(2.5Y6/6)砂シルト
粗質
7 青灰色(10BG6/1)砂シルト
細質，粘性欠く
8 灰オリーブ色(5Y6/2)砂シルト
粗質，灰色(N6/0)灰色粘シルト僅か含む
9 青灰色(10BG6/1)砂シルト
粘性欠く，鉄分若干含む
10 灰色(N5/0)砂シルト
粘性欠く，有機物含む
11 黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
有機物含む
12 黄灰色(2.5Y5/1)粘土
細質，有機物含む
13 黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
径1～5cmの礫多包
14 黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
暗味ややあり，粘性欠く
15 灰色(N5/0)粗砂
紫黒(5P2/1)粘土僅か含む
16 にぶい黄色(2.5Y6/3)粗砂
径1～3cmの礫若干含む，粘性欠く
17 にぶい黄色(2.5Y6/3)細砂
黄灰色(2.5Y6/1)砂若干含む
18 明黄褐色(10YR6/6)砂質土
径1～5cmの礫多包，粗質
19 黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
灰白色(2.5Y7/1)砂若干含む
20 灰色(5Y5/1)砂シルト
21 灰色(N5/0)砂シルト
灰色(N4/0)粘シルトがラミナー状に堆積，細質
22 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト混合
23 灰白色(N7/0)砂シルト
明黄褐色(10YR6/6)細砂がラミナー状に堆積，細質
24 灰色(N5/0)砂シルト
暗味ややあり，青黒色(5PB)粘土がラミナー状に堆積
25 灰黄色(2.5Y6/2)粗砂
径1～5cmの礫含む
26 灰色(7.5Y6/1)砂シルト
細質，鉄分含む
27 灰オリーブ色(5Y6/2)砂シルト
細質，鉄分含む
28 褐色(10YR4/6)粗砂
径3～5cmの礫含む
29 にぶい黄橙色(10YR6/3)粗砂
径3～5cmの礫若干含む
30 にぶい黄色(10YR5/4)砂質土
粗質，径3～5cmの礫含む
31 黄褐色(10YR5/6)粗砂
径3～5cmの礫若干含む
32 黄褐色(10YR5/8)粗砂
径1～5cmの礫含む
33 にぶい黄橙色(10YR6/3)粗砂
径3～5cmの礫若干含む
34 暗灰黄色(2.5Y5/2)粗砂
径1～5cmの礫僅か含む
35 褐色(10YR4/4)粗砂
径1～3cmの礫含む
36 明黄褐色(10YR6/6)細礫
灰白色(2.5Y7/1)砂シルト若干含む
37 灰黄褐色(10YR6/2)粗砂
径3～5cmの礫若干含む
38 灰色(5Y6/1)砂
細質
39 黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
粘性欠く
40 灰色(5Y5/1)砂
部分的に砂シルト，黄褐色(10YR5/6)若干含
41 橙色(7.5YR6/8)砂質土
径1～5cmの礫多包
42 灰黄色(2.5Y6/2)砂
灰色(5Y5/1)砂若干含む
43 黄灰色(2.5Y6/1)粗砂
径3～5cmの礫若干含む
44 明褐色(7.5Y5/6)粗砂
灰白色(2.5Y7/1)砂若干含む
45 灰黄色(2.5Y7/2)砂
径1～3cmの礫僅か含む
46 黄褐色(10YR5/6)砂質土
径1～3ｃｍの礫多包，灰黄褐色(2.5Y7/2)砂若干含む
47 灰色(5Y5/1)細砂
径1cm礫若干含む
48 にぶい黄色(2.5Y6/3)砂
径1cm以下の細礫含む，細質
49 黄灰色(2.5Y6/1)粗砂
黄褐色(10YR5/6)砂若干含む
50 暗灰黄色(2.5Y5/2)粗砂
径1～3cmの礫若干含む
51 灰色(N5/0)粘シルト
粘性やや欠く
52 灰色(N5/0)粘土
粘性あり，細質，鉄分含む
53 青灰色(5B5/1)粘シルト
明黄褐色(2.5Y7/6)粗砂若干含む
54 青灰色(5B5/1)砂シルト
黄褐色(10YR5/6)粗砂若干含む，粘性欠く
55 灰色(N5/0)粘シルト
細質
56 青灰色(5B5/1)粘シルト
粘性あり
57 灰色(N4/0)粘土
青味ややあり，粘性あり
58 灰色(5Y5/1)砂質土
径1～5cmの礫多包，粗質
59 黄褐色(10YR5/6)砂質土
径1～5cmの礫多包，粗質
60 灰色(N3/0)砂質土
径1cmの礫多包
61 灰色(N4/0)粘土
粘性あり
62 灰色(N4/0)粘土
橙色(7.5YR6/8)粗砂混合，径1cmの礫多包
63 青灰色(5BG6/1)粘土
粘性あり
64 灰黄色(2.5Y7/2)砂シルト
細質，鉄分若干含む
65 黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
青味ややあり
66 灰白色(2.5Y7/1)砂シルト
細質，鉄分僅か含む
67 灰白色(2.5Y7/1)砂
細質
68 灰白色(10YR7/1)砂
やや粗質，灰色(10YR6/1)僅か含む
69 黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
明度ややあり，鉄分若干含む
70 黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
明黄褐色(10YR6/8)砂若干含む
71 灰色(7.5YR6/1)砂シルト
細質，粘性ややや欠く
72 灰色(N6/0)粘シルト
明黄褐色(10YR6/8)砂がラミナー状に堆積，有機物含む
73 灰色(N6/0)粘シルト
暗味あり，粘性ややや欠く
74 灰白色(7.5Y7/1)砂
明黄褐色(10YR6/8)砂がラミナー状に堆積
75 灰色(N6/0)粘シルト
鉄分若干含む
76 灰黄褐色(10YR6/2)砂シルト
明青灰色(10BG7/1)粘シルト若干含む
77 灰オリーブ色(5Y6/2)砂シルト
灰色(5Y7/1)砂シルト若干含む，粘性欠く
78 灰色(N6/0)粘シルト
青味ややあり，細質，粘性ややや欠く
79 青灰色(5B6/1)粘シルト
鉄分若干含む
80 灰色(N5/0)粘シルト
81 灰色(5Y5/1)粗砂
黄褐色(10YR5/6)砂若干含む
82 黄褐色(10YR5/6)粗砂
径3～5cmの礫多包
83 灰黄褐色(10YR5/2)粗砂
明度あり
84 灰色(5Y6/1)粘シルト
鉄分若干含む
85 灰色(5Y5/1)砂シルト
粘性ややや欠く
86 灰オリーブ色(5Y6/2)砂シルト
細質
87 青灰色(5B6/1)粘シルト
粘性ややや欠く
88 灰白色(2.5Y7/1)砂シルト
粘性ややや欠く，鉄分僅か含む
89 褐灰色(10YR5/1)粗砂
径1～3cmの礫若干含む
90 黄灰色(2.5Y6/1)粗砂
径1～3cmの礫若干含む
91 明褐色(7.5YR5/6)粗砂
径1cmの礫僅か含む
92 灰色(N6/0)粘土
鉄分若干含む
93 にぶい黄色(2.5Y6/3)粗砂
径1cm以下の細礫多包
94 灰色(N5/0)粘土
細質
95 青灰色(5B6/1)粘シルト
鉄分僅か含む
96 灰色(N5/0)粘シルト
やや粗質
97 青灰色(5B5/1)粘土
青味あり，粘性強い
98 青灰色(5B6/1)粘シルト
細質
99 灰色(N6/0)粘シルト
粘性あり，細質
100 灰色(5Y5/1)粘土
径1cmの礫僅か含む
101 灰白色(5Y7/1)砂
細質
102 灰黄色(2.5Y6/2)砂
径1cmの礫僅か含む
103 黄褐色(2.5Y5/6)粗砂
径1cmの礫僅か含む
104 灰黄色(2.5Y6/2)粗砂
径1cmの礫含む
105 黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
黄褐色(10YR5/6)粗砂をラミナー状に混合
106 灰黄褐色(10YR6/2)砂
やや粗質
107 灰色(5Y5/1)粘土
細質
108 橙色(7.5YR6/6)砂
やや粗質
109 黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト
鉄分若干含む
110 青灰色(5B5/1)粘シルト
細質
111 青灰色(5B5/1)粘シルト
炭化物僅か含む
112 灰色(N5/0)粘土
粘性強い，有機物含む
113 灰色(7.5Y4/1)粘土
粘性強い，有機物・炭化物含む
114 青灰色(5B5/1)粘土
細質，鉄分僅か含む
115 褐色(10YR4/6)粗砂
径1cmの礫多包
116 にぶい黄橙色(10YR6/4)粗砂
褐灰色(10YR5/1)粗砂混合
117 青灰色(5B6/1)粘シルト
鉄分含む，細質
118 青灰色(5B5/1)粘シルト
青味やや強い，鉄分若干含む
119 青灰色(5B5/1)砂シルト
やや粗質
120 青灰色(5B6/1)粗砂
明度あり，明黄褐色(2.5Y6/6)砂僅か含む
121 黄褐色(2.5Y5/4)砂シルト
粗質
122 黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト
粗質
123 灰色(5Y6/1)粘シルト
青灰色(5B6/1)粘シルト若干含む
124 青灰色(5B5/1)砂シルト
青味あり，鉄分若干含む
125 青灰色(10BG5/1)粘土
青味あり，炭化物若干含む
126 青灰色(5B5/1)砂シルト
青味あり，やや粗質
127 青灰色(5B5/1)砂シルト
粗質，径1～3cmの礫含む
128 灰色(5Y5/1)砂質土
粗質，径1～3cmの礫多包
129 青灰色(5B5/1)粘土
青味あり，炭化物僅か含む
130 青灰色(5B6/1)粘シルト
青味あり，細質，粘性あり
131 青灰色(5B6/1)粘シルト
粘性ややや欠く，鉄分含む
132 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
粗質，径1～5cmの礫多包
133 褐色(10YR4/6)砂質土
粗質，径1～5cmの礫多包
134 褐色(10YR5/6)砂質土
粗質，径1～5cmの礫多包
135 褐色(10YR5/6)砂質土
粗質，径1～5cmの礫多包，黄灰色(2.5Y5/1)粗砂含む

中央トレンチ

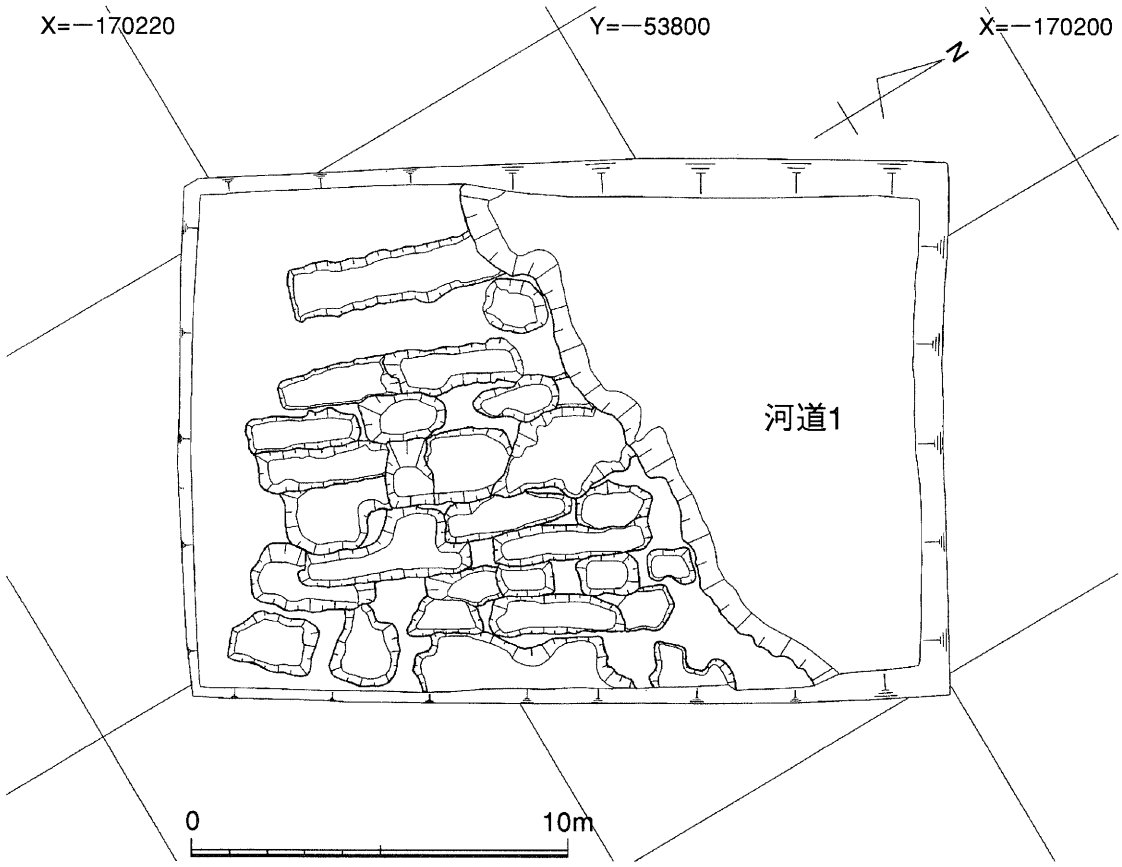


1 青灰色(5B5/1)砂質土
径1～5cmの礫多包，粗質
2 灰色(N6/0)砂シルト
灰白色(N7/0)粗砂混合
3 明褐色(4.5YR5/6)砂質土
径1～3cmの礫多包，粗質
4 灰色(N6/5)粘シルト
粗質，粘性ややや欠く
5 明褐色(7.5YR5/6)砂シルト
縞りあり
6 灰色(5Y6/1)粗砂
縞り欠く
7 灰色(N6/5)粘シルト
灰色(5Y6/1)粗砂混合
8 灰色(7.5Y6/1)粘土
灰色(7.5Y6/1)粗砂僅か含む
9 灰白色(7.5Y8/1)粗砂
明褐色(7.5YR5/6)粗砂若干含む
10 灰色(N6/0)砂シルト
灰白色(2.5Y7/1)砂僅か含む
11 灰色(7.5Y6/1)粗砂
灰白色(2.5Y7/1)砂僅か含む
12 灰色(2.5Y7/1)粗砂
灰色(5Y6/1)砂シルト僅か含む
13 灰色(N6/0)灰色砂シルト
灰白色(2.5Y7/1)砂僅か含む
14 緑灰色(5G6/1)砂シルト
細質
15 灰白色(5Y7/1)粗砂
黄灰色(2.5Y5/1)粗砂混合
16 灰色(N6/0)粘土
粘性・縞りあり
17 明褐色(7.5YR5/6)粗砂
径1～3cmの礫僅か含む
18 灰色(N4/0)粘土
有機物含む
19 灰色(N5/0)砂質土
粗質，径1～3cmの礫含む
20 明褐色(7.5YR5/6)砂シルト
細質
21 灰白色(2.5Y7/1)粘シルト
やや粗質
22 灰白色(5Y7/1)粘シルト
鉄分多包
23 灰白色(10YR7/1)粘シルト
縁味ややあり，鉄分含む
24 褐色(10YR4/4)粗砂
縞りややあり
25 灰色(N6/0)粘土
鉄分含む
26 明褐色(7.5YR5/6)粘シルト
灰色(N6/0)粘土若干含む
27 灰色(N6/0)粘シルト
やや粗質
28 オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘シルト
細質
29 明青灰色(5B7/1)粘土
細質
30 青灰色(5B6/1)粘土
やや淡い
31 青灰色(5B6/1)粘土
細質
32 青灰色(5B6/1)粘土
やや粗質
33 青灰色(5B6/1)粘シルト
やや粗質
34 暗灰色(N3/0)砂シルト
有機物含む
35 灰色(N4/0)砂シルト
やや粗質
36 暗灰色(N3/0)粘土
暗味あり
37 暗灰色(N3/0)粘シルト
粗質
38 灰色(N5/0)粘土
灰色(N6/0)粗砂混合
39 灰白色(5Y7/1)粗砂
灰色(N6/0)粘シルトがラミナー状に堆積
40 灰色(N6/0)砂シルト
粘性あり
41 灰色(N6/0)粘シルト
粘性あり，細質，鉄分含む
42 青灰色(5B6/1)粘シルト
粘性強い
43 明オリーブ色(2.5GY7/1)粘土
部分的に粘シルト，鉄分僅か含む
44 青灰色(5B6/1)粘土
青味あり，やや粗質
45 青灰色(5BG6/1)粘土
鉄分多包，硬質
46 青灰色(5BG6/1)粘土
青味・粘性あり
47 灰色(N7/0)粘土
鉄分多包
48 灰色(N6/0)粘土
灰白色(5Y7/1)粗砂混合
49 灰白色(5Y7/1)粘土
粘性ややや欠く，硬質
50 青灰色(5B6/1)粘シルト
青味あり，細質
51 灰色(N6/0)粘シルト
やや粗質
52 青灰色(5B5/1)粘シルト
細質
53 青灰色(5B6/1)粘シルト
細質
54 青灰色(5B5/1)粘シルト
細質，炭化物僅か含む
55 灰色(N6/0)粘シルト
やや粗質，鉄分僅か含む
56 灰色(N7/0)粘シルト
部分的に暗味強い，粗質
57 灰色(N6/0)粘土
粘性ややや欠く，鉄分多包
58 青灰色(5B6/1)粘シルト
明度あり，細質
59 灰色(N4/0)粘土
粘性あり，炭化物含む
60 青灰色(5B6/1)粘シルト
細質，炭化物僅か含む
61 青灰色(5B6/1)粘シルト
炭化物僅か含む
62 青灰色(5B6/1)粘土
やや粗質
63 青灰色(5B6/1)粘土
青味強い，硬質
64 青灰色(5B6/1)粘シルト
炭化物僅か含む
65 青灰色(5B6/1)砂シルト
明度あり，有機物含む
66 灰白色(5Y7/1)粘シルト
粘性あり，鉄分多包
67 灰色(N6/0)粘土
硬質，鉄分含む
68 黄褐色粘土(10YR5/6)粘土
粘性ややや欠く，鉄分多包
69 灰白色(N7/0)粘シルト
粘性ややや欠く，鉄分多包
70 灰色(N4/0)粘土
粘性あり，炭化物含む
71 明黄褐色(10YR6/6)粘シルト
細質
72 明黄褐色(10YR6/8)砂シルト
粗質，粘性ややや欠く
73 青灰色(10BG6/1)粘シルト
褐色味あり，細質
74 青灰色(5B6/1)粘シルト
青味強い，粘性ややや欠く
75 灰色(7.5Y5/1)粘土
灰白色(7.5Y7/1)砂含む
76 青灰色(5B6/1)砂シルト
オリーブ灰色(2.5GY6/1)粗砂混合，粗質
77 青灰色(5B6/1)砂シルト
やや粗質，炭化物僅か含む
78 オリーブ灰色(2.5GY6/1)粗砂
灰色(N6/0)粗砂・灰白色(5Y7/1)粗砂混合
79 オリーブ灰色(2.5GY6/1)粗砂
灰色(N6/0)粘シルト僅か含む
80 オリーブ灰色(2.5GY6/1)砂質土
径1～3cmの礫多包
81 灰色(2.5GY6/1)粗砂
明黄褐色(10YR6/6)粗砂含む
82 青灰色(5B6/1)砂シルト
青味あり，粘性ややや欠く

第82図　04-1区トレンチ内土層



第83図　04-1・2区トレンチ内土層概念



第84図　04－2区の主要検出遺構

埋没時期を示す可能性が高い。

出土土器のうち、図示し得たものは504・505の2点のみである。ともに縄文土器である。そしてこの2点が河道1の埋没時期を示していると考えられる。

504は浅鉢で、屈曲して内湾する口縁部を認めることができる。口縁部には巻貝条痕が認められる。縄文後期後半～晩期前葉のものである。505は深鉢で、外反気味に立上がる胴部の破片である。上方で2条、下方で現状2条の凹線文が認められる。内外面ともヘラナデ調整がなされている。時期は縄文後期後半。

時期・系統		弥生中期後半		弥生～古墳	縄文
器種		壺	甕	器種不明	
0～30cm	点数	1	2	4	0
		3			0
	重量	10	45	35	0
		55			0
60～90cm	点数	0	0	0	2
	重量	0	0	0	290

第11表　河道1出土遺物組成

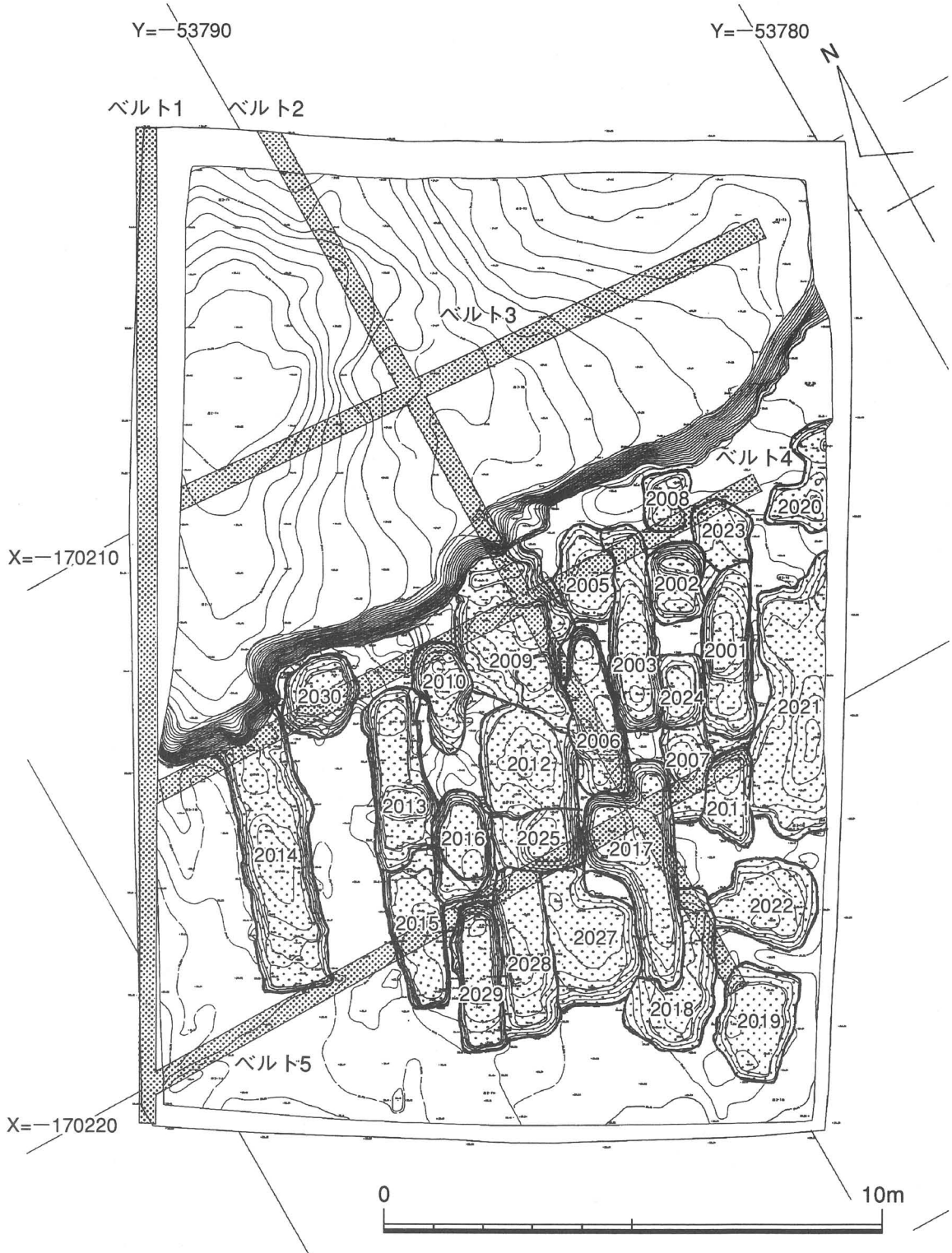
なお河道1の下降方向、すなわち、西あるいは北西方向に延伸すると、03－1区のNR005につながる。NR005ではごく少量の弥生～古墳時代の土器小片が出土しているので、河道1とは包含遺物の状況が異なる。よって両遺構が同一のものとは断定できないが、NR005出土の土器が河道埋没後の上部を覆う堆積土内に含まれていたもので、NR005へ混入したとすれば、河道1とNR005を同一の自然河道と捉え、埋没時期を縄文後期～晩期に求めることもできよう。

長方形土坑群(第84～86図)

04－2区の南西半、すなわち河道1の南岸に広がっている。28基の長方形土坑を数えた。土坑は、河道1南岸と接するものもあるが、ほとんどが重複していない。また調査区南西辺までにも分布

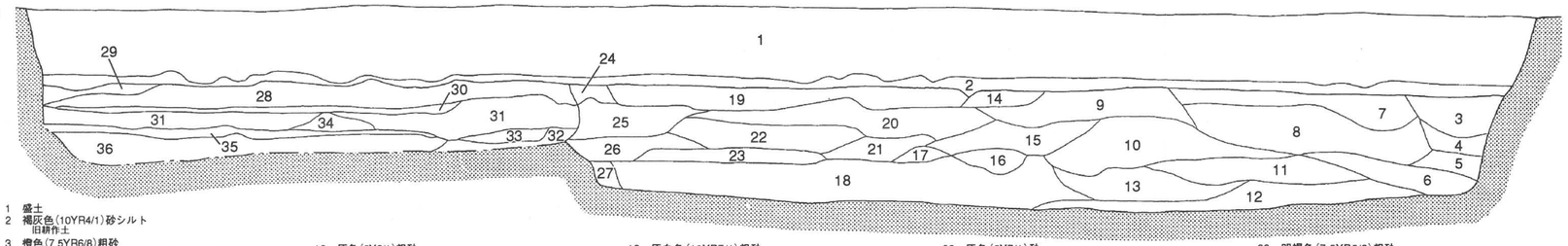
が延びていない。つまり土坑群は、南北方向には11m以内の広がりで収まっている。

土坑の規模は、調査区外に延び出ているものを除くと、2008の長軸120cm、短軸95cm、2024の長軸150cm、短軸80cmが最小の部類、片短辺を河道1と重複していてもなお長軸565cm、短軸140cmを測る2014が最大である。2008の面積は1.14㎡、2024が1.20㎡、これに対して2014が7.91㎡であり、約7倍の開きがある。



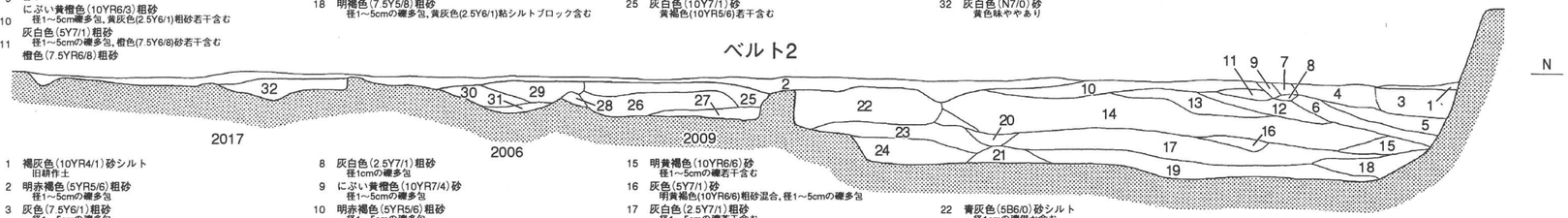
第85図　04−2区土層観察ベルトの位置

ベルト1



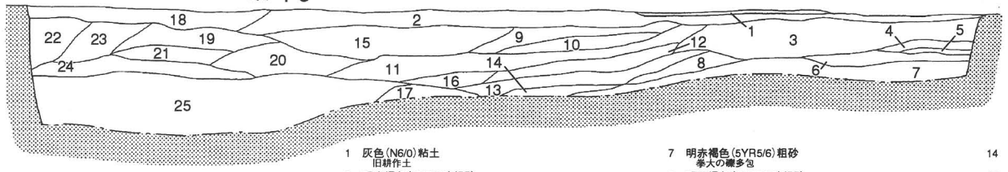
1 盛土
2 褐灰色(10YR4/1)砂シルト
旧耕作土
3 橙色(7.5YR6/8)粗砂
径1～5cmの礫多包,灰色(5Y4/1)砂若干含む
4 黄褐色(2.5Y5/6)粗砂
径1～5cmの礫含む,暗味あり
5 褐色(10YR4/6)粗砂
径1～3cmの礫多包,灰色(5Y4/1)粗砂若干含む
6 明褐色(7.5YR5/8)粗砂
黄灰色(2.5Y6/1)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
7 黄橙色(10YR7/8)粗砂
径1～5cmの礫多包,灰白色(10YR7/1)砂若干含む
8 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
灰黄色(2.5Y6/2)砂がラミナー状に堆積,径1～5cmの礫含む
9 にぶい黄橙色(10YR6/3)粗砂
10 径1～5cm礫多包,黄灰色(2.5Y6/1)粗砂若干含む
11 灰白色(5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包,橙色(7.5YR6/8)砂若干含む
橙色(7.5YR6/8)粗砂
12 灰色(5Y6/1)粗砂
灰黄色(10YR6/2)粗砂混合,径1～3cmの礫多包
13 明赤褐色(5YR5/8)粗砂
径1～5cmの礫多包,灰白色(10YR7/1)粗砂含む
14 灰黄褐色(10YR6/2)砂シルト
径1～3cmの礫若干含む,粗質
15 灰黄色(10YR6/2)粗砂
径1～3cmの礫若干含む
16 灰白色(10YR7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包,にぶい黄橙色(10YR6/3)粗砂若干混入
17 灰白色(5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包,明黄褐色(10YR6/8)粗砂若干混入
18 明褐色(7.5Y5/8)粗砂
径1～5cmの礫多包,黄灰色(2.5Y6/1)粘シルトブロック含む
19 灰白色(10YR7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包
20 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包
21 灰黄褐色(10YR6/2)粗砂
橙色(7.5YR6/8)粗砂混合,径1～3cmの礫若干含む
22 灰色(7.5Y6/1)粗砂
径1～3cmの礫多包
23 灰白色(2.5Y8/1)粗砂
径1～3cmの礫若干含む,粗質
24 にぶい黄橙色(10YR7/2)砂シルト
径1cmの礫若干含む,粘性欠く
25 灰白色(10Y7/1)砂
黄褐色(10YR5/6)若干含む
26 灰色(5Y7/1)砂
細質,灰白色(7.5Y8/1)細砂がラミナー状に堆積
27 黄灰色(2.5Y6/1)粗砂
径1～5cmの礫多包
28 にぶい黄橙色(10YR7/2)砂シルト
径1cmの礫若干含む,やや粗質,粘性あり
29 灰白色(5Y7/1)砂シルト
径1～5cmの礫含む,粗質,粘性欠く
30 明黄褐色(10YR6/8)砂シルト
部分的に粗質,粘性ややあり
31 黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
部分的に粗質,粘性ややあり
32 灰白色(N7/0)砂
黄色味ややあり
33 明褐色(7.5YR5/6)粗砂
径5cmの礫含む
34 黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
灰白色(5Y7/1)粗砂混合,粗質
35 灰白色(N7/0)砂シルト
明黄褐色(10YR6/8)砂若干含む
36 灰色(N6/0)砂シルト
明黄褐色(2.5Y6/8)砂僅かに含む,粘性あり

ベルト2



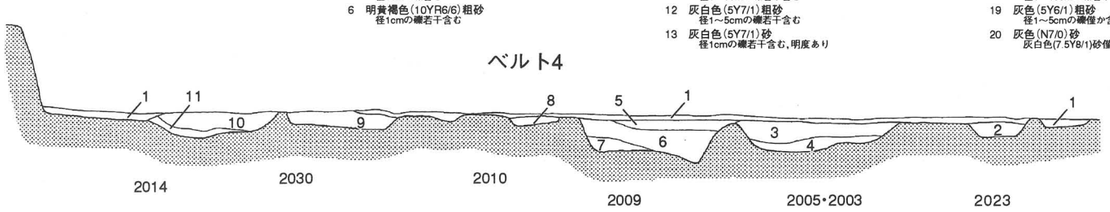
1 褐灰色(10YR4/1)砂シルト
旧耕作土
2 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
径1～5cmの礫多包
3 灰色(7.5Y6/1)粗砂
径1～5cmの礫多包
4 灰黄色(2.5Y6/2)粗砂
径1～5cmの礫若干含む
5 灰色(5Y6/1)粗砂
径5cmの礫僅か含む
6 灰色(5Y6/1)粗砂
径1～5cmの礫多包
7 黄灰色(2.5Y6/1)粗砂
径1～5cmの礫多包
8 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
径1cmの礫多包
9 にぶい黄橙色(10YR7/4)砂
径1～5cmの礫多包
10 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
径1～5cmの礫多包
11 黄灰色(2.5Y6/1)粗砂
径1cmの礫多包
12 灰白色(10YR7/1)砂
径1～5cmの礫若干含む
13 灰白色(2.5Y7/1)砂
浅黄色(2.5Y7/4)砂僅か含む
14 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包,明赤褐色(5YR5/6)砂僅か含む
15 明黄褐色(10YR6/6)砂
径1～5cmの礫若干含む
16 灰色(5Y7/1)砂
明黄褐色(10YR6/6)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
17 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫若干含む
18 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
径1～5cmの礫若干含む
19 橙色(7.5YR6/6)粗砂
灰白色(5Y7/1)砂混合,径1～10cmの礫若干含む
20 灰白色(7.5Y7/1)細砂
浅黄色(2.5Y7/4)砂がラミナー状に堆積
21 橙色(7.5YR6/6)砂
灰白色(7.5Y7/1)砂混合,径1～5cmの礫若干含む
22 青灰色(5B6/0)砂シルト
径1cmの礫僅か含む
23 灰白色(7.5Y7/1)細砂
明黄褐色(10YR7/6)砂僅か含む
24 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
径1～5cmの礫多包
25 青灰色(5B6/1)砂シルト
橙色(5YR6/8)砂若干含む,径1～5cmの礫多包
26 緑灰色(5G6/1)砂シルト
径1～5cmの礫多包
27 青灰色(5B6/1)砂シルト
径1～5cmの礫若干含む
28 灰白色(7.5Y7/1)砂シルト
径1～5cmの礫僅か含む
29 青灰色(5B6/1)砂シルト
橙色(5YR6/8)砂若干含む,径1～5cmの礫多包
30 緑灰色(5G6/1)砂シルト
径1～5cmの礫多包
31 青灰色(5B6/0)砂シルト
径1～5cmの礫若干含む
32 青灰色(5B6/1)砂シルト
明黄褐色(10YR6/8)粗砂混合,径1～5cmの礫多包

ベルト3



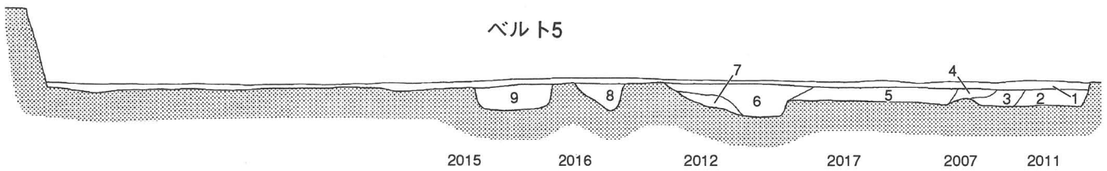
1 灰色(N6/0)粘土
旧耕作土
2 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
径1～5cmの礫多包
3 黄灰色(2.5Y5/1)粗砂
径1～10cmの礫多包
4 黄灰色(2.5Y7/1)砂
径1cmの礫若干含む
5 黄灰色(2.5Y7/1)砂
径1cmの礫含む
6 明黄褐色(10YR6/6)粗砂
径1cmの礫若干含む
7 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
拳大の礫多包
8 明黄褐色(10YR6/6)粗砂
径1cmの礫若干含む
9 灰白色(5Y7/1)砂
径1～10cmの礫若干含む,明褐色(7.5YR5/6)砂若干含む
10 灰白色(5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包
11 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫若干含む
12 灰白色(5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫若干含む
13 灰白色(5Y7/1)砂
径1cmの礫若干含む,明度あり
14 明赤褐色(5YR5/6)砂
やや粗質,灰白色(5Y7/1)砂僅か含む
15 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
径1～5cmの礫多包,明赤褐色(5YR5/6)砂僅か含む
16 明赤褐色(5YR5/6)砂
灰白色(5Y7/1)砂混合
17 橙色(7.5YR6/6)砂
灰白色(5Y7/1)砂混合,径1～10cmの礫若干含む
18 灰白色(2.5YR7/1)砂
径1～10cmの礫若干含む
19 灰色(5Y6/1)粗砂
径1～5cmの礫僅か含む
20 灰色(N7/0)砂
灰白色(7.5Y8/1)砂僅か含む
21 灰色(5Y6/1)砂
部分的に粗粒
22 灰色(5Y5/1)砂シルト
粗質,径1～5cmの礫若干含む
23 灰色(5Y5/1)粗砂
明赤褐色(5YR5/6)砂僅か含む
24 灰白色(2.5Y7/1)粗砂
径10cmの礫若干含む
25 明赤褐色(7.5Y5/6)粗砂
径10cmの礫多包

ベルト4



1 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
径1～5cmの礫多包
2 青灰色(5B6/1)砂シルト
明褐色(7.5YR5/6)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
3 青灰色(5B6/1)砂シルト
明褐色(7.5YR5/6)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
4 青灰色(5B6/1)砂シルト
径1～5cmの礫若干含む
5 青灰色(5B6/1)砂シルト
径1～5cmの礫若干含む
6 青灰色(5B6/1)砂シルト
径1～5cmの礫多包
7 青灰色(5B6/1)砂シルト
明褐色(7.5YR5/6)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
8 青灰色(5B6/1)砂シルト
径1～5cmの礫多包
9 青灰色(5B6/1)砂シルト
明褐色(7.5YR5/6)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
10 青灰色(5B6/1)砂シルト
明褐色(7.5YR5/6)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
11 青灰色(5B6/1)砂シルト
径1～5cmの礫若干含む

ベルト5



1 明赤褐色(5YR5/6)粗砂
径1～5cmの礫多包
2 青灰色(5B6/0)砂シルト
径1cmの礫僅か含む
3 青灰色(5B6/0)砂シルト
明黄褐色(10YR7/6)砂混合,径1～5cmの礫多包
4 灰白色(2.5Y7/1)砂
径1cmの礫多包
5 明青灰色(5B7/1)砂シルト
径1～5cmの礫若干含む
6 青灰色(5B6/1)砂シルト
径1～5cmの礫多包
7 青灰色(5B6/1)砂シルト
明黄褐色(10YR7/6)砂混合
8 青灰色(5B6/1)砂シルト
明褐色(7.5YR5/6)粗砂混合,径1～5cmの礫多包
9 青灰色(5B6/1)砂シルト
明黄褐色(10YR6/6)砂若干含む,径1～5cmの礫多包

0 4m

第86図　04-2区の土層

深さについてみると、浅いものは2019の14㎝、2008の18㎝で、一方深いものは2012の59㎝、2016の54㎝である。ただし、大半は30㎝台をピークに、20～40㎝台に収まる。

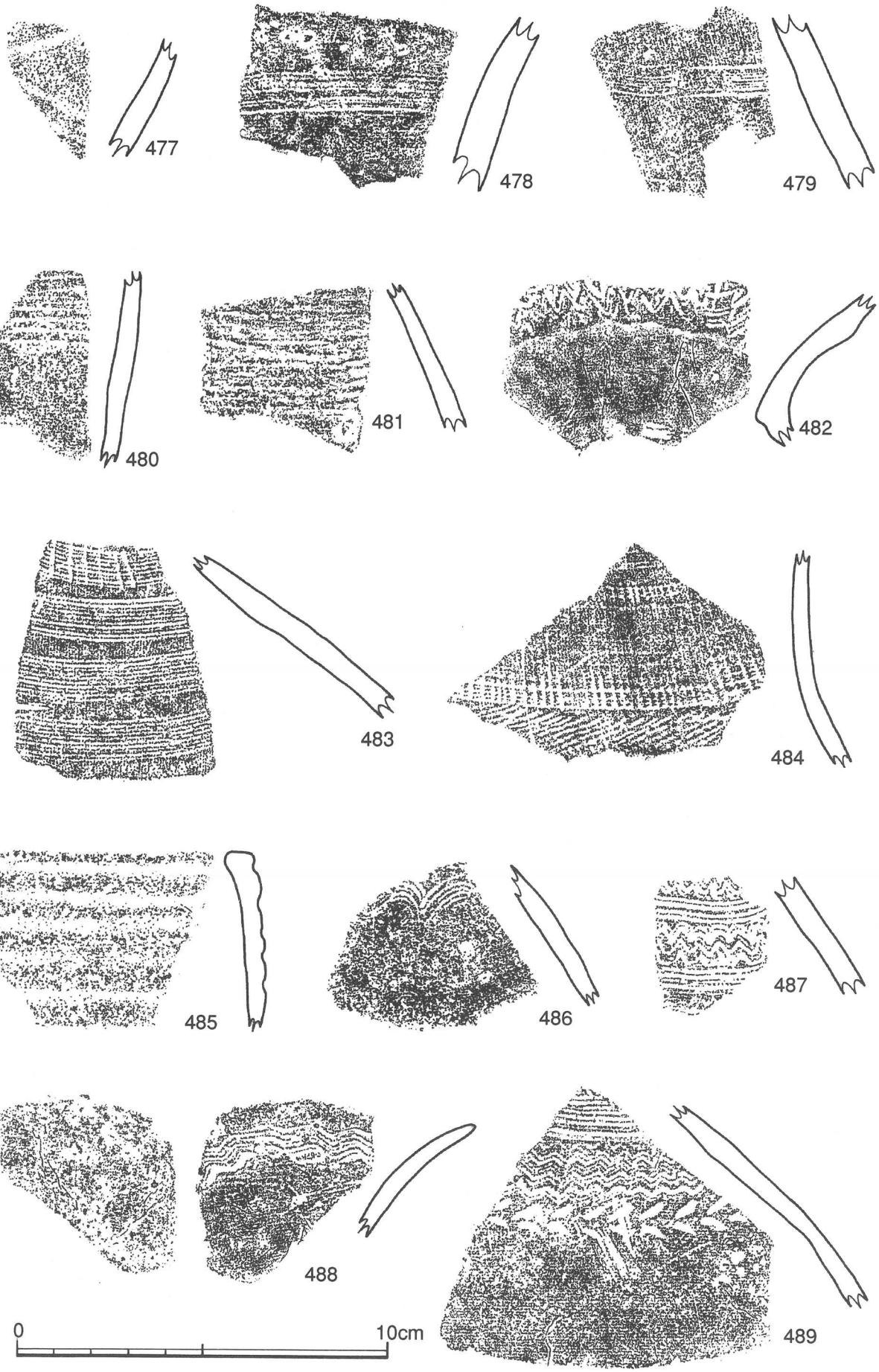
体積についてみると、0.2～2.4㎥の範囲で分布しているが、0.2～0.5㎥、0.7～1.4㎥、1.8～2.4㎥の3群に分かれる。そのなかでも、前2者の範囲に多くが集まっている。こうした傾向は、1区の長方形土坑とも一致していて、04－1・2区における長方形土坑群は同一の原理に基づいて形成されたといえる。

土坑内堆積土は、青灰色砂シルトを基調とするもの(2003・2005・2007・2009・2010・2011・2012・2014・2015・2016・2017・2023・2030)、青灰色砂シルトと緑灰色砂シルトとからなるもの(2006・2007)に分かれるが、いずれにせよこの04－2区の長方形土坑にあっては青灰色砂シルトが主体であり、またさらに大半では礫が包含されている。すなわち、青灰色砂シルトを基調とし、礫を含んだり、褐色系の砂を混入する場合が大半を占めるのである。

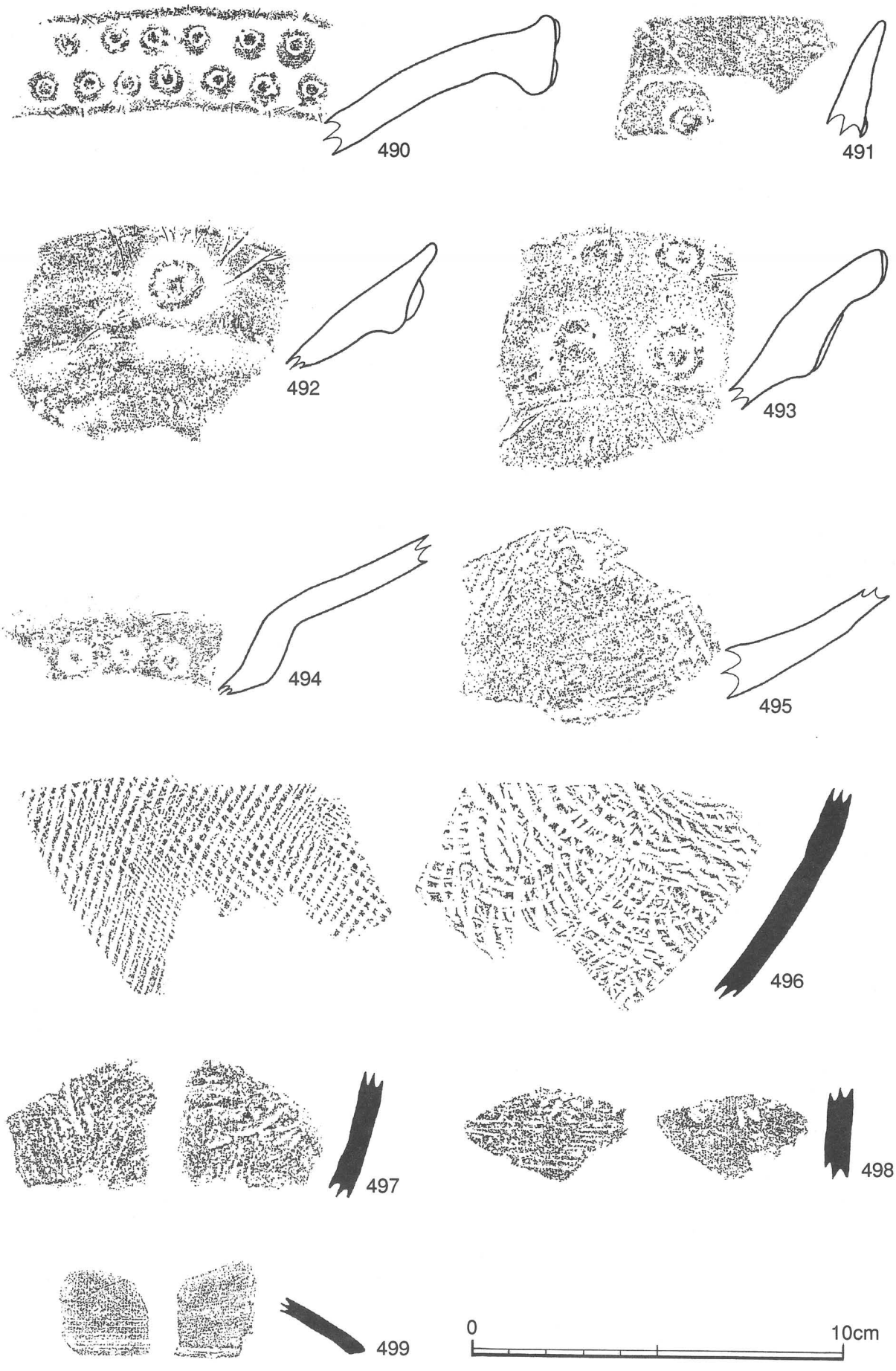
主体をなす堆積土がこの04－2区では青灰色砂シルトで、一方04－1区の長方形土坑では褐色系の砂質土だという違いはあるが、それを加味しても状況は極めて類似している。また、04－2

遺構番号	平面形	堆積土	上面		底面		高さ	体積	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
2001	長方形		350	100	266	76	47	1.3	切合大
2002	方形		160	110	122	84	33	0.5	切合小
2003	長方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	410	90	312	68	48	1.4	切合大
2005	方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	200	115	152	87	38	0.7	切合大
2006	長方形	青灰色砂シルト・緑灰色砂シルト(橙色砂混入)、礫多包	335	90	255	68	39	0.9	切合大
2007	方形	青灰色砂シルト・緑灰色砂シルト、礫多包	190	95	144	72	31	0.4	切合大
2008	方形		120	95	91	72	18	0.2	切合なし
2009	長方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	330	195	251	148	48	2.4	切合大
2010	方形	青灰色砂シルト、礫多包	225	95	171	72	52	0.9	切合小
2011	方形	青灰色砂シルト、礫含む	160	185	122	141	23	0.5	切合大
2012	方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	230	185	175	141	59	2.0	切合大
2013	長方形		355	110	270	84	43	1.3	切合中
2014	長方形	青灰色砂シルト、礫含む	565	140	429	106	34	2.1	切合小
2015	長方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	310	105	236	80	32	0.8	切合中
2016	長方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	220	120	167	91	54	1.1	切合大
2017	長方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	460	120	350	91	42	1.8	切合大
2018	長方形		320	155	243	118	23	0.9	切合大
2019	方形		220	140	167	106	14	0.3	切合なし
2020	不整形		225	154	171	117	20	0.5	切合大、調査区外に延びる
2021	長方形		590	270	448	205	32	4.0	切合大、調査区外に延びる
2022	方形		210	170	160	129	19	0.5	切合中
2023	方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	140	120	106	91	22	0.3	切合中
2024	方形		150	80	114	61	37	0.4	切合大
2025	方形		165	125	125	95	52	0.8	切合大
2026	方形		95	50	72	38	28	0.1	切合大
2027	長方形	青灰色砂シルト、礫含む	270	160	205	122	31	1.1	切合大
2028	長方形	青灰色砂シルト(明褐色砂混入)、礫多包	335	100	255	76	36	1.0	切合大
2029	長方形		290	85	220	65	43	0.8	切合中
2030	不整形	青灰色砂シルト(明黄褐色砂混入)、礫多包	175	145	133	110	49	0.8	切合なし

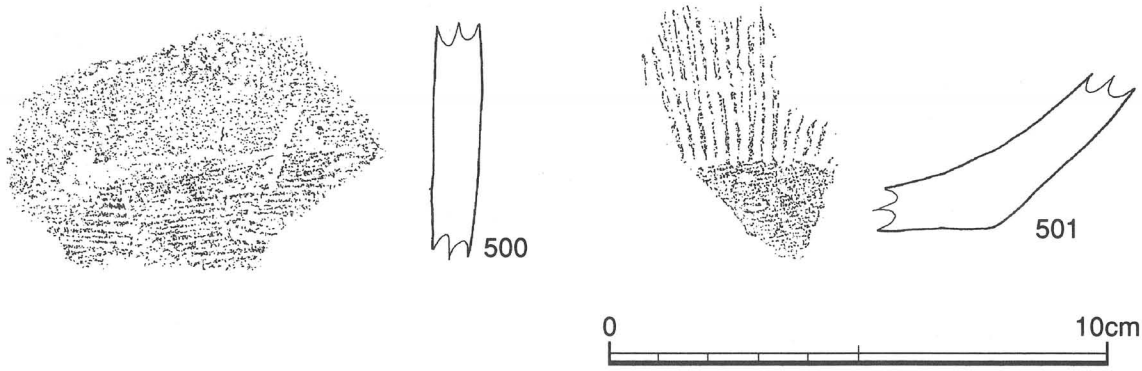
第12表　04－2区長方形土坑一覧



第87図　04-1・2区出土遺物拓影(1)



第88図　04-1・2区出土遺物拓影(2)



第89図　04−1・2区出土遺物拓影(3)

区では長方形土坑が形成される基盤層には青灰色砂シルトが認められず、土坑内堆積土と基盤層が相違している。この点は04−1区での状況と異なるが、しかし04−2区の基盤層もまた砂シルトからなっていて、土坑内への2次堆積による色調変化の可能性を考慮すれば、堆積過程は同じであったといえる。さらに、04−1区でも同様であるが、基盤層に礫を多包する層は見当たらないが、土坑内では礫が包含されている。こうしたことから、意図的な客土によって土坑内堆積土が形成されたと考えざるを得ない。

なお長方形土坑群の上面には礫を含んだ赤褐色粗砂が堆積している。04−1区でも、全面ではないが、灰白色系の砂の堆積が認められた。このことは、長方形土坑群が埋まりきってから、旧耕作土が形成されるまでの間に若干時間があったことを示す。

さらにいえば、長方形土坑の機能は、土坑内への土の堆積によって終了したのではなく、流水によって運ばれた砂が土坑上面を覆うことで終了したと考える。この土坑の機能に関する点は、改めて後述したい。

長方形土坑のうち、遺物が出土したのは2011・2012・2014の3基で、合計4点・20gの弥生〜古墳時代の土器が出土したにすぎない。また、1点当たり平均5gという小破片のため、いずれも図示できなかった。

基盤層の調査(第86図)

調査区北西辺に沿ってトレンチを設定し、河道底の確認と基盤層の調査を行なった。トレンチの深さは1.0〜1.2mである。

基盤層はおおむね類似していて、黄(褐)色系あるいは灰白色系の砂シルトからなっている。下部において砂層(32・33)が認められる部分もあるが、僅かな範囲であるにすぎない。また砂シルト層には、礫はほとんど含まれていない。長方形土坑群はこの砂シルト層内を掘り込んで形成されている。

各砂シルト層はほぼ水平に堆積している。ただ、下部で僅かにみつかった砂層の脇に砂シルトの36層が堆積している状況からすると、04−1区で認められたように、山状の砂層の谷間に溜まるように砂シルト層が形成されたとみられる。

基盤層からの遺物出土はなかった。

5　縄文土器・石器

(1)縄文土器(第90図)

2ヵ年度にわたる調査において、8点の縄文土器を確認した。そのうち5点を図化し、3点は拓影を掲載した。

502は注口土器。03－2区の遺構外出土遺物である。注口下部に現状5条の沈線が認められ、また注口部両脇に巻貝刺突がなされている。注口端部は僅かに欠損しているものの、ほぼ原形を保っている。後期に比定される。

503は縄文晩期の浅鉢。03－2区の遺構外出土遺物である。口縁部端内面に、1条の沈線が巡っている。

504・505は04－2区河道1の60～90cm下で出土したもので、先に取り上げた。

506は03－2区NR001出土の晩期後半の浅鉢である。口縁部は屈曲して立上がり、端部下は凹線状を呈する。端部は肥厚する。胴部内面にはミガキ調整が認められるが、外面では僅かにハケ調整の痕跡がみられるだけである。

拓影で示した3点のうち、270と271は、口縁部端直下に刻目突帯を巡らせていて、晩期後半の長原式に位置付けられる。ともに03－2区のNR001から出土。

477は先にも述べたように、04－1区の中央トレンチの北東端より5～10m間、深さ100～150cmの灰色系砂層から出土した縄文後期の浅鉢である。

このように縄文土器については、後期後半から晩期にかけてのものが認められ、近在する春木八幡山遺跡、春木天の川遺跡、箕土路遺跡、山ノ内遺跡、軽部池西遺跡、山直中遺跡などとの関連が注目される。

(2)石器(第91図)

石器については、8点を図示した。

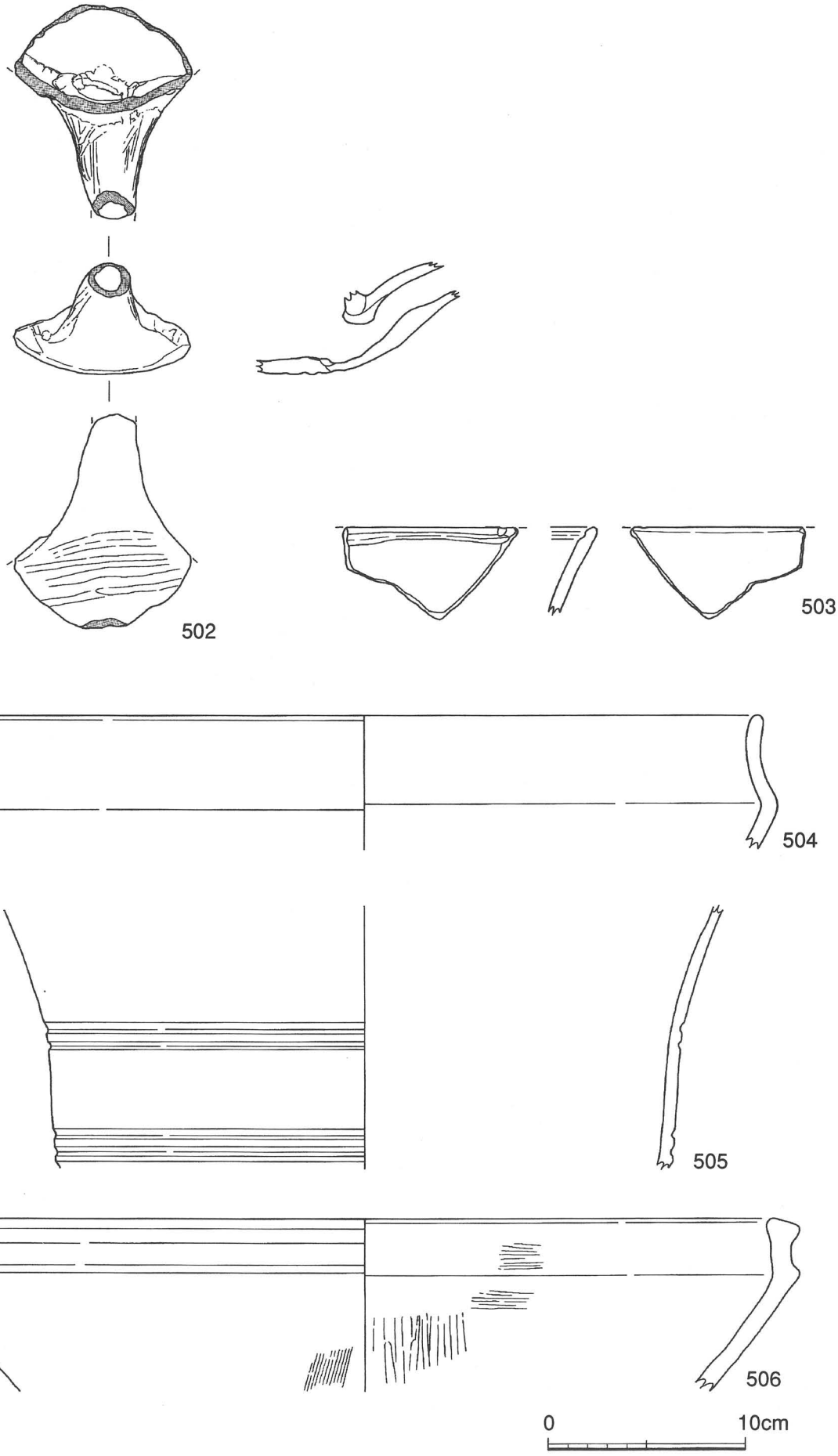
507は03－2区のNR001から出土した砥石である。図右端の表面が最も平滑になっている。置砥石であろう。

508も砂岩製砥石である。04－1区の長方形土坑群から出土した。図右面およびその裏面と左側面が磨れている。

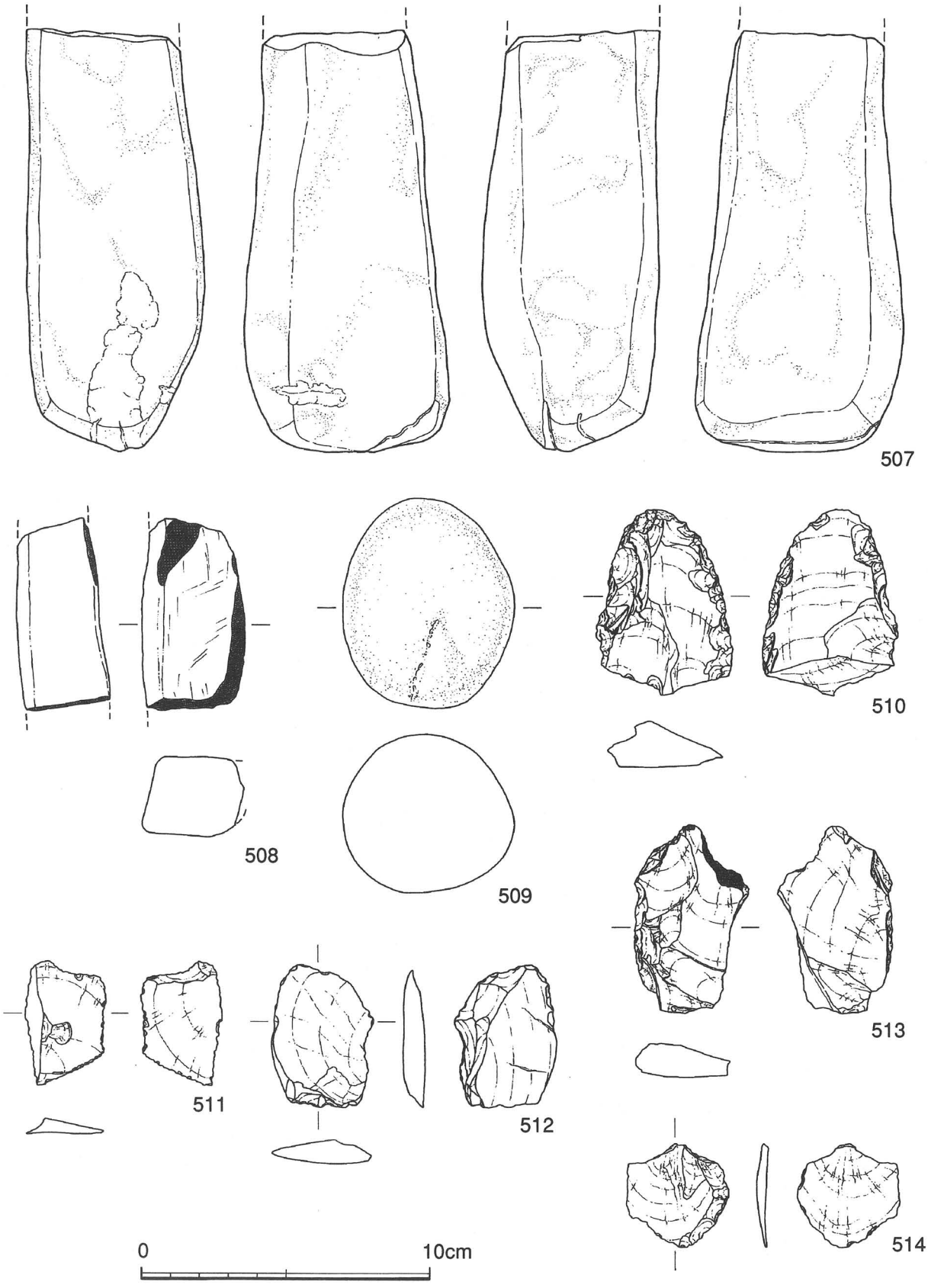
509は磨石とみられる。04－1区河道2から出土した。調査区内からは縄文土器が出土していることから、磨石とみても問題はなかろう。

510～514はサヌカイト片である。510は04－1区河道3の深さ30～60cmから出土した。両面の両側部に調整がなされ、端部を尖頭状に加工しようとしている。弥生時代の石槍の未製品かもしれない。その他については、明確な細部調整がないことから、剥片と考える。なお511は04－1区080溝、512は04－1区河道2の深さ30～60cm、513は04－1区中央トレンチの0～30cm下、514については既述したように長方形土坑群から、それぞれ出土した。

(縄文土器の観察と時期比定については、大阪府教育委員会・大野薫氏の教示を得た。)



第90図　03･04区出土の縄文土器



第91図　03・04区出土の石器

Ⅳ　自然科学分析の成果

1　04－1・2区の自然河道における花粉分析

はじめに

大町遺跡は大阪府岸和田市に所在する。本遺跡では3条の流路跡（河道1－3）が検出され、このうち、河道2,3からは弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器が出土している。

本報告では、これらの流路が同時期に流下していたかどうかについて検証を行うことを目的として、花粉分析を実施し、合わせて当時の古植生についての情報を得る。

(1)　試料

本遺跡からは、前述のように3条の流路跡(河道1－3)が検出されている。河道1は細礫を主体とする砂礫層により構成されており、遺物は検出されていない。

遺構名	試料番号	土層・位置		土色	岩質	備考
河道1	1	3		灰色(N4/0)粘シルト	極細粒砂	
	2	4	上	灰色(7.5Y4/1)粘シルト	中粒砂	
	3		下			
	4	9	上	灰色(5Y6/1)砂シルト		
	5		下		中粒砂	
	6	12	上	灰色(5Y6/1)粘シルト	礫混じり中粒砂	
	7		中		中粒砂	
	8		下			
	9	13	上	青灰色(5B5/1)粘シルト		
	10		下		細粒砂	
	11	15		灰色(5Y5/1)砂シルト	礫混じり中粒砂	
	12	16		黄灰色(2.5Y5/1)粗砂	細礫	
河道2	1	21		灰白色(10YR7/1)粗砂	中粒砂	
	2	22		灰白色(10YR7/1)粗砂		
	3	28		黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト	細粒砂	
	4	38	上	灰白色(2.5Y7/1)砂	中粒砂	
	5		下			
	6	41		灰黄褐色(10YR5/2)砂シルト		
	7	43	上	青灰色(5B5/1)粘シルト	砂質シルト	
	8	42	上	灰色(N5/0)粘シルト		
	9		中			植物遺体あり
	10		下			植物遺体あり
	11	43	中	青灰色(5B5/1)粘シルト		植物遺体あり
	12		下			
河道3	1	19	上	灰白色(10YR7/1)粗砂		
	2		下			
	3	20	上	灰白色(2.5Y7/1)粗砂		植物遺体あり
	4		中			
	5		下			
	6	21		灰黄褐色(10YR6/2)粗砂		
	7	17		灰白色(5Y7/1)粗砂	砂混じりシルト	
	8	18	上	明褐色(7.5Y5/8)粗砂	砂質シルト	
	9		中		細粒砂混じりシルト	
	10		下		砂質シルト	
	11		中		細粒砂混じりシルト	
	12		下		礫混じり細粒砂	

第13表　分析試料一覧

河道2は上部から下に細礫～中礫混じりの砂礫層、最下部に泥混じり砂層や木材などの植物遺体を多く含む泥層が堆積している。

河道3は、砂質シルト～シルト質砂の堆積物により充填されている。なお、河道2と河道3は現地調査の所見から、同時異相(接近した場所で同時期に堆積した地層が、地形などの影響により異なる層相を示すこと）である可能性が指摘される。

分析試料は、河道1～3より垂直方向にできる限り連続的に、各遺構12点の合計36点採取された。分析試料の詳細を第13表に示す。

(2) 分析方法

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛：比重 2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸 9，濃硫酸 1 の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 結果

結果を第 14・15 表、第 92・93 図に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が 100 個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を＋で表示するにとどめておく。以下、遺構別に結果を述べる。

・河道 1

いずれの試料においても花粉化石の検出状況が悪く、検出される花粉化石の保存状態も悪い。木本花粉ではマツ属、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属などが、草本花粉ではイネ科などが数個体検出されるにとどまる。無化石の試料も 5 点ほど認められた。

・河道 2

本地点は、土層の切り合い関係から、試料番号 10－8 が試料番号 12、11 よりも下位に相当する。試料番号 10－8 では木本花粉の占める割合が高く、アカガシ亜属が優占し、クリ属、シイノキ属、コナラ亜属などを伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが認められる。

試料番号 12 はアカガシ亜属が最も多く産出し、モミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、コナラ亜属、シイノキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが認められる。

試料番号 11 ではマツ属が最も多く産出し、モミ属、ツガ属、アカガシ亜属、スギ属、コナラ亜属などが検出される。草本花粉では試料番号 12 と大きな変化はなく、イネ科が多産する同様の群集が認められる。

試料番号 7 では、イノモトソウ属をはじめとするシダ類胞子が多産する。花粉化石群集は下位の試料番号 11 に類似しており、木本花粉ではマツ属が最も多く産出し、モミ属、ツガ属、アカガシ亜属、スギ属、コナラ亜属などが検出される。草本花粉もイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが産出する。

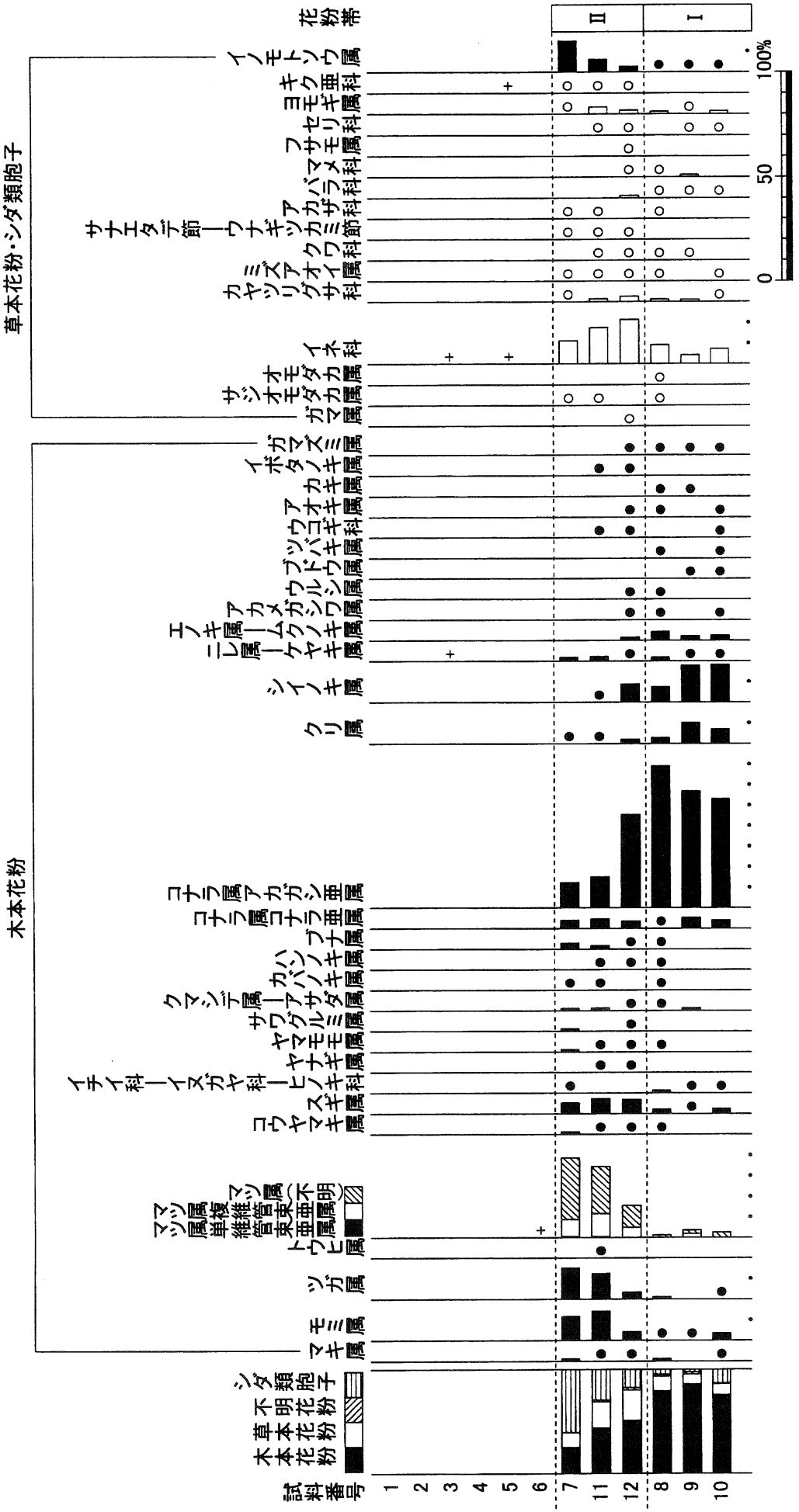
試料番号 6－1 は、河道 1 同様花粉化石がほとんど検出されず、わずかにマツ属、ニレ属－ケ

種類	河道1												河道2					
試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
木本花粉																		
マキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
モミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツガ属	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
トウヒ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属単維管束亜属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属複維管束亜属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
マツ属(不明)	3	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コウヤマキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
スギ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヤナギ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヤマモモ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サワグルミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クルミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クマシデ属ーアサダ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カバノキ属	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ハンノキ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ブナ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
コナラ属コナラ亜属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
コナラ属アカガシ亜属	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クリ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
シイノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ニレ属ーケヤキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
エノキ属ームクノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヤドリギ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
フウ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カラスザンショウ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アカメガシワ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ウルシ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
モチノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ニシキギ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カエデ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ブドウ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツタ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ノブドウ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
シナノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツバキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
グミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ウコギ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アオキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツツジ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
カキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ハイノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イボタノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ガマズミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
草本花粉																		
ガマ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サジオモダカ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
オモダカ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イネ科	2	2	1	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1	−	1	−
カヤツリグサ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ミズアオイ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クワ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サナエタデ節ーウナギツカミ節	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
タデ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アカザ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ナデシコ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
キンポウゲ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アブラナ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
バラ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マメ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
キカシグサ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アリノトウグサ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
フサモ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
セリ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ネナシカズラ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
シソ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
オオバコ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヨモギ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
キク亜科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
タンポポ亜科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
不明花粉	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
シダ類胞子																		
ヒカゲノカズラ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イノモトソウ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
他のシダ類胞子	2	3	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	5	−	2	25
合計																		
木本花粉	3	1	2	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
草本花粉	2	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0
不明花粉	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
シダ類胞子	2	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	2	25
総計(不明を除く)	7	6	3	4	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	7	0	4	26

第14表　花粉分析結果(1)

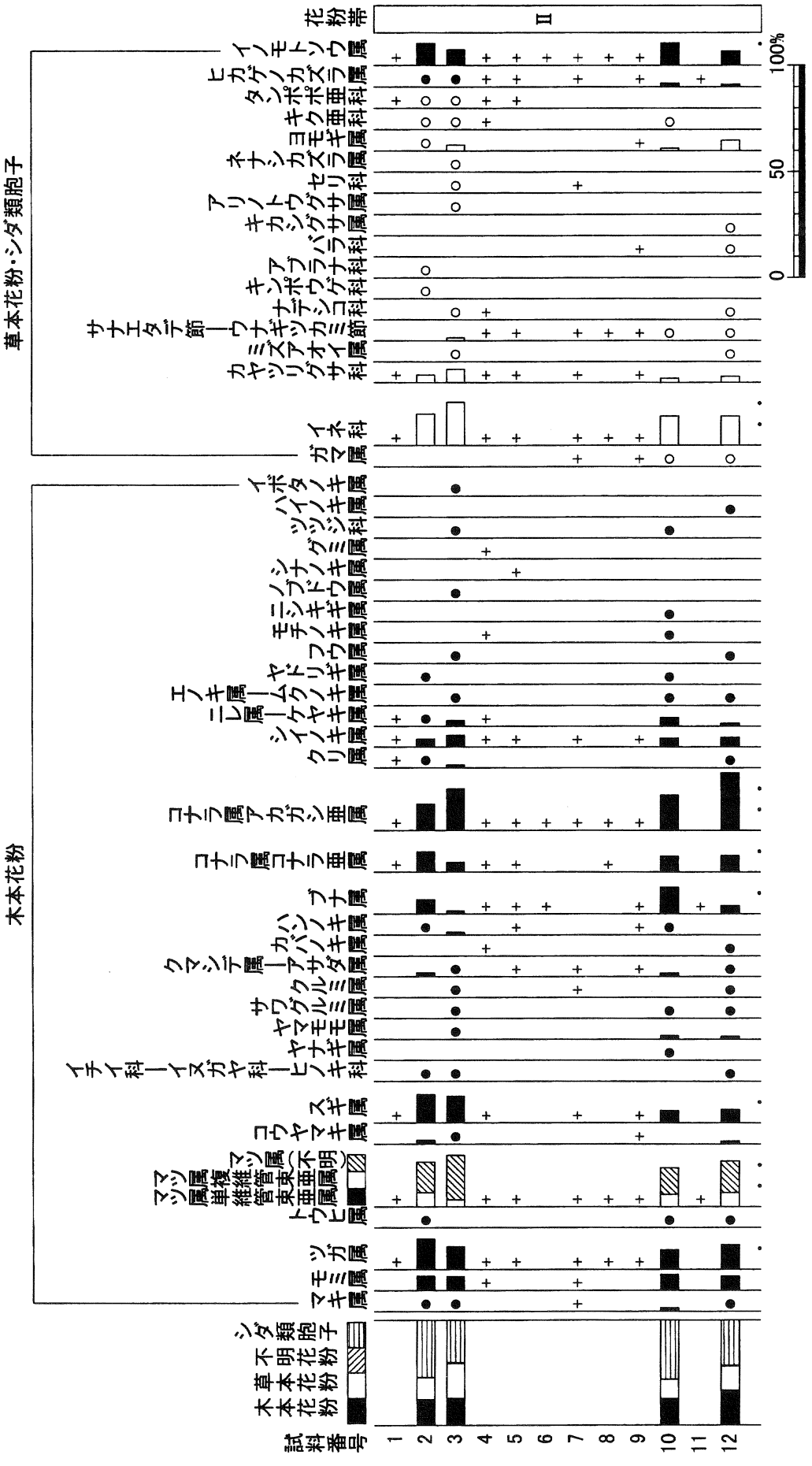
種類	河道2						河道3											
試料番号	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
木本花粉																		
マキ属	2	4	−	2	2	1	−	1	1	−	−	−	1	−	−	2	−	1
モミ属	20	3	1	7	33	13	−	7	14	2	−	−	2	−	−	9	−	19
ツガ属	26	4	−	2	29	10	1	15	23	8	3	−	7	1	2	11	−	33
トウヒ属	−	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1
マツ属単維管束亜属	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
マツ属複維管束亜属	14	−	4	−	26	15	2	7	7	5	−	−	−	2	2	7	−	19
マツ属(不明)	51	4	4	5	53	33	3	15	45	12	3	−	4	1	1	15	1	42
コウヤマキ属	2	1	−	−	1	2	−	2	1	−	−	−	−	−	1	−	−	4
スギ属	9	7	1	5	17	21	2	14	27	1	−	−	3	−	2	7	−	18
イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科	1	4	1	1	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
ヤナギ属	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
ヤマモモ属	2	2	−	−	2	3	−	−	2	−	−	−	−	−	−	2	−	4
サワグルミ属	2	−	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	1	−	1
クルミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	1
クマシデ属ーアサダ属	2	3	3	−	3	2	−	2	2	−	1	−	1	−	2	2	−	2
カバノキ属	1	1	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	2
ハンノキ属	−	1	−	−	1	2	−	1	3	−	1	−	−	−	1	1	−	−
ブナ属	5	1	−	−	4	2	−	7	3	5	1	2	−	−	2	15	1	11
コナラ属コナラ亜属	7	3	12	8	11	11	1	10	10	2	1	−	−	1	−	9	−	22
コナラ属アカガシ亜属	21	224	130	107	35	139	2	13	42	9	2	1	15	1	8	20	−	77
クリ属	1	9	23	14	1	6	1	1	3	−	−	−	−	−	−	−	−	1
シイノキ属	−	24	41	37	1	27	2	4	12	3	1	−	1	−	1	5	−	13
ニレ属ーケヤキ属	3	6	1	1	5	2	1	1	6	2	−	−	−	−	−	5	−	4
エノキ属ームクノキ属	−	14	5	5	−	5	−	−	2	−	−	−	−	−	−	1	−	1
ヤドリギ属	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
フウ属	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
カラスザンショウ属	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アカメガシワ属	−	1	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ウルシ属	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
モチノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−
ニシキギ属	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
カエデ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
トチノキ属	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ブドウ属	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツタ属	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ノブドウ属	−	−	−	−	−	2	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
シナノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
ツバキ属	−	2	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
グミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
ウコギ科	−	−	−	1	1	3	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アオキ属	−	1	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツツジ科	−	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	1	−	−
カキ属	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ハイノキ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
イボタノキ属	−	−	−	−	1	1	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ガマズミ属	−	1	1	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
草本花粉																		
ガマ属	−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	1	−	1	2	−	3
サジオモダカ属	1	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
オモダカ属	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
イネ科	76	37	11	19	92	126	4	63	166	12	3	−	16	3	8	65	−	116
カヤツリグサ科	5	5	3	1	8	16	2	15	52	7	5	−	3	−	1	10	−	24
ミズアオイ属	1	3	−	1	3	1	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	1
クワ科	−	1	2	−	1	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
サナエタデ節ーウナギツカミ節	1	−	−	−	2	3	−	−	11	1	1	−	1	2	1	3	−	4
タデ属	−	−	1	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アカザ科	1	1	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ナデシコ科	1	−	−	−	−	1	−	−	2	2	−	−	−	−	−	−	−	1
キンポウゲ科	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
アブラナ科	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
バラ科	−	2	2	1	−	7	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	1
マメ科	−	1	3	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
キカシグサ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
アリノトウグサ属	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
フサモ属	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
セリ科	−	−	2	1	4	1	−	−	5	−	−	−	1	−	−	−	−	−
ネナシカズラ属	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
シソ科	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
オオバコ属	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヨモギ属	5	5	1	4	18	11	−	2	22	−	−	−	−	−	1	5	−	41
キク亜科	3	−	−	−	1	1	−	1	3	1	−	−	−	−	−	1	−	−
タンポポ亜科	−	−	−	−	−	1	1	4	2	1	1	−	−	−	−	−	−	−
不明花粉	3	8	6	2	10	14	−	1	8	2	2	−	1	−	4	1	−	9
シダ類胞子																		
ヒカゲノカズラ属	10	−	−	1	1	4	−	2	6	2	2	−	2	−	4	8	1	9
イノモトソウ属	100	3	1	2	32	16	2	43	59	12	17	5	23	14	19	49	−	56
他のシダ類胞子	301	17	6	32	124	85	19	184	263	68	73	9	63	46	94	206	5	295
合計																		
木本花粉	171	324	229	202	232	307	15	103	211	52	14	3	35	6	22	118	2	279
草本花粉	94	57	25	28	134	177	7	87	268	24	10	0	22	5	13	86	0	192
不明花粉	3	8	6	2	10	14	0	1	8	2	2	0	1	0	4	1	0	9
シダ類胞子	411	20	7	35	157	105	21	229	328	82	92	14	88	60	117	263	6	360
総計(不明を除く)	676	401	261	265	523	589	43	419	807	158	116	17	145	71	152	467	8	831

第15表　花粉分析結果(2)



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、＋は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

第92図　河道2における主要花粉化石群集の層位分布



第93図　河道3における主要花粉化石群集の層位分布

ヤキ属、イネ科、キク亜科などが数個体検出されるのみである。

・河道3

試料番号12、10、2、3の4試料の花粉化石群集は、河道2の試料番号11、7と類似する。木本花粉をみるとマツ属、アカガシ亜属が多く認められ、モミ属、ツガ属、スギ属、ブナ属、コナラ亜属、シイノキ属などを伴う。草本花粉をみるとイネ科が多産し、カヤツリグサ科、ヨモギ属などを伴う。また、シダ類胞子の割合も多く、特にイノモトソウ属の産出が顕著である。

試料番号11、9−4、1では花粉化石の産出状況が悪く、定量解析を行うことができなかった。ただし、検出された花粉化石についてみると、モミ属、ツガ属、マツ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、シイノキ属、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが検出されている。これらは他の試料において比較的多く検出される種類であることから、群集的には大きく変化していないと思われる。

(4) 考察

①花粉帯の検討

得られた花粉化石群集から、下位よりⅠ帯～Ⅱ帯の地域花粉帯を設定した。

・Ⅰ帯

コナラ属アカガシ亜属が優占し、シイノキ属、クリ属も比較的多く認められる。その他には、コナラ属コナラ亜属、エノキ属−ムクノキ属などを伴う。河道2の試料番号10−8が本帯に相当する。

・Ⅱ帯

マツ属、モミ属、ツガ属、アカガシ亜属が多く産出し、スギ属、コナラ亜属、ブナ属などを伴う。Ⅰ帯で多く認められたアカガシ亜属、シイノキ属などの割合は減少する。また、草本花粉の割合が増加し、特にイネ科が多産する。河道2の試料番号12、11、7、河道3の試料番号12−1が本帯に相当する。

なお、河道2の試料番号12はアカガシ亜属、シイノキ属の割合が高く、他の試料と差違が認められる。本試料採取層準は河道覆土最下層であり、Ⅰ帯に相当する試料番号10−8堆積層を削剥して不整合で覆っている。したがって認められる差違は、試料番号12にⅠ帯の群集が混入しているためと考えられ、花粉帯としては本帯に含まれる。また、河道3の試料番号11、9−4、1は花粉化石の検出状況が悪かったが、本帯で多産する種類が検出されることから、群集組成に大きな変化はないと考え、本帯に含める。

今回設定した地域花粉帯を既存の研究結果を比較すると、Ⅰ帯はアカガシ亜属が優占し、シイノキ属などを伴う点から、古谷(1979)のF4亜帯に、Ⅱ帯はマツ属、スギ属などの針葉樹の割合が増加し、草本類も増加する点から、同じく古谷(1979)のF5亜帯に対比される。

それぞれの年代はF4亜帯が約6000−2500年前、F5亜帯が約2000年前前後とされている。本遺跡ではⅡ帯に相当する流路堆積物が、検出遺物より弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代観が

想定されていることから、今回得られた結果は既存の研究結果と調和的である。

②流路の時期について

河道1については花粉化石がほとんど検出されなかったことから、花粉帯の設定ができなかった。このことから、花粉分析の観点から、他の流路と同時期に流下していたかどうかは判断できない。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。河道1の堆積物は中粒砂～細礫といった粗粒の堆積物が多いことから、堆積速度が速く花粉が取り込まれにくかった可能性がある。また、一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村, 1967; 徳永・山内, 1971)。このことから、堆積時に取り込まれた花粉・シダ類胞子が、その後の経年変化により分解・消失したことも想定される。これについては珪藻分析などを実施し、堆積環境を検討することが望まれる。

河道2をみると、流路が機能していたときの堆積物はⅡ帯に対比される。試料番号6－1については花粉化石がほとんど検出されないが、いずれも中粒砂であることから、河道1と同様の理由が考えられる。

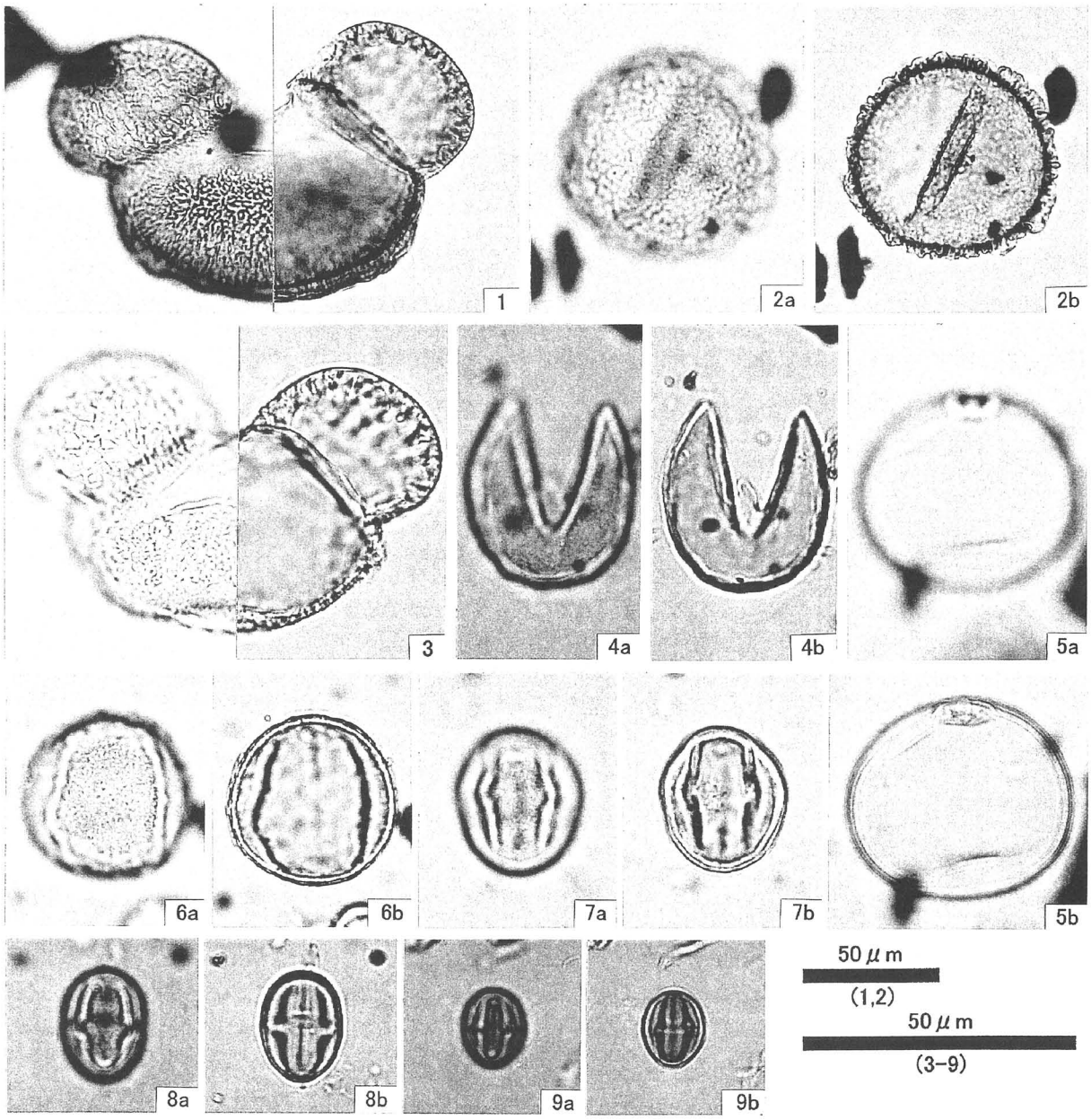
一方、河道3は前述のように、いずれの試料もⅡ帯に含まれる。このことから、河道2と河道3は同時期に流下していた可能性がある。これは、現地調査で示唆された同時異相の可能性を支持する結果である。

③植生変遷

Ⅰ帯では、アカガシ亜属が優占し、シイノキ属、クリ属、コナラ亜属、エノキ属－ムクノキ属などが認められる。この内、アカガシ亜属は暖温帯性常緑広葉樹林(いわゆる照葉樹林)の主要構成要素であり、シイノキ属、ヤマモモ属などとともに林分を形成する。このことから、河道2,3が形成される以前の遺跡周辺には、アカガシ亜属を主体としてシイノキ属、アカメガシワ属、ツバキ属などからなる照葉樹林が広がっており、林内や林縁にはブドウ属、ガマズミ属なども生育していたと推測される。

Ⅱ帯では、マツ属、モミ属、ツガ属、アカガシ亜属が多く産出し、スギ属、ブナ属、コナラ亜属、シイノキ属などが認められる。モミ属、ツガ属、スギ属、マキ属などは温帯性針葉樹であり、しばしば照葉樹林に混じって林分を形成する。これらのことから、弥生時代終末期～古墳時代初頭の本遺跡周辺は、依然としてアカガシ亜属を主体とした照葉樹林が存在していたが、後背丘陵や後背山地などにはモミ属、ツガ属、スギ属などの針葉樹の林分も広がり、照葉樹林とモザイク状を呈していたと推測される。また、草本類の割合が増し、イネ科などが多く検出されることから、遺跡周辺ではイネ科をはじめとする草本類が生育する草地が広がったと思われる。

大阪平野における完新世の植生変遷をみると、6000年前以降はシイ、カシなどの照葉樹林が主体であり、約3000－2000年前にスギ、ヒノキ、コウヤマキ、モミ、ツガなどの針葉樹が増加する



1．モミ属(河道2;7)
2．ツガ属(河道2;11)
3．マツ属(河道2;8)
4．スギ属(河道2;8)
5．イネ科(河道2;8)
6．コナラ属コナラ亜属(河道2;8)
7．コナラ属アカガシ亜属(河道2;8)
8．シイノキ属(河道2;8)
9．クリ属(河道2;9)

第94図　花粉化石

(古谷, 1979;前田, 1984;那須, 1989など)。これらの針葉樹は、照葉樹林帯とそれより標高(あるいは緯度)の高い山地にあるブナ帯の間を埋める温帯針葉樹林の構成要素であり、これらの要素が大阪平野の周辺山地に増加したことは、気候が悪化したこと、とりわけ多雨化したことを意味するとされている(那須, 1989)。今回の結果では、流路形成以前は照葉樹林が主体であるが、河道内の堆積物から得られた花粉化石群集は温帯針葉樹の割合が高くなっている。時代観も既存の研究結果と大きく食い違わないことから、本遺跡周辺も同様の植生変遷を辿ったと思われる。また、

温帯針葉樹林要素の増加が多雨化に影響しているとされていることから、本地域における流路形成も多雨化の影響を受けているのかもしれない。これについては堆積状況や周辺植生のデータを蓄積し、検討を重ねていきたい。

草本類ではイネ科が多産する。その他ではカヤツリグサ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、バラ科、ヨモギ属などが認められる。これらは開けた明るい場所を好む「人里植物」を含む分類群であることから、当時の遺跡内あるいは周囲の草地に生育していたと推測される。

また、わずかではあるが、ガマ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属などの水湿地生植物に検出される。これらは水田雑草になりうる種群であることから、多産したイネ科は周辺域での稲作に由来する可能性がある。これについては植物珪酸体分析などを実施し、検証することが望まれる。

2　出土木材の年代測定

はじめに

大町遺跡から出土した木材について加速器質量分析法(Accelerator mass spectrometry；AMS)による放射性炭素年代測定を実施した。AMS 法は、放射性炭素原子をイオン化してその核種を直接、計測する年代測定法である(中村，1999)。

(1)　試料

試料は、発掘調査区で確認された流路充填堆積物ないし氾濫堆積物より出土した木材 9 点である。

試料番号	調査区	採　取　試　料
1	04−1 区	西トレンチ 113 層内木片
2	04−1 区	西トレンチ 113 層内木片
3	04−1 区	中央トレンチ 59 層内木片
4	04−1 区	河道 3 底直上(3 層)検出流木
5	04−1 区	河道 3 底直上(1 層)検出流木
6	04−1 区	河道 3 底直上(1 層)検出流木
7	04−1 区	河道 3 底直上検出木片
8	03−2 区	NR001 底直上検出流木
9	03−2 区	NR001 西肩部検出木片

（1・2および4～6は別個体）

(2)　分析方法

①前処理と測定過程

試料は、前処理として、土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、付着物をピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去を行う。前処理後、以下の化学処理を行う。

ＡＡＡ処理(酸・アルカリ・酸処理)

HCl により炭酸塩等酸可溶成分を除去

NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去

HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等可溶成分を除去

酸化(C→CO_2)

試料をバイコール管に入れる。1g の酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を同じバイコール管に入れる。管内を真空にして封じきり、500℃(30 分)850℃(2 時間)で加熱する。

精製(CO_2→CO_2)

液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO_2 を精製する。

還元(CO_2→C：グラファイト)

真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C－AMS 専用装置(NEC　Pelletron　9SD　H－2)を使用した。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOx－Ⅱ)とバックグラウウド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C／12C の測定も行うため，この値を用いても δ13C を算出する。なお測定については、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。

②測定結果

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。測定年代は 1950 年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One　Sigma)に相当する年代である。なお BP とは before present の略とされるが、before physics の簡略形とも言われている(中村，1999、木庭，2000)。誤差として表現される±以下の数値は、年代値の標準偏差値である(木庭，2000)。年代値の誤差とは確率的な意味をもち、誤差($\pm 1\sigma$)である場合、まったく同様な測定を繰り返したとき、誤差範囲内に入る確率が 68.3%であることを意味する(中村，2001)

暦年較正(標準偏差：One　Sigma に相当)については、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIBREV5.0(Copyright 1986－2004 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年較正曲線を用いる条件を与えて計算させている。暦年較正年代値とは、14C 放射年代と樹木年輪年代との対応データを用いて計算させた年代値である(中村,2001)。14C 年代測定では、大気中の放射性炭素年代濃度が過去数万年にわたって変化しないことが前提の一つとなっているが、放射性炭素年代濃度は過去 2 万年余りの間でも変動していることが判明している(木庭,2000)。よって、14C 年代値については、基準年(OBP＝AD1950)を単純にずらすだけでは暦年代へ変換することが不可能である(中村,1999,2001)。このため、暦年代に近い年代を求めようとする場合には、過去の放射性炭素年代濃度の変化が記憶されている樹木年輪の 14C 放射年代と年輪年代の対応データを参照する必要がある(木庭,2000)。本報告で使用している Stuiver et

al(2005)の暦年較正曲線は、樹木年輪と年輪でカバー出来ない年代範囲については高精度質量分析計によるサンゴのトリウム 230Th／234U 年代の成果や海底堆積物の縞模様の計数を用いて作成されている(木庭,2000、中村,2001)。

(3) 結果

測定結果のうち年代値を第 16 表に、暦年較正年代値を第 17 表に示す。

第 16 表に記載される補正年代とは、測定試料の炭素同位体分別の補正を行った年代値のことである。炭素同位体分別の補正とは、試料によって異なるδ13CPDB 値をδ13CPDB 値=－25‰に規格化することを指す(中村,2001)。同位体分別とは、生物中の放射性炭素 14C 濃度については大気のそれの濃度に比べ少なくなる可能性が高く、その程度が同属であっても種によって異なったり、同じ個体でも部位によって異なったりする現象について呼ばれる。またδ13C は、13C／12C を化石 PDB(炭酸カルシウムからなる白亜紀の米国南カロライナ州 Peedee 層産箭石〈やいし:Belemnite〉の鞘)の比で標準化した値である(木庭,2000)。

第 17 表に示した相対比は、1σの範囲内に存在する暦年代校正値の確からしさを示す確率である。その数値は百分率によって表現され、その数値が大きいほど確率が高いと判断することができる。なお、暦年較正年代値に用いられている cal は、calibrated を意味している(木庭,2000)。暦年較正年代値については、測定試料の歴史上の意義を示す AD、BC で表される歴史年代(historical dates)と別物であることに留意する必要が指摘されている(中村,1999)。

試料番号	試料の質	補正年代(BP)	δ13C (%)	測定年代(BP)	Code.No.
1	木材	2160±40	−30.41±0.80	2250±40	IAAA−42292
2	木材	2170±40	−30.01±0.98	2260±40	IAAA−42293
3	木材	2190±40	−31.96±0.75	2310±40	IAAA−42294
4	木材	1770±50	−28.25±0.85	1830±40	IAAA−42295
5	木材	1960±40	−31.64±0.78	2070±40	IAAA−42296
6	木材	2260±50	−30.94±0.98	2360±40	IAAA−42297
7	木材	2170±40	−32.87±0.68	2300±40	IAAA−42298
8	木材	2220±40	−27.83±0.65	2270±30	IAAA−31906
9	木材	1770±30	−26.97±0.68	1810±30	IAAA−31907

1)年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差δ(測定値の 68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第 16 表　放射性炭素年代測定値

試料番号	補正年代（BP）	暦年較正年代（cal）		相対比
1	2158±40	cal BC353—cal BC293	cal BP2303—2243	0.444
		cal BC230—cal BC218	cal BP2180—2168	0.059
		cal BC213—cal BC161	cal BP2163—2111	0.420
		cal BC132—cal BC118	cal BP2082—2068	0.076
2	2174±41	cal BC356—cal BC286	cal BP2306—2236	0.991
		cal BC234—cal BC171	cal BP2184—2121	0.009
3	2193±41	cal BC358—cal BC281	cal BP2308—2231	0.617
		cal BC258—cal BC243	cal BP2208—2193	0.091
		cal BC235—cal BC199	cal BP2185—2149	0.291
4	1773±44	cal AD178—cal AD188	cal BP1772—1762	0.049
		cal AD213—cal AD337	cal BP1737—1613	0.951
5	1957±40	cal BC 18—cal BC 14	cal BP1968—1964	0.021
		cal BC 0—cal BC 83	cal BP1950—2033	0.979
6	2262±44	cal BC393—cal BC354	cal BP2343—2304	0.430
		cal BC291—cal BC231	cal BP2241—2181	0.562
		cal BC216—cal BC215	cal BP2166—2165	0.007
7	2173±40	cal BC355—cal BC287	cal BP2305—2237	0.548
		cal BC233—cal BC191	cal BP2183—2141	0.452
8	2222±35	cal BC362—cal BC348	cal BP2312—2298	0.122
		cal BC319—cal BC270	cal BP2269—2220	0.429
		cal BC262—cal BC228	cal BP2212—2178	0.306
		cal BC222—cal BC205	cal BP2172—2155	0.143
9	1773±33	cal AD224—cal AD262	cal BP1726—1688	0.411
		cal AD277—cal AD336	cal BP1673—1614	0.589

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0 (Copyright 1986—2005 M Stuive and PJ Reimer) を使用。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)付記した誤差は、測定誤差δ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第17表　暦年較正結果

(4)　考察

これまでに考古遺跡で実施された各時代の放射性炭素年代測定結果のうち、今回の年代値と近い測定結果については、以下のような事例が挙げられる(暦年較正年代値は、特に限りがない場合、2σに相当する年代値を示している)。

・弥生時代中期

弥生時代中期のC14年代値については、大阪府新上小坂遺跡の中期前半(Ⅱ～Ⅲ様式前半)の遺構や検出面に伴う木材から、2365±25 yrs BP(第6面の立ち木南側側溝掘削中)、2265±25 yrs BP(第7b面土坑633)、2355±30 yrs BP(第8b面土坑867)の年代値が報告されている(山形,2003)。池島・福万寺遺跡では、弥生時代中期前半(第13面)と中期(第12面)の遺構検出面で確認された埋没林からそれぞれ2230±40 yrs BPと2170±40 yrs BPの年代値が得られている(地球科学研究所・岸本,2002)。

これらのC14年代値の暦年較正年代値は、BC400～180年前後である。弥生時代中期の年輪年代

法では、兵庫県武庫庄遺跡において第Ⅲ様式の土器が供伴する柱根からBC245年の年代値が得られている(光谷,2001)。大阪府池上曽根遺跡において第Ⅳ様式の土器が供伴する柱根からBC52年の年代値が得られている(光谷,2003)。池上曽根遺跡において年輪年代法を実施した柱根のC14年代値の暦年較正年代値は、BC80～40年を示すとされる(光谷,2003)。

・弥生時代後期

弥生時代後期の測定結果では、池島・福万寺遺跡の弥生時代後期の遺構検出面である第11－1面で確認された堰の杭が1890±50 yrs BP(堰254深部杭)、2070±50 yrs BP(堰254浅部杭)、1870±50 yrs BP(堰452杭76)、1950±50 yrs BP(堰452杭169)、導水管が1810±40 yrs BPを示す(地球科学研究所・岸本,2002)。これらのC14年代値の暦年較正年代値は、cal BC80～240年前後である。

国立歴史民俗博物館による研究で実施された土器付着炭化物のC14年代測定では、奈良県唐古・鍵遺跡において、弥生時代後期(Ⅴ様式)で1910±40 yrs BP、弥生時代後期(Ⅵ様式)で1950±40、1960±40 yrs BPの年代値が報告されている(国立歴史民俗博物館,2004,国立歴史民俗博物館編,2004,春成・今村編,2004)。大阪府瓜生堂遺跡では、弥生時代後期(Ⅴ様式)で2000±40、1960±40 yrs BP(暦年較正年代値:cal BC40～AD130年前後)、弥生時代後期(Ⅴ～Ⅵ様式)で1950±40、1990±40、1975±40 yrs BP(暦年較正年代値:cal BC40～AD130年前後)の年代値が測定されている(小林ほか,2004)。また、愛知県の濃尾平野に位置する八王子遺跡出土の土器付着炭化物のC14年代測定では、八王子古宮Ⅱ式で1945±25 yrs BP(暦年較正年代値〈1σ〉:cal AD50～AD80年)の年代値が得られている(山本・赤塚,2004)。

・弥生時代終末期～古墳時代初頭から古墳時代前期

弥生時代終末期～古墳時代初頭から古墳時代前期の測定結果では、池島・福万寺遺跡の庄内期の溝(第10-2面 溝20埋土2)から検出された木材から、1830±50 yrs BP、暦年較正年代値でcal AD75～330の年代値が得られている(地球科学研究所・岸本,2002)。尺度遺跡では、庄内式期後半～布留式初頭と考えられる堰(堰819)の杭材がC14年代値で1790±40 yrs BP、暦年較正年代値でcal AD220～260年と報告されている(井上,2003,中村・井上編,2003)。

国立歴史民俗博物館による研究で実施された土器付着炭化物のC14年代測定では、弥生時代終末期～古墳時代初頭頃(布留式)で1880±40、1810±40 yrs BP、古墳時代前期(布留式)で1815±35、1830±30 yrs BPの年代値が報告されている(国立歴史民俗博物館,2004,国立歴史民俗博物館編,2004,春成・今村編,2004)。大阪府瓜生堂遺跡では、古墳時代前期(布留式)で1790±40 yrs BP(暦年較正年代値:cal AD130～380年前後)の年代値が測定されている(小林ほか,2004)。石川県大友西遺跡での土器付着炭化物のC14年代測定では、月影Ⅰ式で1879±22 yrs BP(暦年較正年代値:cal AD75～221年)の年代値が報告されている(木野瀬ほか,2004)。愛知県の濃尾平野に位置する朝日遺跡、八王子遺跡出土土器付着炭化物のC14年代測定のうち、処理効率の高い測定結果では、廻間Ⅰ式前半で1851±21 yrs BP(暦年較正年代値:cal AD84～AD238年:朝日遺跡)、1820±25

yrs BP、1780±25 yrs BP(暦年較正年代値〈1σ〉:cal AD210～AD260 年前後:朝日遺跡)、廻間Ⅰ式後半で1862±27 yrs BP(暦年較正年代値:cal AD80～AD240 年:北道手遺跡)、松河戸Ⅰ式前半で1767±20 yrs BP、1778±22 yrs BP(暦年較正年代値:cal AD140～AD340 年前後:八王子遺跡)、1670±25 yrs BP(暦年較正年代値〈1σ〉:cal AD38～AD415 年:朝日遺跡)の年代値が得られている(木野瀬ほか,2003・2004,山本・赤塚,2004)。

また、年輪年代法では、庄内式に併行すると考えられる石川県大友西遺跡井戸 SE18 用材(月影Ⅱ式)が AD169 年、大阪府下田遺跡大溝 SD1108 腰掛け(布留式最古相下田Ⅲ式)が AD247 年を示すとされる(森岡,2001)。

引用文献

Ⅳ－1

古谷正和,1979,大阪周辺地域におけるウルム氷期以降の森林植生変遷.第四紀研究,18,121－141.

前田保夫,1984,花粉分析学的研究よりみた近畿地方の洪積(更新)世後期以降の植生変遷.　宮脇昭(編著),日本植　生誌　近畿,至文堂,87－99.

中村純,1967,花粉分析.古今書院,232p.

那須孝悌,1989,活動の舞台:概論.永井昌文・那須孝悌・金関恕・佐原真(編著),弥生文化の研究　1　弥生人とその環境,雄山閣出版,119－130.

徳永重元・山内　輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社,50－73.

Ⅳ－2

地球科学研究所・岸本広樹,2002,放射性炭素年代測定.「池島・福万寺遺跡　発掘調査概要ＸＸ　Ⅷ－98－1 調査区(1998 年度)の調査概要-」,(財)大阪府文化財調査研究センター,108-111.

春成秀爾・今村峯雄編,2004,弥生時代の実年代　炭素 14 年代をめぐって.学生社,253p.

井上智博,2003,放射性炭素年代測定(1998～2000 年度実施).「尺度遺跡Ⅱ-国道 165 号(南阪奈　道路)の建設に伴う発掘調査報告書-」,(財)大阪府文化財センター,210-211.

木野瀬正典・赤塚次郎・小田寛貴・中村俊夫・山本直人,2003,愛知県朝日遺跡・月縄手遺跡出土　の土器付着炭化物の放射性炭素年代.第５回　考古科学シンポジウム発表要旨,95-101.

木野瀬正典・赤塚次郎・小田寛貴・山本直人・中村俊夫,2004,尾張地域の弥生時代・古墳時代の　土器に付着した炭化物の放射性炭素年代.名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(ＸＶ),　名古屋大学年代測定総合研究センター,18-25.

木庭元晴,2000,「畿内およびその周辺の考古遺物・遺跡の空間的・時系列的データベース作成　－考古編年による放射性炭素年代軸の確立-」.関西大学文学部,83p.

小林謙一・春成秀爾・今村峯雄・坂本稔・陳建立・松崎浩之・秋山浩三・川瀬貴子,2004,大阪府瓜　生

堂遺跡出土弥生～古墳時代出土土器の14C年代測定.「瓜生堂遺跡1　近畿日本鉄道奈良線連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-考察・分析・写真図版編-」,(財)大阪府文化財センター,715－726.

国立歴史民俗博物館,2004,学術創成研究費「弥生農耕の起源と東アジア-炭素年代測定による　高精度編年体系の構築-」.研究結果,炭素14年代測定データ一覧表(1)～平成15年度まで.(但しPDFファイルによる:http://www.rekihaku.ac.jp/kenkyuu/katudoh/sousei/yayoinou_kou/data_01.pdfによる).

国立歴史民俗博物館編,2004,縄文晩期～弥生前期AMS炭素年代14年代測定値と較正年代.季　刊考古学,88,45－48.

光谷拓実,2001,年輪年代法.季刊考古学,77,54－58.

光谷拓実,2003,年輪から弥生の年代をさぐる.歴博,116,国立歴史民俗学博物館,16－19.

森岡秀人,2001,弥生時代遺跡の年代.季刊考古学,77,22－26.

中村俊夫(1999)放射(性)年代測定.長友恒人編,「考古学のための年代測定学入門」,古今書院,2-36.

中村俊夫(2001)放射性炭素年代とその高精度化.第四紀研究,40,445-459.

中村ますみ・井上智博編,2003,「尺度遺跡Ⅱ-国道　165　号(南阪奈道路)の建設に伴う発掘調査報告書-」.(財)大阪府文化財センター,228p.

Struiver, M., and Reimer,P.J.,1993,Extended 14C database and revised CALIB Radiocarbon calibration program,Radiocarbon 35:215-230.

Stuiver,M.,Reimer,P.J.,Bard,E.,Beck,J.W.,Burr,G.S.,Hughen,K.A.,Kromer,B.,McCormac,F.G.,v.d.Plicht,J.,and Spurk,M.,1998.INTCAL98 Radiocarbon age calibration 24,000 - 0 calBP.Radiocarbon 40:1041-1083.

山本直人・赤塚次郎,2004,濃尾平野における弥生後期～古墳前期の炭素14年代値測定と炭素　安定同位体比.炭化物の放射性炭素年代.名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(ＸＶ),　名古屋大学年代測定総合研究センター,136-143.

V　総括

1　大規模地形改変の時期

調査区周辺では旧耕作土形成以前に大規模な削平があったとみられる。この削平時期については詳細を得ないが、自然河道内から多量の弥生時代後期～古墳時代前期の土器が出土しているにも関わらず、調査範囲にあっては04－1区の075竪穴状遺構と030土坑を除いて、その時期に属するとみられる遺構が検出されなかったことから、古墳時代前期以降に削平がなされたことは明らかである。

一方、調査範囲全域に広がる盛土下の旧耕作土からは近代以降の遺物が出土していることから、削平時期はそれ以前の時期である。

この古墳時代前期以降から近代以前の間で、削平時期を決める有力な根拠は乏しい。がしかし、04－1区南西半で検出された、近世代に形成されたとみられる長方形土坑群およびそれを画するように延びる080溝が手掛かりとなる。

080溝は南辺を長方形土坑群と一部で接しながら北西－南東方向に走行し、その北に長方形土坑群が広がらないことから、区画機能をもって土坑群と有機的に存在していたと考えられる。そしてその080溝の断面は南辺がやや急峻、北辺がやや緩慢ながら、全体としてはほぼ逆台形を呈していて、上方に広がっている。とすれば、仮に長方形土坑群や080溝の上面が大規模に削平されているとすれば、土坑群と溝とは本来的に大きく重複していたことになり、両者の関連性を否定せざるを得なくなる。

その場合、080溝が埋没した後に長方形土坑群が形成されたとすれば、溝の北にも土坑群が広がった可能性は高いし、逆に土坑群の埋没後に溝が掘削されたとすれば、礫を多包した土坑内の堆積土が溝内に流入した公算が高い。しかし溝内に堆積しているのは砂のみである。よって、土坑群が掘削され、礫を含む砂質土で埋められた時期に溝はなお開口していて、その後に土坑群の一部上面を覆った砂で溝も埋没したと考えられる。つまり、両者の上面は削平によって検出面が下がり、重複関係が消滅しているのではなく、掘削は現状の遺構検出面に近かったと考えるのが妥当である。

また別角度からも、上記のことは裏付けられる。長方形土坑の深さは10～60cmほどであり、いずれも壁の立上りは垂直に近い。つまり、現状の検出面よりもさらに上に古代以降の堆積層が存在し、それらを掘り込んで土坑群が形成されたとすれば、各土坑とも垂直に近い状態で数10cm、場合によっては1mほどの深さで掘削がなされていたことになる。075竪穴状遺構の残存状況からすれば50cm以上の削平があったことは明らかである。古代以降の堆積層の土質はわからないが、極めて粘性の強い土質でなければ垂直的に掘削した土坑壁面は崩れたであろう。しかし、土坑内

に壁体の崩れを示す堆積土はほとんど認められない。

加えて、各土坑からは出土した遺物のほとんどは弥生・古墳時代の土器であり、古代以降の遺物は極めて少ない。それは、土坑群には古代以降の遺物が混在しない状況、すなわち周辺で削平がなされた以降に掘削が行なわれたことを示しているといえる。

以上のことから、調査区周辺における大規模な地形改変は、近世末に掘削されたとみられる長方形土坑群の形成以前であり、推論すれば、おそらくそれとさほど時を隔てない時期、すなわち近世後期のうちに求めることができよう。

2　近代・近世の土地利用－長方形土坑群と不定形土坑の性格について－

本遺跡検出遺構の中で、土器を多数出土した自然河道や工房跡とみられる075竪穴状遺構は、弥生時代後期～古墳時代前葉の集落形成を考察する上で重要な遺構であるが、本遺跡は近世・近代まで継続しており、その時代を捉える上では長方形土坑群と不定形土坑とが鍵となる。

長方形土坑群は、04－1区には23基の一群と13基の一群が、04－2区では28基からなる一群があり、03－2区で検出されたSX002も該当するとみられる。

長方形土坑群は、その呼称の通り平面形が長方形の土坑の集まりである。しかし、平面形の形成に掘削の目的を求めるべきではなく、既述したように0.4～1.0㎥ほどの土量を確保するために掘削された土坑といえる。

そしていまひとつの重要な点として、長方形土坑群が形成された調査区内の地質は、シルト層を主体とする部分であり、粘土を主体とした部分には及んでいないことが基盤層に設定したトレンチから明らかとなったことである。さらに04－1・2区の長方形土坑群やSX002は、砂を主堆積土とする自然河道にその範囲が延び出てもいない。よって、いわゆる「粘土採掘」を目的として長方形土坑群が形成されたのではないこと、そしてまた、砂の掘削も避けられていたことを示している。

この長方形土坑群の覆土は、各地点とも礫を含んだ砂質土・砂シルトを基調としていて、土坑周辺の土が流入して埋まったという状況ではない。ことに、周辺の基盤層には含まれない礫が各土坑にほぼ混在していることから、意図的な客土によって埋められたとみてよい。

そして長方形土坑群の埋没時期については、04－1区で出土した619点の遺物に含まれていた近世後期（～末）の磁器碗が指標となる。この時期よりも新しいものは含まれていない。

一方、不定形土坑は、03－1区のSX008とSX009、03－2区のSX003および04－1区の004土坑、016土坑、025土坑、045土坑、049土坑、073土坑である。

このうちSX003は長さ21m以上、幅7m、深さ50～80㎝を測る大規模な土坑で、底面の著しい起伏は、掘削の単位を示しているとみられる。このSX003ほどではないが、SX008やSX009もまた長さが10m以上、幅5～10mほどであり、規模は大きい。

これに対して、04—1区で検出された不定形土坑はいずれも規模が小さく、長さ5.5m以上、幅

4.7m、深さ40～60cmの049土坑ががこの地区の最大級である03－1・2区に比べると明らかに小規模である。

これらの不定形土坑の覆土は、粘・砂シルトあるいは砂が主体であり、SX003では礫が混在しているとはいえ、不定形土坑の覆土に認められるほどの顕著さはない。したがって、両土坑では埋没過程の違いが考えられるが、いまひとつ、埋没時期が異なることも背景にあろう。

それを示すように049土坑からは近代の磁器やガラス瓶が出土しており、さらにこの時期の出土品が認められない他の不定形土坑にあっても、それと同様に、近代に入って形成・埋没したと考えられる。

こうしたことからすれば、長方形土坑群と不定形土坑における形状や時期の相違は、掘削目的の違いを反映しているとみてよいのではなかろうか。

長方形土坑群に関しては、泉佐野市安松田遺跡で類似した遺構が検出されている。安松田遺跡3区の畦畔C・D付近で、それに沿って直線的に整然と掘削された土坑がそれである。報告では、近世の粘土採掘坑とされている。がしかし、土坑底面は基盤のシルト層中に留まっていて、良質な粘土を入手できたとは思われない。このシルト層を掘削するという点は、大町遺跡の長方形土坑群と共通している。

さらに花粉分析によって、安松田遺跡では土坑埋没時においては草地が広がっていたとは考えがたい環境にあったと指摘されている。またソバの栽培の可能性もあるという。つまり、遺跡周辺で耕地化が始まったばかりであった状況を示しており、耕土獲得のためのシルト層採取と礫を多包した客土の埋め戻しによる畑地の形成などを予想してもよいのではないか。無論、この点は大町遺跡にも当てはまる。

不定形土坑については、近代以降の粘土採掘坑であると考える。岸和田市域では山ノ内遺跡、箕土路遺跡、軽部池西遺跡、栄ノ池東遺跡など、和泉市域では小田遺跡などで同様の大型粘土採掘坑が検出されている。そして、山ノ内遺跡や軽部池西遺跡では黄褐色粘土を採取したことが確認されている。

軽部池西遺跡と小田遺跡では粘土採掘が昭和初期といわれているが、山ノ内遺跡では明治以降にそれがあったととされ、粘土採掘が明治期まで遡るとみられている。大町遺跡においても、049土坑から銅版転写染付の磁器が出土していることから、明治後葉から大正時代に粘土採掘の時期の起点を求められよう。

そして粘土採掘にあたっては、まず数箇所の試掘坑を設定し、良好な粘土の存在が確認されると、大規模な採掘が組織的に行われたという。とすれば、04－1区の004土坑や016土坑、073土坑などの小規模なものは、試掘しただけで終った可能性も考えられよう。

以上のことから大町遺跡では、耕地化の一環、すなわち耕作土の採取と掘削後の畑地化を目的として近世後期（～末）に長方形土坑群が掘削され、近代になると耕作地を切り崩すように粘土採掘が行なわれたという、近世・近代の土地利用の変遷を考えることができる。

3　弥生時代後期～古墳時代前葉にかけての集落動向

本報告書で示す平成13・14年度の発掘調査以前の大町遺跡については、弥生土器の出土があったことが知られる程度で、遺跡の実態については不明であった。したがって、弥生時代後期～古墳時代前葉の当該地域における集落動向の中に位置付けられることもなかった。

ところが今回の発掘調査によって、集落の痕跡こそ明瞭には残っていなかったものの、自然河道から出土した多量の土器は、本遺跡が当該期の大規模集落であることを物語っている。しかも、近接する西大路遺跡、箕土路遺跡、下池田遺跡および軽部池西遺跡と時期もほぼ等しく、それらとともに遺跡群を形成していたと想定することさえできるようになったのである。そこでまず、当該時期における各遺跡の概要を述べておきたい。

西大路遺跡では、弥生時代後期の竪穴住居3軒や土坑、自然河川など、庄内式期の竪穴住居4軒や土坑、土器溜り、水利施設、溝、自然河川などが検出されている。庄内式期の竪穴住居のうち2軒には、ベッド状施設が附設されていて、他の住居よりも規模は若干大きい。このことから、集落内での階層は分化していたとみられ、それに応じて、集落規模も小さいものではなかったと推測できる。

箕土路遺跡では、弥生時代後期～古墳時代前期(庄内・布留式期)の土坑や土器溜り、溝、自然流路などが検出されている。土器溜りは古墳時代前期に比定されている。また流路のうち幅1.2mを測り、弥生時代後期の土器が出土して1011－ORは、天の川の前身河川であると推測されている。集落が形成されたとする確定的な証拠はないが、集落域が調査区に近在しているとみられている。

下池田遺跡では、弥生時代後期の円形周溝墓4基、弥生中期～後期の竪穴住居20軒以上、溝、井戸、土坑、河道などが複数発見されている。4基の円形周溝墓のうち1基は単独で存在し、3基は連接している。単独の周溝墓は、内周半径約6mを測る。やや長円形の形状を呈しており、一隅に幅3.4m・長3.7mの陸橋部が設けられている。この下池田遺跡がここで扱う地域周辺の弥生時代後期の中核集落であることは疑いを得ない。ただ現状では、庄内式期に入ると、それ以前の繁栄は後退するとみられている。

軽部池西遺跡では、弥生時代後期の竪穴住居7軒を始め、土器溜り、ピット群、溝・溝状遺構、自然河川などが見つかっている。弥生時代中期より継続する集落であるが、庄内式期は衰退するようである。

大町遺跡の集落内容については、本報告で述べたように、後世の削平のために詳細を得ない。とはいえ、河道2・3から出土した多量の土器と、当該期に比定できると考える075竪穴状遺構から若干の推測を行なうことはできる。

河道2・3から出土した土器の過半は甕である。このことは、河道周辺に居住域のあったことを端的に示している。加えて、弥生時代に属するかと思われるミニチュア土器、胴部穿孔のあるV様式系甕(186)、そして底部穿孔された布留式期の小型鉢(77)の存在は、墓域が付近にあったこと

も暗示している。

河道から出土した土器には弥生中期前半～布留式期までのものが認められる。とはいえ、V様式系甕の多さに反映されて、庄内式期の土器が多いことになる。この点をそのまま受け取れば、庄内式期における居住域の大きさが想定される。

075 竪穴状遺構の性格については判然としない。既述したように、出土遺物はいずれも土器の小片であり、本来この遺構に伴ったものとは考えられず、よって出土遺物から遺構の性格を推測することはできない。ただ、周辺の住居が完全に削平され、その痕跡さえ残さない中で、4～5cmほどではあるが掘方が残っていたことは、もとより深い掘削によってこの遺構が構築されたことを示している。この点から、周辺にあったであろう住居とは性格を異にしていた可能性が高いといえる。

さらにこの遺構を特徴付ける点として、炭化物・焼土が認められた直列する3基の小穴の存在である。またその小穴群に平行して、粘土を用いた貼床域が延びている点も留意される。すなわち、火床を設置し、作業空間としての床面を補強しているのである。ただし、小穴内には加熱による赤化が認められず、長期間にわたり高熱を受けていたとは考えられない状況である。

小穴内の堆積土を水洗したのち1㎜目のフルイを用いて、包含された微細資料の抽出に努めた。しかし土器細片と炭化物以外に目立った検出物はなく、炭化物や焼土の形成原因を求めることはできなかった。

したがって、この075竪穴状遺構の具体的な性格付けはできない。ただし、加熱行為を伴なう工房であると推測することは可能である。

そうした場合、鍛冶や製塩に関わる工房を想定することができるかもしれない。後者については、遺跡内から製塩土器が出土していることから、可能性は残される。しかし海岸線より遠いことから、製塩作業のどの工程に位置していたかは明らかではない。

また鍛冶工房については、鉄滓など、それを裏付ける遺物が遺構内や小穴内から出土していない点、さらに小穴内の被熱度が低い点から、積極的には肯定できない。

いずれにせよ性格付けについては具体的な根拠を欠いているが、この遺構を工房とみることには大過ないであろう。そして出土遺物から、この工房は庄内式期に機能し、布留式期に廃絶したとみられる。よって、集落内には居住域・墓域とともに工房(域)も存在したと捉えることが充分にでき得る。

以上のことから、この大町遺跡を弥生後期から継続し、庄内式期に盛行した大規模集落と捉えることができよう。さらに、東海や吉備に系譜をもつとみられる土器の存在もまた、この遺跡の中核性を示しているといえよう。

こうした各遺跡の動向をみると、中核集落としての地位が庄内式期に下池田遺跡から大町遺跡に移行したかのようである。とはいえ集落動向は、土器や帰属時期の認識と関わって評価付けられるので、ここでは、弥生時代後期～古墳時代前葉において、主としてその前半期に盛行した下

池田遺跡と後半期に盛行した大町遺跡の２つの中核集落があり、その周囲に西大治遺跡、箕土路遺跡、軽部池西遺跡などの規模差のある集落が衛星的に点在していたと考えておくに留めたい。

4　調査区域の土地利用の変遷

本報告書でこれまで述べてきた調査区の遺構変遷などをまとめると、以下のようになる。

縄文後期	河道１の埋没
弥生中期	基盤層形成の完了
弥生後期末	河道(NR001、河道２・3)の埋没開始
古墳時代初頭	中核集落の形成 075 竪穴状遺構・030 土坑の形成 河道(NR001、河道２・3)の埋没完了
古墳時代後期～中世	耕作地化？
近世後期	大規模地形改変
近世末	耕作地形成(長方形土坑群、080 溝、076 溝、SD006)
近代	粘土採掘(不定形土坑)

04－1 区の基盤層は、出土木材の年代測定によって弥生時代中期中葉に形成されたことが判明している。また河道１は、出土した縄文土器により、縄文時代後期に埋没したと考えることができる。こうしたことからすると、調査地周辺では縄文時代後期から弥生時代中期にかけて、南東方向から北西方向に基盤層形成が完了し、中期後半には安定期に入ったと捉えることができる。和泉地域においては東から西に河道が移動する傾向にあるといわれているが、大町遺跡の基盤層の形成過程はそうした傾向を反映している。また、西方に押しやられた河道のひとつが、微高地東辺に沿って流れる現在の天の川であろう。

弥生時代中期中葉に基盤層の形成が安定し、それにより周辺地における居住域が成立・伸張したことは、河道２・３における中期後半以降の土器量の増加が示している。

そして、弥生後期(後半)から古墳時代前葉にかけて、この一帯で大規模な集落形成が展開した可能性が極めて高いのである。この点は、河道内堆積土から抽出された花粉の分析により、河道埋没時には「人里植物」の生育する環境にあり、また水湿地生植物の花粉から水田の存在が予測されると指摘があり、集落形成についての裏付けとなる。

さらに、古墳時代後期～中世にかけての遺物も少なからず出土していることから、そうした時期の人々の活動もこの周辺で行なわれていたことが予測される。

ところがそうした生活の痕跡や、それ以前の久米田古墳群との関係が推測できる弥生時代後期～古墳時代前葉の様相などは、近世後期の大規模な地形改変によって、大半が喪失し、不明となってしまったのである。

今後、本報告書で扱った地区の周辺で発掘調査が実施され、成果が積み上げられていけば、そうした時期の様相も具体的に知られることであろう。

引用・参考文献

【単行本·論文】

池峰龍彦 2006　「和泉北部地域における弥生時代集落の動向」『みずほ』第 40 号（大和弥生文化の会）

太田亮 1925　『日本国誌資料叢書　和泉』（磯部甲陽堂）

岸和田市史編さん委員会(編)1979　『岸和田市史　第 1 巻』（岸和田市）

岸和田市史編さん委員会(編)1979　『岸和田市史　第 7 巻』（岸和田市）

岸和田市史編さん委員会(編)1980　『岸和田市史　第 8 巻』（岸和田市）

佐藤由紀男・萩野谷正宏・篠原和大 2002　「遠江・駿河地域」『弥生土器の様式と編年　東海編』（木耳社）

立石菜穂 1995　「和泉の弥生時代と遺跡」『弥生時代の大阪湾沿岸』（大阪経済法科大学出版部）

中世土器研究会(編)1995　『概説　中世の土器・陶磁器』（真陽社）

西村歩 1996　「第 6 章　和泉北部の古式土師器と地域社会」『下田遺跡－都市計画道路常盤浜寺線建設に伴う発掘調査報告書－』（(財)大阪府埋蔵文化財協会）

樋口吉文 1990　「和泉地域」『弥生土器の様式と編年　近畿編Ⅱ』（木耳社）

前田清彦・鈴木とよ江 2002　「三河地域」『弥生土器の様式と編年　東海編』（木耳社）

山田隆一 1998　「大阪府下出土の東海・東国地域の土器」『庄内式土器研究』ⅩⅥ(庄内式土器研究会）

【発掘調査報告書】

[小田遺跡](財)大阪府埋蔵文化財協会 1990　『都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書　小田遺跡』

[軽部池西遺跡](財)大阪府埋蔵文化財協会 1987　『都市計画道路・府道磯之上山直線建設に伴う　軽部池西遺跡発掘調査報告書』((財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第 11 輯）

[下池田遺跡] 大谷女子大学資料館 1987　『下池田遺跡－第 2 次発掘調査報告－』（大谷女子大学資料館報告書第 17 冊）

[西大路遺跡](財)大阪府埋蔵文化財協会 1988　『都市計画道路磯之上山直線建設に伴う　西大路遺跡発掘調査報告書』((財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第 23 輯）

[箕土路遺跡](財)大阪府埋蔵文化財協会 1987　『都市計画道磯之上山直線建設に伴う　箕土路遺跡発掘調査報告書』((財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第 13 輯）

[安松田遺跡]大阪府教育委員会 2005　『安松田遺跡』（大阪府埋蔵文化財調査報告 2004－3）

[山ノ内遺跡](財)大阪府埋蔵文化財協会 1988　『主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う　山ノ内遺跡発掘調査報告書』((財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第 34 輯）

実測遺物観察表

拓影遺物観察表

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
1	03-1区	SD006	土器	弥生後期	壺	(高)現10.1	長頸壺	【頸部】(外)ハケ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ユビナデ
2	03-1区	SD006	土器	布留	鉢	(口)20.0 (高)現6.1	口縁部端直立気味	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラケズリ(内)ヘラナデ
3	03-1区	SX008	陶器	近世	碗	(高)現2.1	高台部高め	【胴部】(内)施釉
4	03-1区	SX008	瓦器	平安末～鎌倉初	椀	(口)16.2 (高)現3.0	胴部・口縁部直線的に外傾	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビオサエ(内)ミガキ
5	03-2区	NR001	土器	弥生中期前半	壺	(口)50.0 (高)現6.7	口縁部開き強い	【口縁部】(外)—(内)—
6	03-2区	NR001	土器	弥生中期前半	壺	(口)19.4 (高)現5.5	口縁部の開き弱い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ・ヘラナデ
7	03-2区	NR001	土器	弥生中期中葉	壺	(高)現5.9	口縁部直立	【口縁部】(外)ユビナデ(?)(内)ユビナデ
8	03-2区	NR001	土器	弥生中期中葉	壺	(口)28.2 (高)現7.7	口縁部内傾	【口縁部】(外)—(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
9	03-2区	NR001	土器	弥生中期中葉	壺	(高)現25.5	大型品	【頸部】(外)ハケ(内)ハケ 【胴部】(外)—(内)ハケ
10	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	(口)29.2 (高)現2.4	折返口縁部	【口縁部】(外)—(内)—
11	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	(口)37.8 (高)現3.6	口縁部端直立、大型品	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
12	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	(口)20.4 (高)現10.6	折返口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【頸部】(外)ユビナデ(?)(内)ユビナデ
13	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	(口)23.6 (高)現4.8	口縁部内面肥厚	【口縁部】(外)—(内)ユビナデ
14	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	(口)14.9 (高)現3.8	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
15	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	(口)19.2 (高)現3.2	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
16	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	(口)18.1 (高)現3.2	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
17	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	(口)25.0 (高)現5.0	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)—(内)—
18	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	(口)17.7 (高)現5.6	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
19	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	(口)15.1 (高)現3.3	口縁部開き強い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【頸部】(外)ミガキ(内)ユビナデ
20	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	(口)16.4 (高)現4.6	口縁部端直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(?)(内)ユビナデ
21	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	(口)15.6 (高)現4.4	口縁部上端僅かに肥厚	【口縁部】(外)—(内)ユビナデ(?)
22	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	(口)20.2 (高)現5.2	口縁部端上肥厚	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)—
23	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	(口)21.2 (高)現5.0	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)—(内)—
24	03-2区	NR001	土器	弥生後期(～庄内)	壺	(口)19.2 (高)現3.5	貼付口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ(?)(内)—
25	03-2区	NR001	土器	(弥生後期～)庄内	壺	(口)16.5 (高)現3.4	口縁部開き強い	【口縁部】(外)ミガキ(内)ユビナデ
26	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)14.0 (高)現1.4	口縁部の開き強い	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ
27	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)37.6 (高)現4.4	口縁部の開き弱い、大型品	【口縁部】(外)—(内)—
28	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)17.4 (高)現6.0	口縁部端直立気味	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ(?)
29	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)17.4 (高)現7.8	口縁部外反強い	【口縁部】(外)—(内)—
30	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)18.0 (高)現5.6	貼付口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【頸部】(外)—(内)—
31	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)18.3 (高)現5.6	頸部外傾、口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ミガキ
32	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)22.5 (高)現7.9	有段口縁部	【口縁部】(外)—(内)イタナデ(?)
33	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)19.8 (高)現4.2	有段口縁部	【口縁部】(外)—(内)ミガキ
34	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)17.4 (高)現7.4	有段口縁部、口縁部端尖り気味	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)タタキ(内)—
35	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)22.4 (高)現8.2	受口状口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	7.5YR7/4	2.5Y7/1	03－113	B		酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/3	10YR6/2	03－104	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR3/3	2.5Y8/1	03－272	A		
	良好	N4/0	N3/0	03－275	A		白色粒子
	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－117	A	日明山型	長石、チャート、白色粒子
口縁部櫛描直線文	良好	7.5YR8/4	7.5YR8/4	03－67	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
口縁部簾状文	やや良好	7.5YR7/6	7.5YR7/6	03－47	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
口縁部櫛描直線文・波状文、頸部櫛描直線文	良好	2.5Y8/2	2.5Y8/2	03－179	B		長石、石英、白色粒子
	良好	10YR8/2	10YR6/4	03－215	B		長石、クサリ礫、白色粒子
口縁部円形浮文・櫛歯刺突文	良好	10YR8/3	10YR7/2	03－221	A		長石、石英、クサリ礫
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－30	A		長石、石英、チャート、黒色粒子
口縁部櫛歯刺突文、頸部簾状文	良好	7.5YR5/4	5YR6/3	03－257	A		長石、クサリ礫、黒色粒子
口縁部凹線文	不良	7.5YR4/6	10YR6/6	03－78	A		チャート、白色粒子
	良好	10YR7/2	10YR7/3	03－115	A	紐孔	石英、黒色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－48	A		長石、黒色粒子、白色粒子
口縁部凹線文	良好	2.5Y7/3	2.5Y7/1	03－175	A		クサリ礫、白色粒子
口縁部円形浮文	良好	2.5Y7/3	10YR7/3	03－265	A		長石、石英、酸化赤粒
口縁部円形浮文	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/3	03－135	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
口縁部円形浮文	良好	10YR6/2	10YR7/2	03－103	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－52	A		酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	不良	2.5YR8/3	2.5YR8/3	03－76	A		長石、石英、白色粒子
	良好	5YR7/4	10YR6/4	03－32	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5Y7/1	5YR6/3	03－266	A		長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
口縁部円形浮文(2段)・櫛描波状文	良好	10YR7/3	10YR7/4	03－190	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
口縁部円形浮文(2段)	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－100	A		長石、黒色粒子、白色粒子
口縁部端櫛描波状文、円形浮文(竹管押圧)	良好	7.5YR8/3	7.5YR8/3	03－70	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
口縁部円形浮文(竹管押圧)	良好	10YR4/1	10YR6/3	03－65	A		長石、石英、角閃石、白色粒子
口縁部竹管文	良好	10YR6/1	5YR7/4	03－158	B	2次焼成	長石、石英、チャート、白色粒子
口縁部円形浮文	やや良好	5YR7/4	7.5YR7/3	03－4	B		長石、チャート、酸化赤粒
口縁部波状文	やや良好	7.5YR7/2	10YR8/2	03－3	A	東海系？	長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－267	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
口縁部円形浮文	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－136	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y8/2	03－51	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	5YR6/6	5YR6/6	03－131	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/4	03－214	B		長石、石英、白色粒子

実測遺物観察表(1)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
36	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)20.0 (高)現4.2	受口状口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ(?)(内)ユビナデ(?)
37	03-2区	NR001	土器	庄内～布留	壺	(口)24.0 (高)現4.8	有段口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)ユビナデ
38	03-2区	NR001	土器	(庄内～)布留	壺	(口)15.2 (高)現5.2	胴部の張り弱い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
39	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)16.6 (高)現10.7	口縁部端直立気味	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)イタナデ
40	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)12.9 (高)28.1	胴部球形、口縁部短い	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ユビナデ・イタナデ
41	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(胴)23.3 (高)現21.5	胴部下半最大径、器壁厚い	【胴部】(外)タタキ・ミガキ(内)イタナデ
42	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(口)15.8 (高)現4.4	貼付口縁	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)イタナデ(?)
43	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(口)16.0 (高)現4.2	貼付口縁部	【口縁部】(外)—(内)ミガキ
44	03-2区	NR001	土器	(庄内～)布留	壺	(口)15.4 (高)現12.2	直口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)— 【胴部】(外)ミガキ(内)イタナデ・ユビオサエ
45	03-2区	NR001	土器	(庄内～)布留	壺	(高)現6.5	口縁部直線的に立上る	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)イタナデ
46	03-2区	NR001	土器	(庄内～)布留	壺	(口)12.8 (高)現6.1	直口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)イタナデ
47	03-2区	NR001	土器	(庄内～)布留	壺	(口)15.2 (高)現6.2	口縁部やや開く	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ
48	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(口)12.3 (高)現4.6	直口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)イタナデ(?)
49	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(口)11.9 (高)現9.1	直口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラケズリ
50	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(口)18.2 (高)現10.3	直口縁部、やや開く	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)—
51	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(口)8.2 (高)現11.6	小型直口壺、器壁厚い、いびつ	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ユビナデ
52	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(高)現9.4	小型直口壺(?)	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ・ヘラケズリ(内)ヘラケズリ
53	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	(口)9.9 (高)16.3	胴部中程最大径、尖底	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)イタナデ
54	03-2区	NR001	土器	布留	小形壺	(口)10.2 (高)現5.6	口縁部直立気味	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ミガキ
55	03-2区	NR001	土器	庄内	小型壺	(口)8.2 (高)現6.2	胴部球形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
56	03-2区	NR001	土器	(庄内～)布留	小型壺	(口)8.8 (高)現5.9	胴部球形	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
57	03-2区	NR001	土器	布留	小型壺	(口)9.6 (高)現7.2	胴部球形化	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
58	03-2区	NR001	土器	庄内～布留	小型壺	(口)8.8 (高)現10.2	胴部球形、底部平坦	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ・ユビナデ
59	03-2区	NR001	土器	布留	小型壺	(口)6.9 (高)現8.9	底部僅かに突出	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
60	03-2区	NR001	土器	庄内(～布留)	壺	(高)現5.4	頸部直立気味	【頸部】(外)ヘラナデ(内)ミガキ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビオサエ・ユビナデ
61	03-2区	NR001	土器	庄内～布留	壺	(高)現4.7	頸部に低凸帯	【頸部】(外)—(内)—
62	03-2区	NR001	土器	庄内～布留	壺	(高)現5.3	底部の開き強い	【胴部】(外)ヘラナデ(内)イタナデ 【底部】(外)ユビオサエ・イタナデ
63	03-2区	NR001	土器	布留	壺	(高)現8.1	大型品(?)	【胴部】(外)ヘラケズリ(内)イタナデ
64	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	鉢	(口)23.6 (高)現6.5	口縁部肥厚	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(?)(内)ユビオサエ・ユビナデ
65	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	台付鉢	(高)現4.8	脚部の開き強い	【鉢部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ(?) 【脚部】(外)—(内)ユビオサエ・ユビナデ
66	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	鉢	(口)28.0 (高)現4.4	貼付口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
67	03-2区	NR001	土器	弥生後期	台付鉢	(高)現4.6	低脚部	【鉢部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【脚部】(外)ヘラナデ・ユビナデ
68	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	鉢	(口)22.8 (高)現5.6	口縁部端平坦	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ
69	03-2区	NR001	土器	弥生後期	小型鉢	(高)現5.7	底部ほぼ平坦	【胴部】(外)ヘラケズリ(内)ヘラナデ・ユビナデ 【底部】(外)ヘラナデ
70	03-2区	NR001	土器	弥生後期	鉢	(高)現3.5	底部輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ 【底部】(外)ユビオサエ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	10YR7/4	10YR7/3	03－216	A		石英、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/3	03－97	A		長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR7/4	03－33	A		長石、石英、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	2.5Y6/3	03－213	B		クサリ礫、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－12	D	胴部外面黒斑	長石、クサリ礫、雲母
	やや良好	5YR7/6	5YR7/6	03－10	C	胴部外面煤付着	長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－19	A		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－50	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR6/6	5YR6/6	03－132	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR7/3	5YR7/3	03－184	A		長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－185	A		長石、石英、チャート、クサリ礫、酸化赤粒
	やや良好	2.5Y7/3	7.5YR7/3	03－39	A		長石、石英、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－55	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR7/3	7.5YR7/4	03－91	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	やや良好	5YR7/3	5YR7/3	03－206	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－129	C		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR8/1	5YR7/3	03－90	B		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR6/2	10YR6/2	03－11	D	口縁部・胴部外面黒斑	長石、石英、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－38	A		雲母、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	7.5YR6/4	7.5YR6/4	03－156	B		長石、石英、雲母、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/3	03－153	C		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y6/6	5YR6/6	03－250	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－127	C		長石、チャート、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/2	03－207	D		長石、石英、クサリ礫、黒色粒子、白色粒子
頸部櫛歯刺突文、胴部櫛歯波状文	良好	5YR6/4	5YR7/4	03－223	A	東海西部系	長石、チャート、白色粒子
頸部矢羽状文	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－23	A		長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/4	03－15	A	胴部外面黒斑	長石、チャート、白色粒子
	良好	5Y5/1	10YR6/4	03－92	A		長石、石英、白色粒子
胴部簾状文	良好	10YR7/3	7.5YR7/3	03－248	B		長石、石英、白色粒子
	良好	7.5YR8/6	7.5YR8/6	03－73	A		長石、チャート、白色粒子
胴部簾状文	良好	7.5YR5/3	10YR5/3	03－109	A	生駒西麓系	長石、角閃石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR6/6	7.5YR7/4	03－154	B		石英、酸化赤粒、白色粒子
口縁部凹線文	やや不良	10YR8/2	10YR8/2	03－69	A		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR7/3	03－99	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	5YR6/6	03－40	A		石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子

実測遺物観察表(2)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
71	03-2区	NR001	土器	弥生後期	鉢	(高)現4.0	脚部開く	【胴部】(外)ユビオサエ・ヘラナデ(内)ヘラナデ 【底部】(外)ユビオサエ(内)ユビナデ
72	03-2区	NR001	土器	弥生後期	鉢	(高)現3.9	「ハ」状に開く	【胴部】(外)ユビナデ・ヘラケズリ(内)ヘラナデ
73	03-2区	NR001	土器	庄内～布留	丸底鉢	(口)13.0 (高)5.0	口縁部端尖り気味	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)—
74	03-2区	NR001	土器	布留	鉢	(口)10.8 (高)現4.0	口縁部・胴部外傾	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビナデ(内)内面ミガキ
75	03-2区	NR001	土器	庄内(～布留)	鉢	(口)23.0 (高)11.5	底部僅かに突出	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ミガキ
76	03-2区	NR001	土器	布留	丸底鉢	(口)10.5 (高)12.3	胴部球形に近い	【口縁部】(外・内)— 【胴部】(外)ミガキ(内)ミガキ
77	03-2区	NR001	土器	布留	小型鉢	(口)11.3 (高)8.7	胴部球形化	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ミガキ
78	03-2区	NR001	土器	弥生後期～庄内	有孔鉢	(高)現2.2	底部の突出弱い	【底部】(外)—(内)ヘラナデ
79	03-2区	NR001	土器	弥生後期～庄内	有孔鉢	(高)現5.2	胴部外傾強い	【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ
80	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	高杯	(口)22.9 (高)現4.4	口縁部直立気味	【口縁部】(外)ユビナデ(?)(内)ユビナデ(?)
81	03-2区	NR001	土器	弥生後期	高杯	(高)現9.0	有稜高杯(?)	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
82	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	高杯	(脚)13.3 (高)現13.4	脚部柱状	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
83	03-2区	NR001	土器	弥生後期	高杯	(高)現10.5	有稜高杯	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
84	03-2区	NR001	土器	弥生後期	高杯	(脚)12.9 (高)現6.7	脚部柱状・裾開き	【脚部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ
85	03-2区	NR001	土器	庄内	高杯	(杯)22.8 (高)現12.8	有稜高杯	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)—(内)イタナデ
86	03-2区	NR001	土器	庄内	高杯	(脚)11.9 (高)現12.2	有稜高杯	【杯部】(外)ミガキ(内)— 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
87	03-2区	NR001	土器	庄内	高杯	(杯)17.5 (高)現10.6	有段高杯	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【脚部】(外)ミガキ(?)(内)ユビナデ
88	03-2区	NR001	土器	庄内	高杯	(杯)10.6 (高)6.0	杯部・脚部とも低い	【杯部】(外)ミガキ(?)(内)ミガキ(?) 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
89	03-2区	NR001	土器	庄内	高杯	(脚)8.4 (高)現4.9	脚部内湾気味	【脚部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
90	03-2区	NR001	土器	庄内～布留	高杯	(脚)12.7 (高)現9.4	脚部「ハ」字状に開く	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
91	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(口)14.9 (高)10.2	脚部端僅かに折込む	【杯部】(外)ハケ・ミガキ(内)ハケ・ミガキ 【脚部】(外)ミガキ・ユビナデ(内)ヘラナデ
92	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(杯)11.1 (高)7.6	杯部直線的に立上る	【杯部】(外)ミガキ(内)— 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
93	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(口)11.6 (高)現4.5	杯部椀状	【杯部】(外)—(内)ミガキ
94	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(脚)10.0 (高)現7.3	脚部「ハ」字状	【脚部】(外)ミガキ(内)ミガキ
95	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(脚)12.4 (高)現6.6	脚部裾外反	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
96	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(脚)11.4 (高)現5.2	脚部柱状(?)	【脚部】(外)—(内)ヘラナデ
97	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(脚)12.5 (高)現7.3	脚部内湾気味	【脚部】(外)ヘラナデ(内)—
98	03-2区	NR001	土器	布留	高杯	(高)現4.8	低脚部	【脚部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
99	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	器台	(脚)13.0 (高)現7.2	脚部直線的に立上る	【脚部】(外)—(内)ハケ
100	03-2区	NR001	土器	庄内～布留	器台	(受)9.2 (高)7.3	受部浅い・端部丸い、脚部端丸い	【受部】(外)ミガキ(内)ユビナデ 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
101	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)36.0 (高)現6.8	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ハケ・ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ハケ
102	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)36.0 (高)現6.6	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
103	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)32.2 (高)現5.4	口縁部短く屈曲	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(?)(内)ユビナデ(?)
104	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)29.0 (高)現6.6	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
105	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)25.2 (高)現5.9	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ハケ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	7.5YR7/3	5YR7/6	03－252	B		長石、石英、白色粒子
	良好	10YR7/2	7.5YR6/3	03－241	B		長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR7/1	7.5YR7/4	03－174	B		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/2	10YR7/4	03－18	B		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－205	D		長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	5YR7/6	7.5YR7/4	03－6	D	底部穿孔	長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/2	2.5Y7/2	03－102	C	胴部外面黒斑	長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	5YR7/6	5YR7/6	03－66	A		白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR7/3	03－254	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
杯部凹線文	良好	10YR6/4	10YR6/4	03－31	A		長石、チャート、白色粒子
4方透孔	良好	10YR8/3	10YR7/3	03－210	B		長石、石英、チャート、クサリ礫、酸化赤粒
4方2孔透孔	良好	2.5Y7/2	7.5YR6/6	03－35	B	台付土器の可能性あり	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR5/2	10YR5/2	03－59	B		長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
3方透孔	良好	5YR6/6	7.5YR6/4	03－7	B		酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－211	C		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
4方透孔	良好	7.5YR8/2	10YR7/3	03－177	C	東海西部系	長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR7/4	5YR7/4	03－128	C		長石、石英、白色粒子
4方透孔	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/4	03－183	C		長石、石英、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－193	B		長石、石英、クサリ礫
4方透孔	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/4	03－37	B		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	やや不良	7.5YR8/3	7.5YR8/3	03－75	D		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/4	10YR7/4	03－191	C		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－202	A		長石、チャート、酸化赤粒
4方透孔	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/3	03－218	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
3方透孔	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－178	B		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
4方透孔	良好	5YR7/4	5YR7/4	03－5	B		長石、チャート、酸化赤粒
	不良	7.5YR6/8	10YR4/1	03－62	B		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR8/2	10YR8/2	03－77	A		長石、チャート、白色粒子
脚部凹線文	良好	7.5YR8/3	7.5YR8/3	03－71	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	不良	10YR8/2	10YR8/2	03－64	C		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	2.5Y6/2	03－181	B		長石、雲母、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y8/2	2.5Y8/2	03－263	A		長石、クサリ礫、黒色粒子、白色粒子
	良好	7.5YR7/3	2.5Y7/1	03－192	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
胴部簾状文	良好	10YR8/2	10YR8/2	03－68	A		長石、石英、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	5YR7/4	03－240	A		石英、酸化赤粒、白色粒子

実測遺物観察表(3)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
106	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)22.3 (高)現5.4	口縁部短く屈曲	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ
107	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)27.4 (高)現5.2	口縁部短く屈曲	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)—
108	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)35.0 (高)現5.7	口縁部短く屈曲	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)—
109	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)38.4 (高)現5.0	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
110	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	甕	(口)16.8 (高)現6.9	口縁部上端張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
111	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.6 (高)現10.9	口縁部端丸い、胴部張り弱い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
112	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.2 (高)現7.4	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ(?) 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
113	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.1 (高)現6.7	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
114	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)14.4 (高)現8.0	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
115	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)17.0 (高)現10.3	胴部球形化	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
116	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)16.9 (高)現8.9	胴部の張り弱い、口縁部開き強い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
117	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)17.4 (高)現9.6	口縁部開き強い、胴部の張り弱い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ
118	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)18.0 (高)現7.2	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ハケ・ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
119	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)17.0 (高)現7.3	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ・ユビナデ
120	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)14.7 (高)現11.6	胴部球形	【口縁部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
121	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)17.3 (高)現5.7	口縁部端僅かに立上る	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
122	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)24.2 (高)現6.6	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
123	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.0 (高)現5.7	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタケズリ
124	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)18.2 (高)現11.5	口縁部短い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
125	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)12.0 (高)現9.3	胴部球形	【口縁部】(外)ミガキ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)イタナデ(?)
126	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)16.6 (高)現13.2	胴部球形化	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
127	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.4 (高)現8.9	胴部球形化	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
128	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.8 (高)現9.8	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
129	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)16.0 (高)現10.1	口縁部端僅かに直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
130	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)13.4 (高)現9.4	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
131	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.8 (高)現9.7	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
132	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)26.2 (高)現8.5	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ユビナデ
133	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)14.8 (高)現6.2	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)イタナデ
134	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)18.8 (高)現7.7	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
135	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.2 (高)現7.2	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
136	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)18.2 (高)現8.7	口縁部直立気味	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)—
137	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)13.0 (高)現6.5	口縁部端丸い	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)タタキ(内)—
138	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)20.0 (高)現5.1	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
139	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)13.8 (高)現5.6	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
140	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)17.4 (高)現7.0	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)イタナデ・ユビオサエ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	10YR7/4	7.5YR7/4	03－53	A		長石、チャート、黒色粒子
	良好	7.5YR5/4	7.5YR5/3	03－54	A		長石、白色粒子(粒子多包)
	良好	10YR8/2	10YR8/2	03－74	A		長石、チャート、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	2.5Y7/3	03－197	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR5/4	03－142	B		長石、石英、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/4	03－244	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	7.5YR6/4	03－247	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	2.5Y7/2	03－196	B	口縁部外面煤付着	長石、石英、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	7.5YR7/2	7.5YR7/4	03－238	B		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－21	A	胴部外面煤付着	長石、石英、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR6/4	7.5YR7/4	03－14	A		長石、チャート、クサリ礫、白色粒子
	やや良好	10YR5/3	10YR7/3	03－43	B		長石、チャート、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/4	03－125	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/3	03－243	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/3	7.5YR7/4	03－137	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR7/4	03－138	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/3	2.5Y7/3	03－96	A		長石、石英、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR7/4	03－84	A		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR5/3	10YR7/3	03－186	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	7.5YR6/3	7.5YR6/3	03－56	B		長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR7/2	7.5YR7/2	03－82	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/2	7.5YR7/2	03－22	A		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR8/2	10YR8/2	03－95	B	胴部外面煤付着	長石、石英、クサリ礫
	良好	10YR8/2	10YR7/2	03－200	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/3	03－253	B	胴部外面煤付着	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	5YR7/3	03－141	B		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR6/3	7.5YR7/3	03－2	B	胴部内外面煤付着	長石、酸化赤粒
	良好	10YR7/2	10YR6/2	03－146	C	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	5YR6/4	5YR6/4	03－24	B		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－182	B	胴部外面煤付着	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	2.5YR5/6	2.5YR6/6	03－126	B		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR8/3	7.5YR8/3	03－233	B		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5YR7/2	2.5YR7/4	03－85	A	口縁部外面煤付着	長石、石英、チャート
	良好	7.5YR6/4	7.5YR6/4	03－159	B		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	2.5Y7/3	03－145	C		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子

実測遺物観察表(4)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
141	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)14.6 (高)現6.3	小型品、口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
142	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)16.0 (高)現7.5	口縁部端僅かに直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
143	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.8 (高)現5.2	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
144	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)18.4 (高)現8.0	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
145	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)11.2 (高)現5.5	小型品、口縁部内湾気味	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
146	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)14.6 (高)現6.5	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
147	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)16.6 (高)現6.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ(?)
148	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)16.4 (高)現4.8	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ
149	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)16.3 (高)現8.5	胴部球形化	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)右下りタタキ(内)イタナデ
150	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)13.9 (高)現5.5	口縁部短め・端部丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ユビナデ
151	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)14.9 (高)現7.3	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)右下がりタタキ(内)イタナデ
152	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)12.0 (高)現12.3	口縁部端丸い、胴部球形化	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ・ユビナデ
153	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)13.6 (高)現6.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)右下りタタキ(内)イタナデ
154	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)24.0 (高)現8.2	胴部張り弱い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラケズリ 【胴部】(外)タタキ・ハケ(内)ヘラケズリ
155	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)15.2 (高)現8.5	胴部張り弱い、口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)右下がりタタキ(内)イタナデ
156	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現20.5	胴部球形	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ・ハケ
157	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現7.3	底部僅かに突出	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
158	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現11.0	胴部球形化	【胴部】(外)タタキ(内)ハケ
159	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現8.1	底部浅い輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ 【底部】(外)ユビナデ
160	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現7.2	底面ほぼ平坦	【胴部】(外)タタキ(内)ハケ 【底部】(外)イタナデ
161	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現6.2	底部浅い輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)ハケ 【底部】(外)ユビオサエ・ユビナデ
162	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現4.7	底部浅い輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
163	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現4.3	底部浅い輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
164	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現4.7	底部の突出弱く、ほぼ平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
165	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現3.4	底部浅い輪状台	【底部】(外)ユビオサエ(内)イタナデ
166	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現3.3	底部の突出弱く、ほぼ平坦	【底部】(外)タタキ(内)イタナデ
167	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現3.3	平底気味	【胴部】(外)タタキ・ユビナデ(内)—
168	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現3.6	底部浅い輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ 【底部】(外)ユビオサエ・ユビナデ
169	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現3.5	底部僅かに突出	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
170	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(高)現3.0	底部の突出弱い	【底部】(外)タタキ(内)イタナデ
171	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)16.6 (高)現8.4	口縁部受口状	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
172	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)17.7 (高)現9.5	口縁部端直立	【口縁部】(外)タタキ・ユビナデ(内)ハケ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ
173	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)17.2 (高)現6.4	口縁部端僅かに直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)右下りタタキ・ハケ(内)ヘラケズリ
174	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)13.8 (高)現9.1	口縁部端直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ
175	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)15.5 (高)現3.5	口縁部端内側肥厚	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－203	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR5/2	2.5Y7/2	03－188	B	胴部外面煤付着	長石、チャート、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/4	03－195	B	口縁部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－212	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－246	B		長石、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR6/4	03－139	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/2	10YR5/2	03－118	B	タタキ左右下がり	長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR6/6	10YR7/2	03－86	A	口縁部外面煤付着	長石、石英、チャート
	良好	7.5YR6/4	7.5YR7/6	03－29	B	大和系	長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/4	10YR6/4	03－13	A		長石、石英、チャート
	良好	7.5YR6/6	10YR7/3	03－140	B	大和系、胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	7.5YR5/6	7.5YR5/4	03－255	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	やや良好	10YR7/3	10YR7/4	03－105	B	大和系	長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR7/4	7.5YR7/4	03－239	A		長石、石英、白色粒子
	良好	10YR7/2	5YR6/3	03－204	B	大和系	長石、チャート、酸化赤粒
	良好	2.5Y5/1	2.5Y7/2	03－143	C	吉備系、胴部外面煤付着	長石、石英、白色粒子
	良好	5Y7/1	10YR8/2	03－264	A		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5YR8/2	2.5YR7/2	03－83	B	内面炭化物付着	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	10YR7/3	03－151	B	大和系、胴部外面煤付着	長石、石英、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR6/3	10YR6/3	03－36	B	底部煤付着、胴部籾圧痕	長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	10YR6/2	03－155	B		長石、黒色粒子、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	2.5Y6/4	03－249	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/3	03－237	B	胴部外面煤付着	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR6/6	2.5Y4/1	03－187	A	胴部外面煤付着	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR8/4	7.5YR8/4	03－72	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	2.5YR6/1	2.5YR6/1	03－87	A	底部煤付着	長石、チャート
	良好	5YR7/4	10YR7/2	03－42	A		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	不良	2.5Y8/2	2.5YR7/3	03－60	A		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR6/6	5YR5/6	03－219	A	胴部外面煤付着	長石、チャート、白色粒子
	良好	2.5YR5/2	2.5YR7/1	03－88	A	底部種子圧痕	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
頸部櫛歯刺突文	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－209	B	胴部外面煤付着	長石、石英、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/2	03－94	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	2.5Y5/1	2.5Y6/2	03－189	B	胴部外面煤付着	長石、石英、雲母、白色粒子
	良好	7.5YR4/1	7.5YR5/2	03－148	B	胴部外面煤付着	長石、石英、角閃石、雲母、白色粒子
	良好	10YR4/1	10YR4/1	03－112	A		長石、角閃石、白色粒子

実測遺物観察表(5)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
176	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)16.6 (高)現3.4	口縁部端直立気味	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ
177	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)15.2 (高)現3.5	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)イタナデ
178	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)16.2 (高)現2.8	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ヘラケズリ
179	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(口)16.8 (高)現4.4	口縁部端直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ハケ 【胴部】(外)タタキ・ハケ(内)ヘラケズリ
180	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(高)現5.5	平底	【胴部】(外)タタキ・ヘラナデ(内)ヘラナデ
181	03-2区	NR001	土器	庄内系	甕	(高)現14.8	丸底	【胴部】(外)タタキ・ハケ(内)イタナデ
182	03-2区	NR001	土器	弥生後期～庄内	甕	(口)19.2 (高)現2.5	口縁部直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ
183	03-2区	NR001	土器	布留系	甕	(口)15.0 (高)現6.7	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ヘラケズリ
184	03-2区	NR001	土器	布留系	甕	(口)16.7 (高)現9.1	口縁部端内側肥厚	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ヘラケズリ
185	03-2区	NR001	土器	布留系	甕	(口)11.4 (高)現16.6	胴部球形、口縁部短い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ハケ
186	03-2区	NR001	土器	V様式系	甕	(口)11.6 (高)11.6	胴部上半最大径	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
187	03-2区	NR001	土器	弥生後期～布留	甕	(口)10.1 (高)10.0	胴部いびつ	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビオサエ・ヘラケズリ(内)ユビオサエ・ヘラケ
188	03-2区	NR001	土器	庄内	手焙形土器	(高)現5.2	覆部正面僅かに肥厚	【覆部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
189	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	台形土器	(口)21.5 (高)現4.0	台部の張出しやや短め	【台部】(外)— 【脚部】(外)—(内)—
190	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	台付土器	(脚)15.0 (高)現4.3	脚部端直立	【脚部】(外)—(内)ユビナデ
191	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	台付土器	(脚)7.8 (高)現7.4	脚端部丸い	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
192	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	台付土器	(脚)12.2 (高)現3.9	脚端部肥厚	【脚部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
193	03-2区	NR001	土器	弥生	蓋	(裾)9.4 (高)現4.4	頂部筒状	【頂部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
194	03-2区	NR001	土器	弥生	蓋	(裾)10.2 (高)5.0	「ハ」状に開く	【頂部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
195	03-2区	NR001	土器	弥生	製塩土器	(脚)4.1 (高)現3.5	脚部低め	【脚部】(外)ユビオサエ(内)—
196	03-2区	NR001	土器	弥生	製塩土器	(脚)4.6 (高)現2.7	脚部低め	【脚部】(外)ユビオサエ(内)ユビナデ
197	03-2区	NR001	土器	弥生	ミニチュア	(高)現5.7	全体にいびつ、胴部直線的に外傾	【胴部】(外)ユビオサエ・ユビナデ(内)—
198	03-2区	NR001	土器	弥生	ミニチュア	(高)現4.6	底部ほぼ平坦	【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ
199	03-2区	NR001	土器	弥生	ミニチュア	(高)現3.5	底部平坦	【脚部】(外)ユビオサエ(内)ユビオサエ
200	03-2区	NR001	土器	弥生	ミニチュア	(口)5.5 (高)4.4	胴部直線的に外傾	【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【脚部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
201	03-2区	NR001	土器	弥生	ミニチュア	(高)現2.0	低脚部	【脚部】(外)ユビオサエ(内)ユビナデ
202	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)5.8 (高)10.2	砲弾形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
203	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)5.8 (高)10.6	砲弾形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
204	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)5.8 (高)10.0	砲弾形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
205	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)6.3 (高)9.8	砲弾形	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
206	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)4.0 (高)7.8	砲弾形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
207	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)4.8 (高)7.7	砲弾形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
208	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)4.2 (高)7.2	砲弾形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
209	03-2区	NR001	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(高)現4.1	丸底	【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
210	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		蓋	(高)現2.7	つまみ頂部窪む	【天井部】(外)カキメ(内)回転ユビナデ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	7.5YR6/4	7.5YR6/3	03－114	A		長石、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y6/1	03－98	A		長石、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y5/2	2.5Y5/2	03－25	A		長石、角閃石、雲母、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y5/2	2.5Y5/2	03－150	A		長石、角閃石、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR6/1	03－20	A	胴部外面煤付着	長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	10YR5/3	7.5YR5/3	03－222	C	胴部外面煤付着	長石、石英、角閃石、白色粒子
	良好	7.5YR5/6	7.5YR5/4	03－256	A	吉備系	長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR8/3	10YR8/3	03－61	A		長石、酸化赤粒
	良好	10YR8/4	10YR8/4	03－124	B		長石、石英、雲母
	良好	10YR7/3	7.5YR7/3	03－1	C	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR6/2	10YR6/2	03－9	C	胴部穿孔	長石、石英、白色粒子
	良好	10YR6/2	10YR6/2	03－17	C	内部に炭化種子、胴部外面煤付着	長石、白色粒子
覆部(正面)鋸歯文 (外面)鋸歯文・斜格子文	良好	7.5YR7/4	5YR7/6	03－89	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR8/3	7.5YR8/3	03－79	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
脚部凹線文	良好	10YR7/3	10YR8/2	03－106	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR6/2	03－16	B		長石、石英、チャート、白色粒子(粒子多包)
脚部凹線文	良好	2.5Y8/2	2.5Y8/2	03－194	A		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	5YR6/4	5YR6/4	03－120	D		長石、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－245	B		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR5/3	03－46	B	鉢の可能性あり	長石、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	10YR7/2	5YR7/3	03－63	B		長石、石英、白色粒子
	不良	10YR6/2	7.5YR7/4	03－251	C		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR8/2	10YR8/2	03－130	C		長石、石英、黒色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/4	03－123	B		黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR7/2	2.5Y7/2	03－201	B		長石、石英、酸化赤粒
	良好	10YR6/2	10YR6/2	03－122	B		長石、石英、白色粒子
	良好	10YR8/2	7.5YR8/2	03－228	D		長石、白色粒子
	良好	5YR6/6	5YR7/4	03－227	C		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/2	10YR7/3	03－226	D		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR8/2	10YR8/2	03－180	D		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	10YR7/3	03－231	D		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR7/3	7.5YR7/3	03－229	D		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	10YR7/3	03－230	D		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR7/3	10YR7/3	03－108	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	N7/0	N7/0	03－173	B		

実測遺物観察表(6)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
211	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		高杯	(脚)15.4 (高)現4.1	脚部端肥厚	【脚部】(外)カキメ(内)回転ユビナデ
212	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器	平安後期	甕	(口)28.0 (高)現5.9	口縁部開き強い	【口縁部】(外)回転ユビナデ(内)回転ユビナデ
213	03-2区	NR001東岸整地土	土師質土器	平安後期～鎌倉前	土釜	(口)21.6 (高)現4.4	玉縁状口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ(?) 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ(?)
214	03-2区	NR001東岸整地土	瓦質土器		鉢	(高)現5.0	平底	【胴部】(外)—(内)— 【底部】(外)—
215	03-2区	NR001東岸整地土	瓦質土器	室町前期	羽釜	(口)26.7 (高)現4.0	口縁部直線的に内傾	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
216	03-2区	NR001東岸整地土	灰釉陶器		碗	(高)現2.1	角腰	【胴部】(外)施釉(内)施釉
217	03-2区	NR001東岸整地土	灰釉陶器		鉢	(高)現1.7	高台部低い	【胴部】(外)ユビナデ(内)施釉
218	03-2区	NR001東岸整地土	磁器	近代	鉢	(口)18.3 (高)現4.4	端折口縁部	【口縁部】(外)染付(内)染付 【胴部】(外)染付(内)染付
219	03-2区	NR001東岸整地土	磁器	近世後期	碗	(高)現2.3	丸腰	【胴部】(外)染付
220	03-2区	NR001東岸整地土	磁器	近代	鉢	(高)現1.7	高台部低い	【胴部】(外)染付
221	03-2区	NR001東岸整地土	磁器	近世後期	碗	(口)7.4 (高)現4.6	端折口縁部	【口縁部】(外)白泥釉(内)白泥釉 【胴部】(外)白泥釉(内)白泥釉
222	03-2区	NR001東岸整地土	土製品		土錘	(長)現3.1 (径)1.2	管状	【外面】ヘラナデ
223	03-2区	NR001東岸整地土	土製品		土錘	(長)4.2 (径)1.0	管状	【外面】ヘラナデ
224	03-2区	NR001東岸整地土	土製品		土錘	(長)4.2 (径)1.1	管状	【外面】ヘラナデ
225	03-1区	一括	土器	庄内	高杯	(杯)11.7 (高)8.6	杯部浅い椀状	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【脚部】(外)—(内)—
226	03-1区	一括	土器	布留	高杯	(杯)12.4 (高)現8.0	杯部椀状	【杯部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【脚部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
227	03-2区	一括	土器	弥生後期	壺	(口)21.5 (高)現3.7	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ
228	03-2区	一括	土器	弥生後期	壺	(高)現6.5	広口(?)	【口縁部】(外)—(内)—
229	03-2区	一括	土器	庄内	壺	(口)19.0 (高)現3.5	貼付口縁部	【口縁部】(外)ヘラナデ(?)(内)ユビナデ
230	03-2区	一括	土器	布留	壺	(口)12.8 (高)現5.5	直口縁部	【口縁部】(外)—(内)—
231	03-2区	一括	土器	庄内	壺	(高)現6.8	頸部直立気味	【頸部】(外)ハケ・ミガキ(内)ミガキ
232	03-2区	一括	土器	庄内	壺	(口)15.5 (高)現8.0	口縁部上半外傾・端部立上り気味	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ・ユビナデ
233	03-2区	一括	土器	庄内	小型壺	(口)10.6 (高)現8.5	胴部球形	【口縁部】(外)ユビオサエ・ユビナデ(内)ハケ 【胴部】(外)タタキ・ミガキ(内)ハケ・ヘラナデ
234	03-2区	一括	土器	弥生中期後半	鉢	(口)42.8 (高)現7.5	大型品	【口縁部】(外)—(内)—
235	03-2区	一括	土器	弥生中期後半	鉢	(口)27.0 (高)現6.9	口縁部肥厚	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ
236	03-2区	一括	土器	庄内	高杯	(高)現4.9	有段高杯	【杯部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ(?)
237	03-2区	一括	土器	布留	高杯	(杯)11.8 (高)7.6	杯部やや浅い	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
238	03-2区	一括	土器	布留	器台	(受)10.0 (高)8.2	器受部端直立	【受部】(外)ミガキ(内)— 【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
239	03-2区	一括	土器	V様式系	甕	(口)18.4 (高)現19.2	口縁部端丸い、胴部球形	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ・ヘラナデ(内)イタナデ
240	03-2区	一括	土器	V様式系	甕	(口)14.1 (高)現15.1	胴部球形(やや下膨れ)	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
241	03-2区	一括	土器	V様式系	甕	(口)17.0 (高)現5.5	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
242	03-2区	一括	土器	V様式系	甕	(高)現4.8	底面緩やかに窪む	【胴部】(外)タタキ(内)— 【底部】(外)ユビオサエ・ユビナデ
243	03-2区	一括	土器	V様式系	甕	(口)14.3 (高)現10.3	胴部球形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ・ユビナデ(内)イタナデ
244	03-2区	一括	土器	庄内系	甕	(口)20.2 (高)現5.1	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ
245	03-2区	一括	土器	庄内系	甕	(口)18.0 (高)現6.7	口縁部端平坦	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	N5/0	N5/0	03－169	B		
	良好	7.5YR4/2	7.5YR4/3	03－172	A		
	良好	N5/0	N5/0	03－167	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	N6/0	N4/0	03－168	B		酸化赤粒、白色粒子
	良好	N3/0	N6/0	03－277	A		黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR6/2	03－270	A		
	良好	5Y4/4	2.5Y6/1	03－235	A		
	良好	7.5GY8/1	7.5GY8/1	03－236	A	型紙摺絵	
	良好	N8/0	N8/0	03－268	B		
	良好	N8/0	7.5Y8/1	03－269	A	半磁半陶、型紙摺絵	
	良好	N8/0	N8/0	03－234	B		
	良好	5YR6/4	5YR6/4	03－166	C		石英、白色粒子
	良好	7.5YR6/6	5YR5/4	03－170	D		白色粒子
	良好	5YR6/6	5YR6/6	03－171	D		白色粒子
4方透孔(1孔未貫通)	良好	10YR7/2	10YR7/1	03－220	C		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－121	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR6/2	03－27	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	やや不良	5YR6/6	5YR6/6	03－8	A		長石、石英、クサリ礫、白色粒子
口縁部竹管文	良好	10YR7/4	7.5YR7/6	03－152	A		長石、石英、黒色粒子、白色粒子
	良好	5YR7/6	5YR6/6	03－26	A		長石、クサリ礫、白色粒子
頸部刻目	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－242	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR6/4	5YR7/4	03－134	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5Y6/1	7.5Y7/1	03－261	C		長石、石英、白色粒子
棒状浮文	良好	2.5Y5/2	2.5Y5/2	03－160	B	生駒西麓系	長石、角閃石、黒色粒子、白色粒子
口縁部簾状文	良好	10YR7/2	10YR7/3	03－80	A	台付き(?)、外面黒斑	長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y8/2	03－232	A		長石、石英、クサリ礫、黒色粒子
3方透孔	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－176	D		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR8/3	10YR7/3	03－34	C		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/4	03－262	B		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	2.5YR7/3	2.5YR5/1	03－93	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	2.5Y6/1	N3/0	03－111	A	胴部外面煤付着	長石、白色粒子
	良好	5YR6/6	5YR6/4	03－41	A		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/2	10YR7/2	03－116	A		長石、石英、酸化赤粒
	良好	10YR6/3	10YR6/3	03－110	B		長石、クサリ礫、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y6/3	2.5Y6/3	03－260	B	胴部外面煤付着	長石、角閃石、白色粒子

実測遺物観察表(7)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
246	03-2区	一括	土器	庄内系	甕	(口)17.5 (高)現7.4	(口縁部端摩滅)	【口縁部】(外)ハケ・ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ・ハケ(内)ハケ
247	03-2区	一括	土器	庄内系	甕	(口)17.0 (高)現3.0	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラケズリ
248	03-2区	一括	土器	庄内系	甕	(口)15.0 (高)現3.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)イタナデ
249	03-2区	一括	土器	庄内系	甕	(高)現22.4	胴部球形、底部ほぼ平坦	【胴部】(外)タタキ・ミガキ(内)イタナデ
250	03-2区	一括	土器	布留系	甕	(口)19.6 (高)現7.6	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ユビナデ(?)
251	03-2区	一括	土器	布留系	甕	(高)現11.3	胴部球形	【胴部】(外)ハケ(内)ユビナデ・ヘラケズリ
252	03-2区	一括	土器	弥生	ミニチュア	(高)現5.8	胴部下膨れ	【脚部】(外)ユビナデ・ユビオサエ(内)ユビナデ・ユビオサエ
253	03-2区	一括	土器	弥生～古墳	製塩土器	(脚)3.6 (高)現3.4	脚部低め	【脚部】(外)ユビオサエ・ユビナデ(内)ユビナデ
254	03-2区	一括	土製品		土錘	(長)4.8 (径)0.8	管状	【外面】ヘラナデ
255	03-2区	一括	須恵器	平安末～鎌倉初	鉢	(口)32.8 (高)現3.0	口縁部僅かに屈曲して立上る	【口縁部】(外)回転ユビナデ(内)回転ユビナデ
256	03-2区	一括	須恵器	平安末～鎌倉初	鉢	(口)32.6 (高)現4.1	口縁部肥厚するのみ	【口縁部】(外)回転ユビナデ(内)回転ユビナデ
257	03-2区	一括	須恵器	古墳後期	高杯	(高)現3.1	脚部「ハ」字状に開く	【杯部】(外)回転ヘラナデ(内)回転ユビナデ 【胴部】(外)回転ユビナデ(内)回転ユビナデ
258	03-2区	一括	土器	平安後期	皿	(口)9.2 (高)現1.5	口縁部僅かに外反	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビオサエ(内)ユビナデ
259	03-2区	一括	土器	平安後期	皿	(口)8.6 (高)現1.2	口縁部直線的に外傾	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビオサエ(内)ユビナデ
260	03-2区	一括	瓦器	平安末	椀	(口)15.2 (高)現2.8	胴部・口縁部直線的に外傾	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビオサエ(?)(内)ミガキ(?)
261	03-2区	一括	瓦器	平安末	椀	(口)16.6 (高)現4.8	胴部・僅かに内湾	【口縁部】(外)ユビナデ(内)— 【胴部】(外)ユビオサエ(内)—
262	03-2区	一括	土師質土器	平安後期～鎌倉前	土釜	(口)25.6 (高)現4.7	口縁部端肥厚	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラケズリ(内)ユビナデ
263	03-2区	一括	青磁		碗	(口)11.2 (高)現3.0	胴部直線的に外傾	【口縁部】(外)施釉(内)施釉 【胴部】(外)施釉(内)施釉
264	03-2区	一括	緑釉陶器		碗	(高)現1.5	高台直立気味	【高台部】(外」)施釉(内)施釉
265	03-2区	一括	灰釉陶器		碗	(高)現1.8	高台直立	【高台部】(外」)施釉(内)施釉
266	03-2区	一括	陶器	近世後期	皿	(高)現1.8	平底	【胴部】(外)回転ヘラケズリ(内)回転ユビナデ
267	03-2区	一括	灰釉陶器	近世後期	碗	(高)現4.5	削出し高台	【碗部】(外)カンナケズリ(内)施釉 【高台部】(外)施釉(内)施釉
312	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)15.8 (高)24.9	胴部球形、底部僅かに突出	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ・ハケ(内)イタナデ
313	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	有孔鉢	(高)現7.0	胴部直線的に外傾	【胴部】(外)タタキ(内)ハケ
314	04-1区	河道2	土器	弥生～古墳	椀	(口)13.8 (高)現8.5	胴部下半に直径3.2cmの穿孔	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
315	04-1区	河道2	土器	庄内	壺	(口)19.2 (高)現6.0	有段口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ・ヘラナデ(内)ユビナデ・イタナデ
316	04-1区	河道2	土器	庄内	壺	(口)15.0 (高)現5.2	頸部直立	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【頸部】(外)ハケ(内)ミガキ
317	04-1区	河道2	土器	庄内～布留	鉢	(口)17.0 (高)現4.4	口縁部外反	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)—
318	04-1区	河道2	磁器	近世後期	碗	(口)9.8 (高)現4.1	胴部内湾	【胴部】(外)染付
319	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	甕	(口)36.2 (高)現5.8	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(?)(内)—
320	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	(口)15.3 (高)現4.2	口縁部端直立気味	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ミガキ
321	04-1区	河道2	土器	弥生後期	無頸壺	(口)9.4 (高)現4.0	口縁部端僅かに直立	【口縁部】(外)タタキ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ
322	04-1区	河道2	土器	弥生	無頸壺	(口)5.8 (高)現3.5	口縁部立上り低い	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
323	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)17.2 (高)現3.6	口縁部開き強い、口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
324	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現5.7	底部ほぼ平坦	【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	10YR6/3	10YR7/3	03－149	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	2.5Y5/1	N3/0	03－45	A		角閃石、白色粒子
	良好	5Y5/1	N3/0	03－44	A	胴部外面煤付着	長石、黒色粒子
	良好	10YR7/4	5YR5/6	03－208	C	胴部穿孔・炭化物付着	長石、石英、チャート、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/2	7.5YR6/4	03－28	A	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/3	03－101	A	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	2.5Y6/4	03－107	C	外面赤色顔料塗彩	長石、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	7.5YR6/4	7.5YR6/4	03－81	A		長石、酸化赤粒
	良好	2.5YR5/4	2.5YR5/4	03－58	D		
	良好	N7/0	N7/0	03－57	A		長石、白色粒子
	良好	N7/0	N7/0	03－49	A		
3方長方形透孔	良好	N7/0	N7/0	03－119	B		
	良好	10YR7/3	10YR7/3	03－274	B		石英、チャート、酸化赤粒
	良好	N6/0	N5/0	03－273	B		石英、白色粒子
	良好	N6/0	N3/0	03－276	A		黒色粒子、白色粒子
	良好	N4/0	N5/0	03－278	A		白色粒子
	良好	10YR6/4	7.5YR7/4	03－161	B		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5GY7/1	5GY7/1	03－271	A		
	良好	10YR5/2	10YR5/2	03－164	A		
	良好	2.5Y7/3	2.5Y7/3	03－162	B		
	良好	2.5Y6/2	2.5Y6/2	03－163	B		
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	03－165	B		
	良好	10YR7/2	7.5YR7/3	04－134	D	胴部外面煤付着	長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/3	7.5YR7/3	04－2	B		長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR6/6	10YR7/4	04－26	B		クサリ礫、白色粒子(白色粒子多包)
口縁部綾杉文	良好	5YR6/6	5YR6/6	04－125	A	東海西部系	長石、石英、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR8/3	10YR8/2	04－1	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR7/2	7.5YR7/2	04－25	B		長石、酸化赤粒(酸化赤粒多包)
	良好	7.5GY8/1	7.5GY8/1	04－69	B		
口縁部凹線文	良好	10YR6/4	10YR6/4	04－146	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y6/1	04－28	A		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/2	04－33	B		長石、チャート、白色粒子
	やや良好	2.5Y6/1	5YR7/6	04－92	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－119	A		長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR5/3	10YR7/2	04－8	A		長石、クサリ礫、白色粒子

実測遺物観察表(8)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
325	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現3.7	底部浅い輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
326	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	甕	(口)16.2 (高)現8.8	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)イタナデ・ユビオサエ
327	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(口)13.6 (高)現4.8	小型品、口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ・タタキ(内)イタナデ
328	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(口)14.5 (高)現3.6	口縁部端内側僅かに肥厚	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラケズリ
329	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(口)19.6 (高)現3.7	口縁部端直立	【口縁部】(外)—(内)—
330	04-1区	河道2	土器	庄内	高杯	(口)24.0 (高)現14.7	有稜高杯	【口縁部】(外)—(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
331	04-1区	河道2	土器	庄内～布留	鉢	(口)16.2 (高)現9.8	胴部球形	【口縁部】(外)ヘラナデ(？)(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ
332	04-1区	河道2	土器	庄内～布留	丸底鉢	(口)9.2 (高)6.0	口縁部内湾、胴部球形	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
333	04-1区	河道2	土器	布留系	甕	(口)16.8 (高)現9.8	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ユビオサエ・ヘラケズリ
334	04-1区	河道2	土器	布留系	甕	(口)21.0 (高)現4.5	口縁部端内側肥厚	【口縁部】(外)(内) 【胴部】(外)(内)
335	04-1区	河道2	土器	布留	鉢	(高)現2.9	ゆるい椀状	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)—
336	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	甕	(口)30.1 (高)現6.3	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)—
337	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	(口)19.2 (高)現9.3	受口状口縁部	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
338	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)13.0 (高)現5.6	小型品、胴部張り弱い	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
339	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)15.4 (高)現4.5	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)—
340	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)14.8 (高)現8.0	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ・ユビオサエ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
341	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)16.8 (高)現13.1	胴部球形	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
342	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)15.2 (高)現8.3	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
343	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現4.5	底部突出する	【胴部】(外)タタキ(内)ユビナデ
344	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現8.0	底部僅かに突出	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ・ユビナデ
345	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	有孔鉢	(高)現5.0	胴部直線的に外傾	【胴部】(外)タタキ(内)ハケ
346	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現3.4	底部平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
347	04-1区	河道2	土器	布留	壺	(口)21.4 (高)現4.2	有段口縁部	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
348	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	高杯	(杯)17.0 (高)現6.5	有稜高杯	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ
349	04-1区	河道2	土器	庄内	壺	(口)13.8 (高)現8.9	直口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ユビナデ
350	04-1区	河道2	土器	弥生中期前半	甕	(口)16.0 (高)現3.8	口縁部外反	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)—(内)—
351	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	甕	(口)18.0 (高)現4.9	口縁部端直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(?)・ヘラナデ(内)ヘラナデ
352	04-1区	河道2	土器	弥生中期中葉	壺	(口)11.2 (高)現8.9	長頸壺	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ
353	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	甕	(口)26.2 (高)現4.4	口縁部短く外反	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
354	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	壺	(口)20.0 (高)現4.8	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
355	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	甕	(口)17.1 (高)現2.9	口縁部端直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)イタナデ
356	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	(高)現14.9	長頸壺	【頸部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
357	04-1区	河道2	土器	弥生後期	高杯	(裾)15.2 (高)現9.8	脚部柱状	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
358	04-1区	河道2	土器	弥生	蓋	(裾)7.4 (高)4.2	胴部裾内湾	【頂部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
359	04-1区	河道2	土器	弥生	蓋	(高)現4.2	胴部直線的に広がる	【頂部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	5Y4/1	10YR6/6	04－60	A		長石、チャート、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/3	04－143	B	吉備系	長石、石英、チャート
	良好	10YR7/4	10YR7/3	04－112	A		長石、石英、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR6/6	10YR7/4	04－118	A		長石、石英、黒色粒子
	良好	2.5Y7/3	2.5Y7/3	04－147	A		長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子
3方向透孔	良好	7.5YR6/3	7.5YR6/3	04－7	B		長石、石英、チャート
	良好	10YR6/4	10YR8/3	04－151	B		長石、チャート、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	10YR7/4	2.5Y7/4	04－168	B		長石、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	10YR7/4	5YR7/6	04－40	B	胴部外面煤付着	長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR5/2	10YR5/1	04－9	A		角閃石、白色粒子
	良好	10YR8/3	2.5Y7/3	04－93	C		長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	2.5Y7/3	10YR7/3	04－121	A		チャート、黒色粒子、白色粒子
	やや良好	10YR7/3	10YR7/3	04－43	A		クサリ礫、雲母、酸化赤粒
	良好	2.5YR6/6	2.5YR6/6	04－111	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
口唇部刻目	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	04－90	A		長石、石英、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR5/4	10YR6/6	04－78	B		長石、石英、チャート、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR5/6	7.5YR7/6	04－133	B	胴部外面煤付着	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	2.5Y6/3	2.5YR6/3	04－136	B	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/4	7.5YR7/6	04－80	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	7.5YR7/4	2.5Y6/2	04－79	B		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	やや良好	10YR6/2	5YR6/6	04－44	B		チャート、白色粒子
	やや良好	5YR6/6	10YR7/2	04－52	A		酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR4/2	10YR5/3	04－96	A		長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	5YR6/6	5YR6/6	04－130	B		長石、石英、チャート、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－77	B		長石、石英、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR6/4	10YR5/4	04－32	A		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR6/2	04－59	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
口縁部櫛歯刺突文	良好	10YR5/3	10YR5/3	04－113	A		長石、角閃石、白色粒子
	良好	7.5YR7/2	10YR8/3	04－34	A		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR7/3	7.5YR7/3	04－54	A		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/4	7.5YR6/4	04－18	A		長石、チャート、白色粒子
	やや良好	2.5Y7/2	10YR7/2	04－127	C		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
4方向透孔	やや良好	10YR7/4	2.5Y6/8	04－172	B		チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/4	04－115	B		クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/4	04－116	A		石英、酸化赤粒、白色粒子

実測遺物観察表(9)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
360	04-1区	河道2	土器	弥生	蓋	(裾)8.8 (高)4.1	胴部「ハ」字状に開く	【頂部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
361	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)29.6 (高)現9.3	大型品、口縁部端直立気味	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
362	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現5.4	受口状口縁部	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
363	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)13.8 (高)現8.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
364	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現4.8	底部僅かに突出	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
365	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	有孔鉢	(高)現4.7	胴部内湾気味に立上る	【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ
366	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)19.8 (高)現7.3	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
367	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(高)現2.4	口縁部直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
368	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現2.6	底部ほぼ平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
369	04-1区	河道2	土器	庄内	壺	(口)14.8 (高)現6.3	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ・ミガキ(内)イタナデ・ユビオサエ
370	04-1区	河道2	土器	布留	高杯	(杯)13.0 (高)現4.3	杯部椀状	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ
371	04-1区	河道2	土器	布留	高杯	(脚)8.2 (高)現5.2	脚部低め	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
372	04-1区	河道2	土器	布留系	甕	(口)14.6 (高)現4.1	口縁部端内側肥厚	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)—(内)イタナデ
373	04-1区	河道2	土器	布留系	甕	(口)17.0 (高)現4.0	口縁部端内側肥厚	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ヘラケズリ
374	04-1区	河道2	土器	布留	壺	(高)現9.0	長胴気味	【胴部】(外)ヘラケズリ(内)イタナデ
375	04-1区	河道2	土器	弥生中期前半	甕	(口)15.0 (高)現7.0	口縁部外反	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
376	04-1区	河道2	土器	弥生中期中葉～後	壺	(口)18.2 (高)現8.2	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
377	04-1区	河道2	土器	弥生中期中葉～後	壺	(口)26.8 (高)現9.1	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【頸部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
378	04-1区	河道2	土器	弥生中期中葉～後	壺	(口)21.5 (高)現8.2	口縁部外反、口縁部端部肥厚	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
379	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	鉢	(口)32.2 (高)現2.9	貼付口縁部	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)—
380	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	鉢	(口)42.6 (高)現6.7	口縁部やや内傾・凸帯	【口縁部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ(?) 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
381	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	台付土器	(脚)7.0 (高)現5.7	脚部小型	【脚部】(外)ヘラナデ(内)ヘラケズリ
382	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	鉢	(高)現4.0	胴部「ハ」字状に開く	【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
383	04-1区	河道2	土器	弥生後期	高杯	(高)現9.4	脚部柱状	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
384	04-1区	河道2	土器	弥生後期	高杯	(高)現9.8	脚部柱状	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ・ミガキ
385	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	(口)19.2 (高)現8.0	口縁部端直立気味	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
386	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)20.2 (高)現5.8	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ハケ・ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)—
387	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)16.6 (高)現5.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
388	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)18.8 (高)現5.8	口縁部直立気味	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ
389	04-1区	河道2	土器	弥生	蓋	(裾)13.4 (高)現7.8	頂部筒状	【頂部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ・ユビオサエ(内)ヘラナデ
390	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(口)14.2 (高)現5.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
391	04-1区	河道2	土器	庄内	甕	(口)15.4 (高)現5.0	口縁部端直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
392	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(高)現2.4	丸底	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
393	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(高)現1.9	底部平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
394	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現5.1	底部平坦、調整孔有り	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	10YR6/3	10YR7/2	04－20	D		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/2	04－31	A	胴部外面煤付着	長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR8/3	10YR5/2	04－88	A		長石、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR8/2	04－35	B		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR6/4	04－19	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/4	04－15	B		長石、チャート、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/4	04－114	A		長石、石英、チャート、白色粒子
	良好	2.5YR6/1	2.5YR6/1	04－117	A		長石、角閃石、黒色粒子
	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/4	04－13	A		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/4	04－27	B		長石、チャート、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR6/3	7.5YR6/3	04－14	A		長石、チャート、黒色粒子、白色粒子
4方向透孔	良好	7.5YR7/4	10YR7/3	04－12	B		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR4/3	7.5YR5/2	04－16	A		角閃石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR5/3	10YR5/3	04－17	A		角閃石、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	7.5YR7/4	04－95	B		石英、クサリ礫、黒色粒子
	やや不良	10YR7/3	10YR7/3	04－142	B		長石、チャート、黒色粒子
胴部櫛描直線文	良好	5YR7/6	7.5YR7/4	04－91	B		長石、酸化赤粒、白色粒子
口縁部簾状文・円形浮文、頸部簾状文	良好	10YR7/2	10YR7/2	04－5	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
口縁部簾状文、頸部簾状文	やや良好	2.5Y7/3	2.5Y7/3	04－36	A		長石、チャート、白色粒子
口縁部簾状文、胴部簾状文	良好	2.5Y8/3	2.5Y5/1	04－42	A		酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR7/3	10YR8/3	04－21	A		酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/3	2.5Y7/3	04－37	B		長石、チャート、黒色粒子、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	5YR6/4	04－23	B		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
脚部凹線・刺突矢羽状文	良好	2.5Y7/2	10YR7/3	04－84	B	東海西部系	長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	7.5YR7/2	7.5YR7/4	04－3	B		長石、酸化赤粒、白色粒子
	やや不良	7.5YR8/4	10YR7/3	04－122	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR6/2	04－87	A	大和系	長石、石英、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/2	10YR6/3	04－10	B		チャート、クサリ礫、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	10YR7/4	04－107	A		長石、石英、クサリ礫、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR8/4	7.5YR8/4	04－170	D		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR8/3	10YR7/3	04－41	B	胴部外面煤付着	長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR7/4	04－4	A	胴部外面煤付着	長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/3	N7/0	04－97	A		長石、石英、白色粒子
	良好	10YR6/2	5YR6/4	04－24	A		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－76	A	有孔鉢？	長石、石英、チャート、クサリ礫、酸化赤粒

実測遺物観察表(10)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
395	04-1区	河道2	土器	庄内～布留	壺	(高)現3.6	頸部に低凸帯	【口縁部】(外)ヘラナデ(?)(内)ミガキ
396	04-1区	河道2	土器	弥生後期～布留	高杯	(裾)13.0 (高)現10.5	脚部柱状	【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
397	04-1区	河道2	土器	布留系	甕	(口)18.3 (高)現7.3	口縁部端内側僅かに肥厚	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ハケ 【胴部】(外)タタキ・ハケ(内)ヘラケズリ
398	04-1区	河道2	土器	布留系	甕	(高)現2.6	丸底	【底部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
399	04-1区	河道2	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(高)現3.6	丸底	【底部】(外)タタキ・ヘラナデ(内)ユビナデ
400	04-1区	河道2	土器	弥生～古墳	飯蛸壺	(口)7.7 (高)11.9	砲弾型	【口縁部】(外)タタキ・ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ
401	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	壺	(口)19.2 (高)現4.0	口縁部端内側肥厚	【口縁部】(外)—(内)—
402	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)13.7 (高)現3.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)右下がりタタキ(内)イタナデ
403	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)14.2 (高)現8.5	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ハケ・タタキ(内)イタナデ
404	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(口)16.0 (高)現3.4	口縁部端僅かに直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ハケ 【胴部】(外)タタキ・ハケ(内)ヘラケズリ
405	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現2.6	底部僅かに突出・平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
406	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	無頸壺	(口)14.2 (高)現3.9	口縁部立上り低い	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)ヘラナデ(内)—
407	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	台付土器	(脚)18.4 (高)現1.5	脚部裾開き強い	【脚部】(外)—(内)—
408	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)18.4 (高)現7.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ(?) 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
409	04-1区	河道2	土器	弥生後期～布留	鉢	(高)現3.3	胴部直線的に立上る	【胴部】(外)ユビナデ・ヘラナデ(内)—
410	04-1区	河道2	土器	庄内	有孔鉢	(高)現6.9	胴部直線的に外傾	【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
411	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	甕	(口)34.0 (高)現7.5	口縁部端直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
412	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	(口)14.8 (高)現6.6	口縁部外反	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ
413	04-1区	河道2	土器	布留	甕	(口)17.7 (高)現3.6	口縁部外反	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ(?)
414	04-1区	河道2	土器	弥生後期	甕	(口)16.8 (高)現5.5	口縁部短く外反	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
415	04-1区	河道2	土器	庄内	壺	(口)16.2 (高)現7.6	口縁部外反強い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ミガキ 【胴部】(外)—(内)イタナデ
416	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(高)現3.7	丸底・平坦気味	【胴部】(外)タタキ・ヘラナデ(内)ユビナデ
417	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現13.2	胴部球形	【胴部】(外)ハケ・タタキ(内)イタナデ
418	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(口)16.6 (高)現7.9	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
419	04-1区	河道2	土器	V様式系	甕	(高)現4.0	底部ほぼ平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
420	04-1区	河道2	土器	布留系	甕	(口)20.2 (高)現3.1	口縁部端内側僅かに肥厚	【口縁部】(外)ハケ・ヘラナデ(内)ハケ 【胴部】(外)—(内)ヘラケズリ
421	04-1区	河道2	土器	庄内～布留	壺	(口)16.0 (高)現14.3	直口縁部	【口縁部】(外)—(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラケズリ
422	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	(高)現4.2	頸部直立気味・凸帯	【頸部】(外)—(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)—
423	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	甕	(口)24.6 (高)現4.2	口縁部短く外反	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ
424	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	壺	(口)15.8 (高)現5.0	口縁部外反・端部下張出す	【口縁部】(外)—(内)— 【頸部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ(?)
425	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	壺	(高)現9.3	胴部砲頭形、器壁厚い、いびつ	【胴部】(外)ヘラナデ(内)イタナデ
426	04-1区	河道2	土器	庄内系	甕	(口)20.0 (高)現4.6	口縁部端僅かに直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラケズリ
427	04-1区	河道2	土器	庄内	鉢	(口)22.8 (高)現18.3	口縁部内湾、胴部球形	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ミガキ
428	04-1区	河道3	土器	弥生中期中葉	壺	(口)22.6 (高)現11.1	受口状口縁部	【口縁部】(外)—(内)—
429	04-1区	河道3	土器	弥生後期	壺	(口)4.8 (高)現10.2	長頸壺	【口縁部】(外)ミガキ(内)—

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
頸部矢羽状文	良好	2.5Y7/3	2.5Y7/3	04－141	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒、白色粒子
3方向透孔	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－75	B		長石、石英、チャート、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	2.5Y4/1	2.5Y4/2	04－22	B		長石、角閃石、白色粒子
	良好	10YR7/4	2.5Y7/3	04－94	A		長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/2	10YR7/2	04－6	A		長石、石英、雲母、白色粒子
	良好	2.5YR6/8	2.5YR6/8	04－173	D		酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
口縁部凹線文	やや良好	2.5Y6/2	7.5YR7/6	04－49	A		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/4	10YR6/4	04－110	A	大和系	長石、チャート、クサリ礫
	良好	10YR7/4	2.5Y7/4	04－135	B	胴部外面煤付着	長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/3	2.5Y6/2	04－109	A		角閃石、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	2.5YR7/6	04－53	A	胴部内面炭化物付着	長石、チャート、白色粒子
	良好	2.5Y7/3	2.5Y7/3	04－123	A		長石、チャート、黒色粒子、白色粒子
裾部竹管文	良好	10YR5/3	10YR5/3	04－108	A	生駒西麓系	クサリ礫、角閃石、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	5YR7/6	04－150	B		長石、チャート、酸化赤粒
	良好	5YR6/6	5YR7/6	04－101	A		酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR6/6	7.5YR6/6	04－126	B		長石、石英、チャート、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－103	A		石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	やや良好	5YR7/6	7.5YR7/4	04－171	A		石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	7.5YR7/4	04－104	A		長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR6/4	10YR6/3	04－102	A		長石、石英、チャート、黒色粒子、白色粒子
	良好	7.5YR7/4	10YR7/4	04－137	B		長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/4	2.5Y7/2	04－138	A		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	5Y6/1	7.5YR7/4	04－131	B		長石、雲母、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	5YR6/6	7.5YR7/4	04－46	B		長石、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	10YR7/3	04－47	A		長石、チャート、クサリ礫、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y5/2	2.5Y4/2	04－11	A		角閃石、黒色粒子、白色粒子
	良好	5Y6/1	7.5YR7/4	04－45	B		長石、チャート、クサリ礫、白色粒子
	やや不良	7.5YR6/4	5YR6/6	04－51	A		酸化赤粒、白色粒子
	やや良好	7.5YR7/6	10YR7/3	04－48	A		長石、クサリ礫、白色粒子
口縁部凹線文	良好	10YR7/2	10YR7/3	04－58	A		チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	7.5YR6/4	7.5YR7/4	04－98	C		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	04－145	A		角閃石、雲母、白色粒子
	良好	5YR7/6	5YR7/6	04－124	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	やや良好	7.5YR7/4	10YR7/4	04－152	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	やや良好	7.5YR7/4	2.5YR6/6	04－129	A		石英、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子

実測遺物観察表(11)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
430	04-1区	河道3	土器	弥生中期後半	台付土器	(脚)13.2 (高)現11.3	脚部太め、脚部端直立気味	【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ
431	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(口)25.0 (高)現15.3	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ
432	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(口)16.0 (高)現23.7	胴部球形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ・ハケ
433	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(口)14.2 (高)現5.3	胴部張り弱い	【口縁部】(外)ハケ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ハケ
434	04-1区	河道3	土器	弥生後期～庄内	鉢	(高)現5.4	胴部内湾気味	【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
435	04-1区	河道3	土器	弥生後期～庄内	鉢	(高)現3.3	底部浅い輪状台	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
436	04-1区	河道3	土器	庄内	甕	(口)27.2 (高)現4.2	口縁部端直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
437	04-1区	河道3	土器	布留	鉢	(口)22.0 (高)現	胴部球形化	【口縁部】(外)ハケ(内)ハケ 【胴部】(外)ハケ(内)ハケ
438	04-1区	河道3	土器	弥生	蓋	(裾)14.0 (高)5.9	胴部「ハ」字状に開く	【頂部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ハケ
439	04-1区	河道3	土器	弥生後期	壺	(口)16.9 (高)現5.6	口縁部端上下僅かに張出す	【口縁部】(外)ユビナデ・ミガキ(内)ユビナデ・ミガキ
440	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(口)19.0 (高)現7.2	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ・ユビオサエ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
441	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(口)15.8 (高)現4.7	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
442	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(口)13.0 (高)現5.6	胴部張り弱い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
443	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(高)現5.5	小型品、底部平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
444	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(高)現3.4	底部僅かに突出	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
445	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(高)現2.9	底部僅かに突出・平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
446	04-1区	河道3	土器	庄内系	甕	(口)15.6 (高)現3.1	口縁部端僅かに直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
447	04-1区	河道3	土器	弥生後期	壺	(口)23.2 (高)現8.0	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ユビナデ・ユビオサエ
448	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(口)12.8 (高)現9.0	胴部球形	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)右下りタタキ(内)イタナデ
449	04-1区	河道3	土器	V様式系	甕	(高)現6.5	底部平坦	【胴部】(外)タタキ(内)ハケ
450	04-1区	075竪穴状遺構	土器	弥生中期後半	鉢	(口)30.2 (高)現9.3	胴部やや球形	【口縁部】(外)—(内)— 【胴部】(外)—(内)—
451	04-1区	075竪穴状遺構	土器	庄内～布留	鉢	(口)12.1 (高)現3.0	口縁部内湾	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ミガキ
452	04-1区	075竪穴状遺構	土器	V様式系	甕	(口)16.4 (高)現14.0	胴部球形	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
453	04-1区	075竪穴状遺構	土器	庄内系	甕	(口)16.8 (高)現3.2	口縁部直立	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)イタナデ
454	04-1区	080溝	土器	布留	壺	(口)15.2 (高)現10.2	直口縁部	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)—(内)ユビナデ
455	04-1区	080溝	土器	弥生中期後半	高杯	(杯)30.4 (高)現4.5	口縁部内面肥厚	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
456	04-1区	080溝	土器	弥生中期後半	甕	(口)30.2 (高)現5.8	口縁部僅かに肥厚	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ
457	04-1区	080溝	土器	庄内	高杯	(高)現11.1	有段高杯	【杯部】(外)—(内)ヘラナデ 【脚部】(外)—(内)—
458	04-1区	080溝	土器	弥生中期後半	甕	(口)11.7 (高)現5.4	口縁部端上下張出す	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ヘラナデ
459	04-1区	080溝	土器	V様式系	甕	(口)18.2 (高)現4.4	口縁部端丸い	【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
460	04-1区	080溝	土器	V様式系	甕	(高)現2.6	底部僅かに突出・平坦	【胴部】(外)タタキ(内)イタナデ
461	04-1区	長方形土坑群	土器	弥生中期後半	高杯	(杯)15.2 (高)現4.0	杯部内湾	【杯部】(外)—(内)ヘラナデ
462	04-1区	長方形土坑群	土器	弥生後期	高杯	(高)現7.5	脚部柱状	【杯部】(外)—(内)— 【脚部】(外)—(内)—
463	04-1区	長方形土坑群	土器	布留	高杯	(脚)9.2 (高)現6.7	脚部裾内湾気味	【脚部】(外)ミガキ・ユビナデ(内)ヘラナデ
464	04-1区	長方形土坑群	磁器	近世後期	碗	(口)10.4 (高)現3.2	胴部内湾	【胴部】(外)染付(内)—

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
6方向透孔	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	04－167	B		石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
口唇部刻目	良好	5YR6/4	7.5YR7/4	04－38	B		長石、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/2	10YR7/2	04－132	B	胴部外面煤付着	長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/2	7.5YR6/2	04－65	B	胴部外面煤付着	長石、チャート、酸化赤粒
	良好	7.5YR6/3	7.5YR7/2	04－55	C		角閃石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	5YR7/3	7.5YR7/2	04－66	A		チャート、酸化赤粒
	良好	10YR5/3	10YR5/3	04－39	A		角閃石、白色粒子
	良好	10YR7/3	10YR7/1	04－63	B		長石、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	2.5Y7/2	10YR7/2	04－128	D		長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－82	A		長石、石英、雲母、酸化赤粒
	良好	2.5Y7/1	2.5Y6/2	04－56	B		長石、チャート、角閃石、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	10YR7/2	04－86	A		石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	2.5Y7/2	2.5Y7/2	04－85	B		長石、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	7.5YR7/4	10YR6/2	04－140	B		長石、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y6/2	2.5Y6/6	04－83	A		長石、石英、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR6/3	10YR6/2	04－61	A		長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR8/2	10YR7/3	04－148	A		チャート、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/4	04－139	B		長石、クサリ礫、白色粒子
	良好	10YR7/3	5YR6/4	04－144	B	大和系	長石、チャート、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	良好	2.5Y7/3	7.5YR7/4	04－99	B		クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	やや良好	5YR6/6	5YR6/4	04－154	A		長石、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－156	B		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/3	7.5YR7/4	04－174	B		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR5/3	10YR5/3	04－153	A		長石、角閃石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	10YR7/4	10YR7/4	04－175	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒
杯部凹線文	良好	7.5YR7/6	10YR7/6	04－74	A		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	10YR7/3	04－106	B		長石、石英、クサリ礫、酸化赤粒、白色粒子
	やや不良	7.5YR6/4	7.5YR6/6	04－73	B		長石、石英、チャート、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	7.5YR7/4	04－105	B		長石、クサリ礫、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	10YR7/2	7.5YR6/4	04－64	A	口縁部外面煤付着	長石、チャート、白色粒子
	良好	10YR7/3	2.5Y6/3	04－62	A		長石、チャート、白色粒子
杯部凹線文	良好	10YR7/4	5Y4/1	04－89	A		石英、黒色粒子、白色粒子
	良好	7.5YR6/6	7.5YR6/6	04－157	A		長石、黒色粒子、白色粒子
	良好	10YR6/4	10YR7/4	04－100	B		石英、クサリ礫、酸化赤粒、黒色粒子、白色粒子
	良好	10Y7/1	10Y7/1	04－57	B		

実測遺物観察表(12)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	法量	器形の特徴	整・成形の特徴
465	04-1区	022土坑	瓦器	鎌倉	椀	(高)現0.9	高台脆弱化	【胴部】(外)—(内)—
466	04-1区	023土坑	磁器	近世中葉	碗	(高)現3.1	高台高い	【胴部】(外)染付(内)染付
467	04-1区	025土坑	土器	弥生中期後半	鉢	(口)29.2 (高)現6.3	貼付口縁部	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)ヘラナデ
468	04-1区	025土坑	陶器	近世	灯明皿	(口)7.0 (高)現1.4	浅く内湾	【口縁部】(外)施釉(内)施釉 【胴部】(外)施釉(内)施釉
469	04-1区	049土坑	陶器	近代	蓋	(裾)16.2 (高)現2.4	浅い	【胴部】(外)施釉(内)施釉
470	04-1区	049土坑	土器	近代	碗	(口)12.2 (高)現3.9	胴部内湾弱い	【口縁部】(外)染付 【胴部】(外)染付
471	04-1区	049土坑	磁器	近代	皿	(口)9.9 (高)現1.5	胴部内湾	【口縁部】(内)染付 【胴部】(内)染付
473	04-1区	073土坑	土器	布留系	甕	(口)15.0 (高)現6.2	口縁部端内側僅かに肥厚	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)—(内)イタナデ(?)
474	04-1区	一括	土器	弥生中期後半	壺	(口)18.0 (高)現5.2	口縁部端直立、口縁部外反強	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビオサエ
475	04-1区	一括	土器	布留	壺	(口)9.0 (高)現4.8	口縁部短く外反	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ユビオサエ
476	04-1区	一括	土器	布留	壺	(口)10.4 (高)現15.6	直口縁部	【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【胴部】(外)ミガキ(内)ハケ
502	03-2区	一括	土器	縄文後期	注口土器	(高)現5.6	注口	【注口部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ
503	03-2区	一括	土器	縄文晩期	浅鉢	(高)現4.3	直線的に立上る	【口縁部】(外)—(内)—
504	04-2区	河道1	土器	縄文後期後半～晩	浅鉢	(口)40.2 (高)現6.8	口縁部内湾	【口縁部】(外)巻貝条痕(内)巻貝条痕 【胴部】(外)—(内)—
505	04-2区	河道1	土器	縄文後期後半～晩	深鉢	(高)現13,4		【胴部】(外)ヘラナデ(?)(内)ヘラナデ(?)
506	03-2区	NR001	土器	縄文晩期後半	浅鉢	(口)43.8 (高)現8.8	口縁部直立	【口縁部】(外)ユビナデ(内)ミガキ 【胴部】(外)ハケ(内)ミガキ

文様の特徴	焼成	内	外	実測図No.	残存率	備考	胎土
	良好	5Y5/1	5Y5/1	04－155	A		チャート、白色粒子
	良好	N8/1	N8/0	04－159	B		
胴部簾状文	良好	7.5YR7/4	5YR7/6	04－120	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒、黒色粒子
	良好	7.5YR5/3	7.5YR5/3	04－158	A		
	良好	5Y8/1	5Y8/0	04－67	B		
	良好	N8/0	N8/0	04－71	B		
	良好	5B7/1	7.5GY8/1	04－68	B	銅版転写	
	良好	10YR6/4	10YR6/2	04－29	A		長石、白色粒子
	良好	10YR8/3	7.5YR7/4	04－30	A		長石、酸化赤粒、白色粒子
	良好	N4/0	2.5Y7/2	04－50	A		長石、クサリ礫、酸化赤粒
	良好	10YR7/3	2.5Y6/1	04－169	C		長石、石英、チャート、酸化赤粒
巻貝刺突、沈線文	良好	2.5Y7/2	10YR7/2	03－259	A		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
口縁部内面沈線	良好	10YR4/2	10YR4/2	03－133	A		角閃石、雲母、白色粒子
	良好	5Y5/1	5Y5/1	04－160	A		白色粒子
胴部凹線文	良好	2.5Y7/3	10YR5/2	04－161	A		長石、石英、白色粒子
	良好	10YR6/3	10YR6/2	03－157	B		長石、チャート、白色粒子

残存率 A:～10%、B:10～50%、C:50～90%、D:90%～

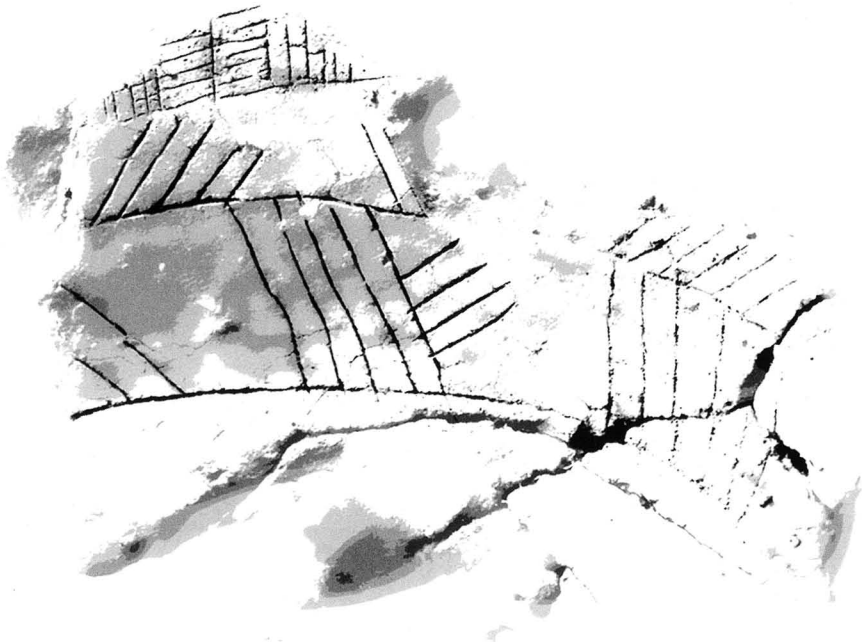
実測遺物観察表(13)

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	外面調整	内面調整	拓本・実測No.	備考	胎土
270	03-2区	NR001	土器	縄文晩期	深鉢	刻目突帯	ヘラナデ	03-224	長原式	長石、角閃石、白色粒子
271	03-2区	NR001	土器	縄文晩期	深鉢	刻目突帯	ヘラナデ	03-225	長原式	長石、石英、白色粒子
272	03-2区	NR001	土器	弥生中期前半	壺	流水文	ユビナデ	03-26		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
273	03-2区	NR001	土器	弥生中期前半	壺	櫛描直線文	ヘラナデ？	03-33		長石、石英、白色粒子
274	03-2区	NR001	土器	弥生中期前半	壺	櫛描直線文	ヘラナデ	03-34		長石、石英、白色粒子
275	03-2区	NR001	土器	弥生中期前半	壺	櫛描直線文・波状文	ヘラナデ	03-144		長石、酸化赤粒、白色粒子
276	03-2区	NR001	土器	弥生中期前半	壺	櫛描直線文・波状文	(摩滅のため不明)	03-32		長石、黒色粒子、白色粒子
277	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	簾状文	ヘラナデ	03-35		長石、黒色粒子、白色粒子
278	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	簾状文	ヘラナデ	03-199	水差の可能性	長石、クサリ礫、酸化赤粒
279	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	簾状文	ヘラナデ	03-198	水差の可能性	長石、クサリ礫、黒色粒子
280	03-2区	NR001	土器	弥生中期中葉	壺	簾状文	ヘラナデ	03-27	生駒西麓産系	長石、角閃石、白色粒子
281	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	簾状文？・棒状浮文	ヘラナデ	03-29		長石、石英、白色粒子
282	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	器台	凸帯	(摩滅のため不明)	03-31		長石、酸化赤粒
283	03-2区	NR001	土器	弥生中期後半	壺	斜格子文	ユビナデ	03-36	摂津系	長石、酸化赤粒
284	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	櫛描直線文・櫛歯文	ヘラナデ	03-28		長石、チャート、白色粒子
285	03-2区	NR001	土器	庄内	壺	竹管文	ユビナデ？	03-30		長石、酸化赤粒
286	03-2区	NR001	土器	弥生後期	壺	櫛歯刺突矢羽状文	ユビナデ	03-217	東海西部系	白色粒子
287	03-2区	一括	須恵器	TK10型式	甕	ユビナデ	ユビナデ	03-22	口径37.0cm	
288	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器	MT15型式	甕	ユビナデ	磨消	03-2	口径20.2cm	
289	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕？	カキメ、磨消	磨消	03-9		
290	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕	磨消	同心円文	03-18		
291	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕	平行タタキ	磨消	03-7	東播系	

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	外面調整	内面調整	拓本・実測No.	備考	胎土
292	03-2区	一括	須恵器		甕	平行タタキ	磨消	03-23		
293	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕	平行タタキ	同心円文	03-19		
294	03-2区	一括	須恵器		甕	平行タタキ	磨消	03-13		
295	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕	平行タタキ	磨消	03-14		
296	03-2区	一括	須恵器		甕	平行タタキ	磨消	03-11	外面自然釉	
297	03-2区	一括	須恵器		甕	平行タタキ	磨消	03-1		
298	03-2区	一括	須恵器		甕	平行タタキ	磨消	03-6		
299	03-2区	一括	須恵器		甕	平行タタキ	同心円文	03-10		
300	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕	平行タタキ、ユビナデ	磨消	03-5		
301	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕	格子タタキ、磨消	同心円文、磨消	03-24	焼け歪み	
302	03-2区	一括	須恵器		甕	格子タタキ	同心円文	03-16		
303	03-2区	一括	須恵器		甕	格子タタキ、ユビナデ	磨消	03-17		
304	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		甕	格子タタキ	同心円文	03-20		
305	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器	TK23～TK47型式	ハソウ	凹線、波状文	ユビナデ	03-4		
306	03-2区	一括	須恵器		壺？	カキメ	同心円文、磨消	03-21		
307	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器	TK47型式	杯蓋	頂部回転ヘラケズリ	ユビナデ	03-3	身高低め	
308	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		杯蓋	頂部回転ヘラケズリ	ユビナデ	03-8		
309	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		杯蓋	頂部回転ヘラケズリ	ユビナデ	03-25		
310	03-2区	NR001東岸整地土	須恵器		杯蓋	頂部回転ヘラケズリ	ユビナデ	03-15		
311	03-2区	一括	炻器		甕	格子タタキ、ケズリ	磨消	03-12		
477	04-1区	基盤層	土器	縄文後期	浅鉢	沈線文	ヘラナデ	04-16		長石、雲母、黒色粒子
478	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	壺	櫛描直線文	ヘラナデ	04-9		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子

No.	調査区	遺構	種別	時期・系統	器種	外面調整	内面調整	拓本・実測No.	備考	胎土
479	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	壺	櫛描直線文	ユビナデ	04-20		長石、クサリ礫、白色粒子
480	04-1区	080溝	土器	弥生中期前半	壺	櫛描直線文	ユビナデ	04-15		長石、酸化赤粒、白色粒子
481	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	壺	櫛描直線文	ヘラナデ	04-23		長石、クサリ礫、白色粒子
482	04-1区	河道3	土器	弥生中期中葉	壺	波状文	ユビナデ	04-6		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
483	04-1区	河道2	土器	弥生中期中葉	壺	簾状文、櫛描直線文	ユビナデ	04-24		石英、白色粒子
484	04-1区	河道3	土器	弥生中期中葉	壺	簾状文・櫛歯刺突文		04-12	水差の可能性、生駒西麓産系	長石、角閃石、白色粒子
485	04-1区	河道3	土器	弥生中期後半	高杯	凹線文	ヘラナデ	04-11		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
486	04-1区	河道2	土器	弥生中期後半	壺	波状文	ユビナデ	04-10		長石、酸化赤粒
487	04-1区	河道3	土器	弥生後期	壺	櫛描直線文、波状文	ユビナデ	04-21	東海西部系	長石、白色粒子
488	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	ナデ	波状文	04-7		長石、酸化赤粒
489	04-1区	河道2	土器	弥生後期～庄内	壺	櫛描直線文・波状文・櫛描羽状文	ユビナデ	04-13	東海西部系	長石、白色粒子
490	04-1区	河道2	土器	弥生後期	壺	円形浮文	ヘラナデ	04-25		酸化赤粒、白色粒子
491	04-1区	075竪穴状遺構	土器	庄内	壺	円形浮文	(摩滅のため不明)	04-17		長石、酸化赤粒、白色粒子
492	04-1区	河道2	土器	庄内	壺	円形浮文	ヘラナデ	04-19		長石、石英、酸化赤粒、白色粒子
493	04-1区	河道3	土器	庄内	壺	円形浮文	ユビナデ	04-8		長石、チャート、白色粒子
494	04-1区	河道2	土器	庄内	壺	竹管文	ヘラナデ	04-18		長石、酸化赤粒、白色粒子
495	04-1区	025土坑	土器	庄内	甕	タタキ	(摩滅のため不明)	04-14		長石、チャート、酸化赤粒、白色粒子
496	04-1区	一括	須恵器		甕	平行タタキ	同心円文	04-2		
497	04-1区	1049	須恵器		甕	平行タタキ、磨消	同心円文	04-4		
498	04-1区	1049	須恵器		甕	格子タタキ	磨消	04-5		
499	04-1区	1049	須恵器	TK47型式	杯蓋	ユビナデ		04-3		
500	04-1区	長方形土坑群一括	埴輪	古墳(中～)後期	円筒	ヨコハケ(9条／1cm)	(剥離のため不明)	04-22		長石、チャート、白色粒子
501	04-1区	基盤層	炻器	近世？	擂鉢	ケズリ	擂目(6条／1cm)	04-1		

図　　版



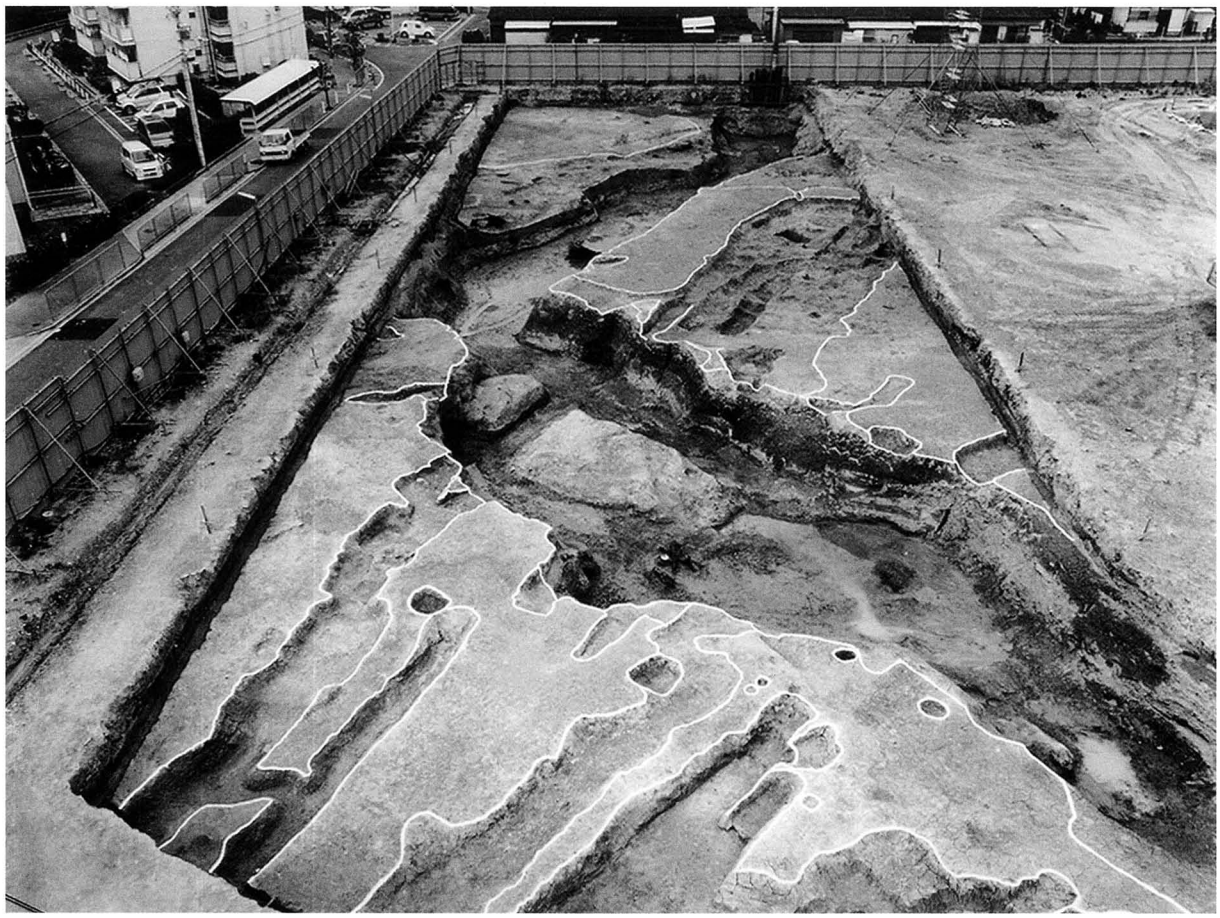
図版1　大町遺跡遠景

大町遺跡遠景（東から）

大町遺跡遠景（西から）

03-1区全景（南東から）

03-1区全景（北西から）



03-2区全景（南東から）

03-2区全景（東から）

SX003全景（北西から）

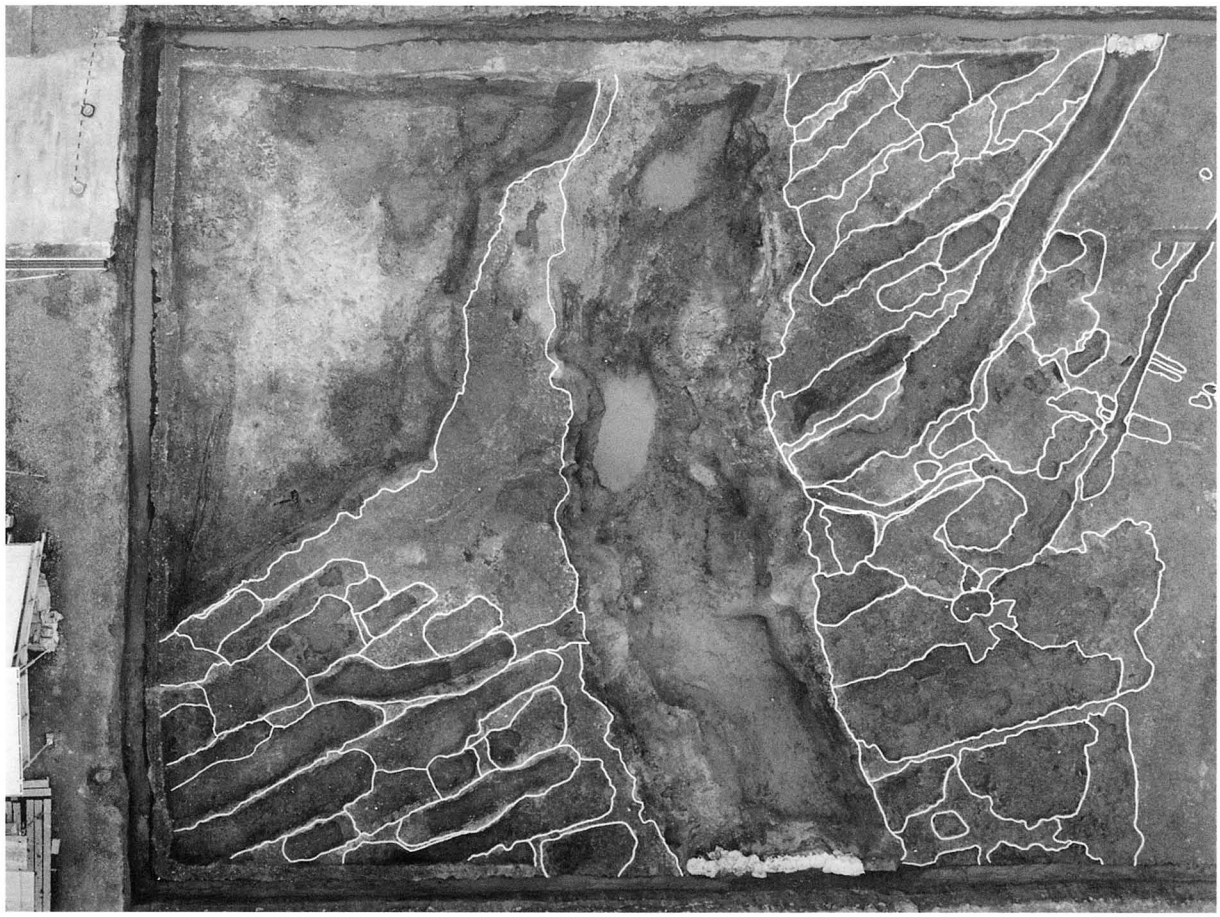
SX002全景（北から）

NR001内土器出土状況（南から）

NR001土層断面（東から）

04-1区全景（垂直）

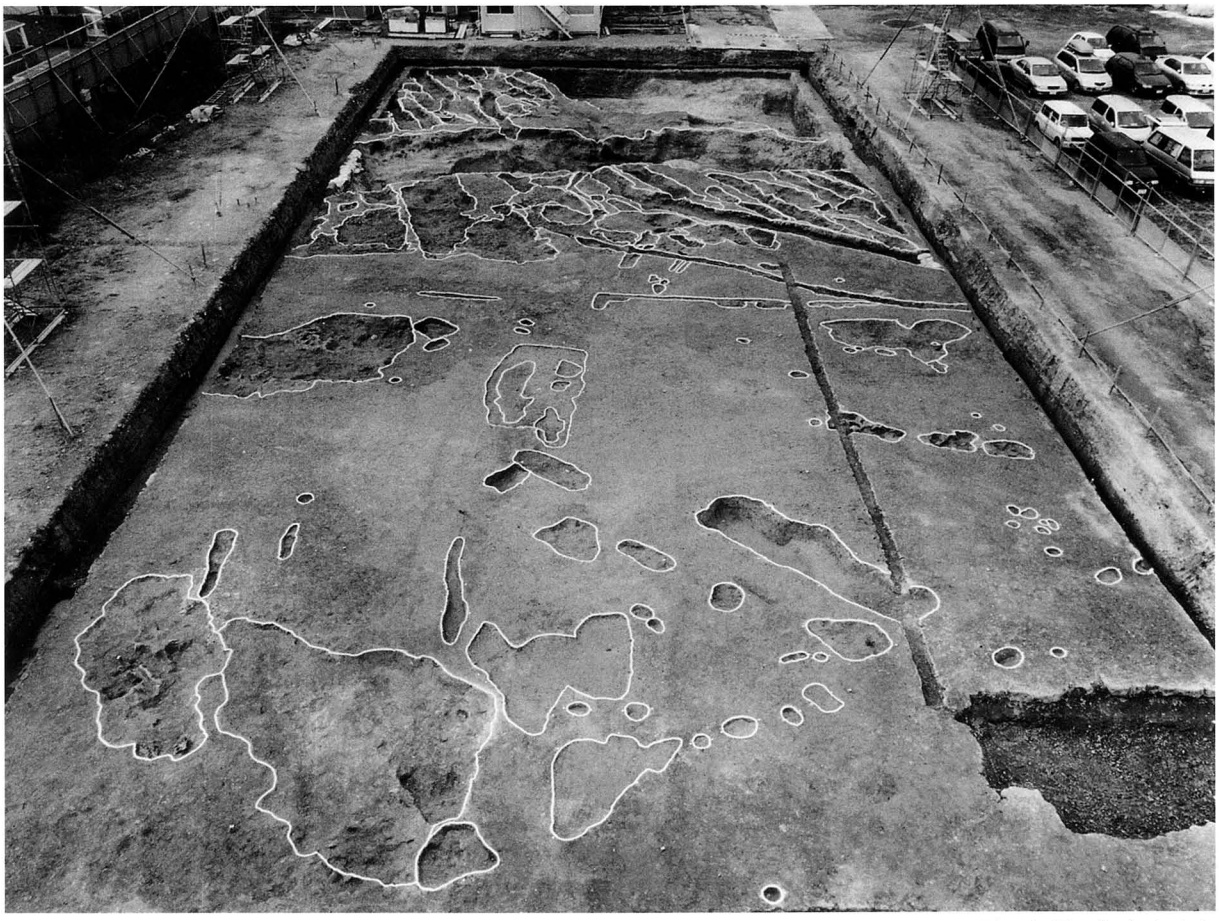
04-2区全景（垂直）



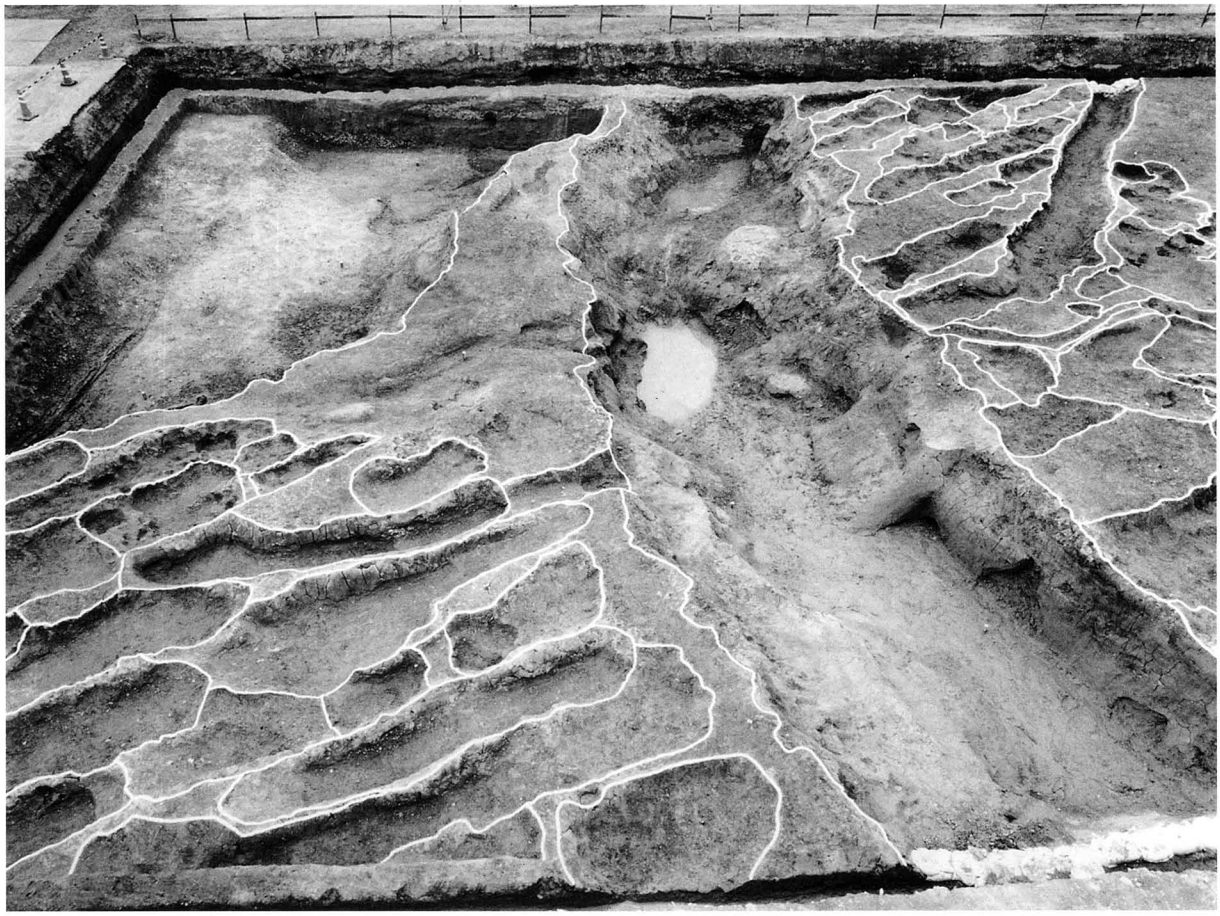
04-1区南西半全景（垂直）

04-1区北東半全景（垂直）

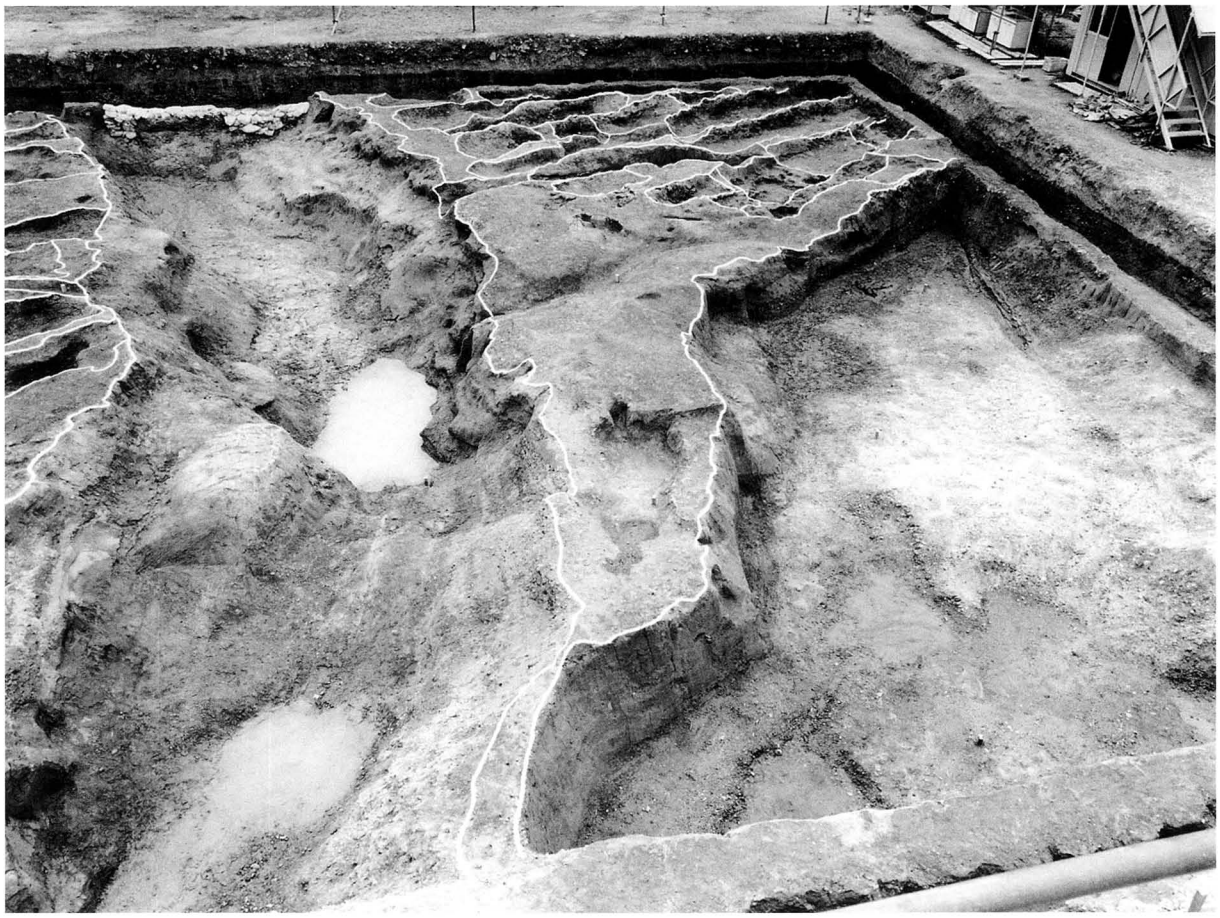
04-1全景（南西から）



04-1区全景（北東から）



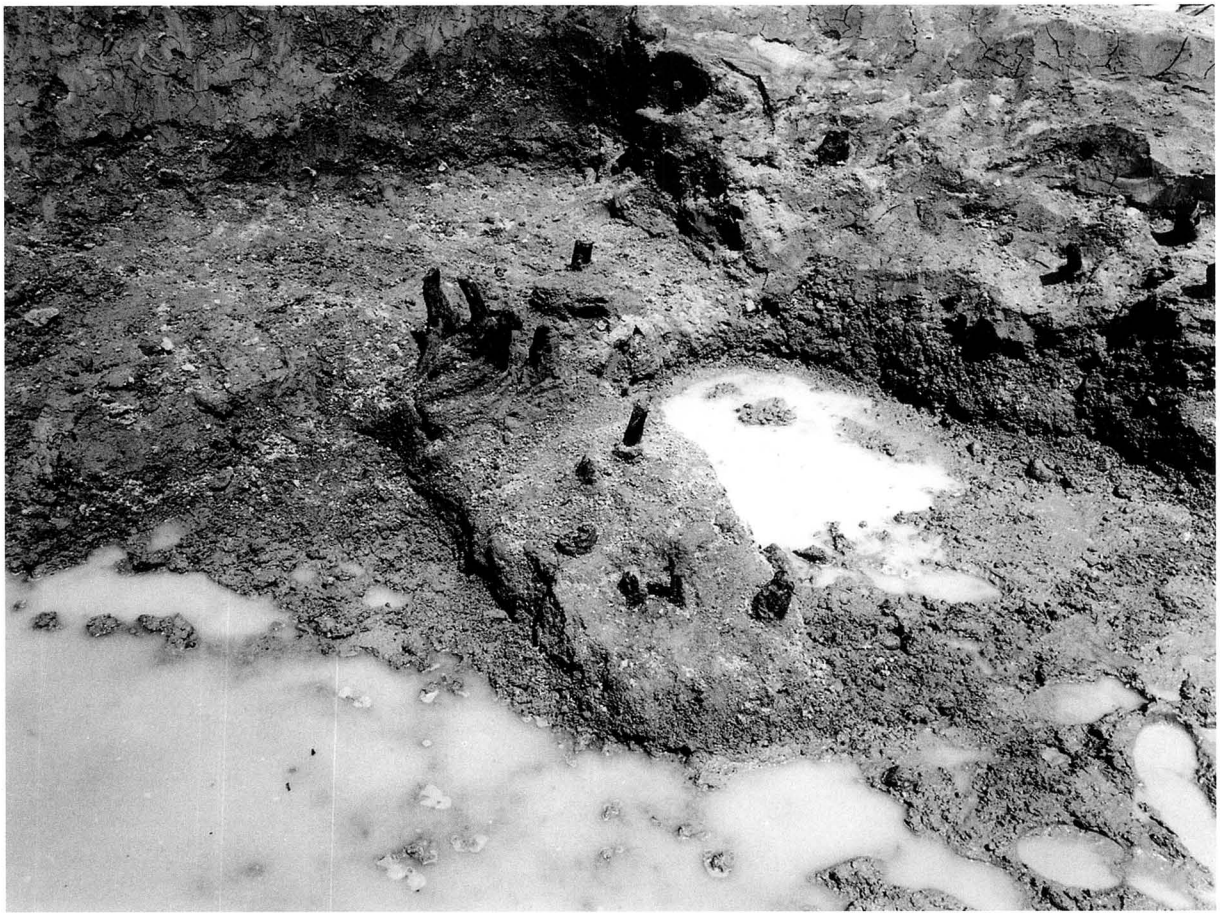
河原2・3全景（南東から）



河道2・3全景（北西から）

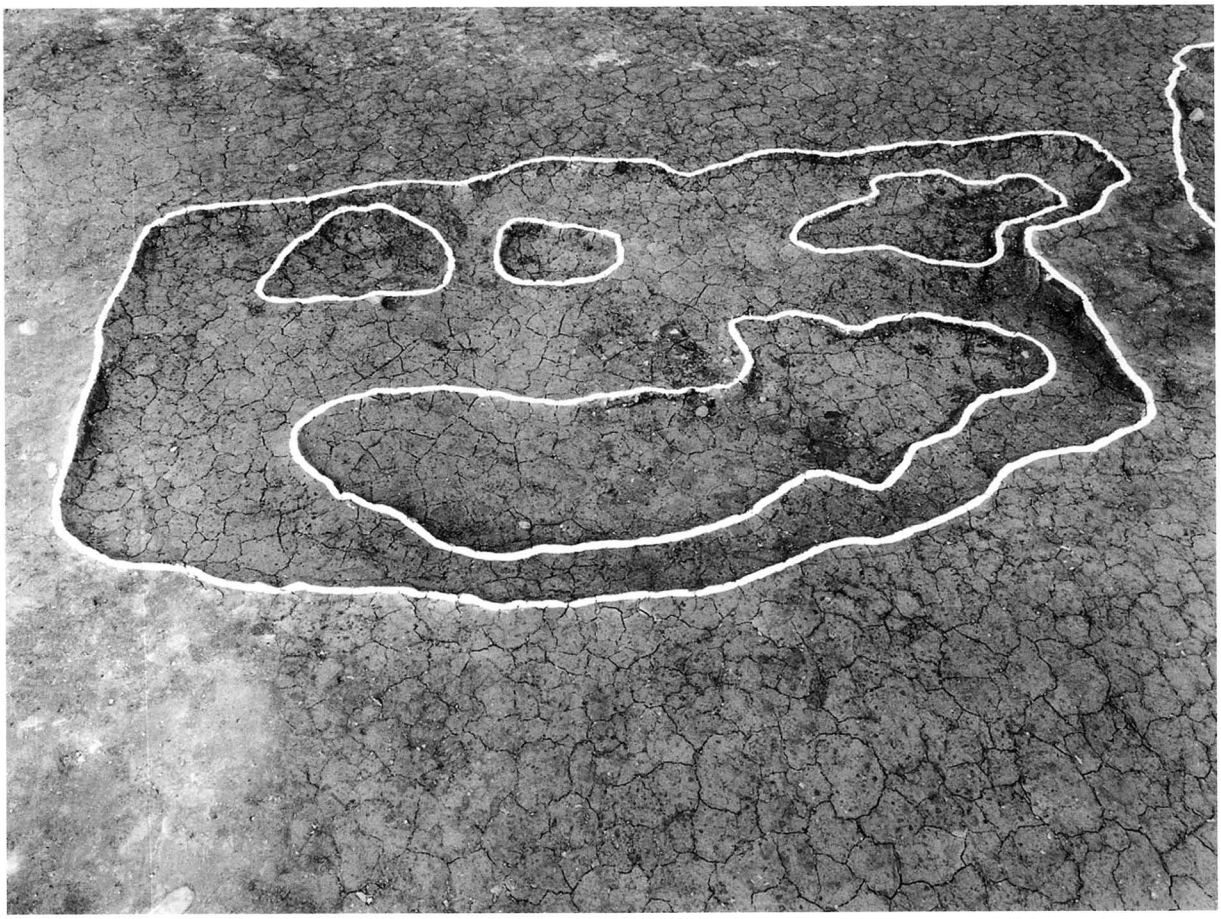
河道2土層断面（南東から）

河道3土層断面（南東から）



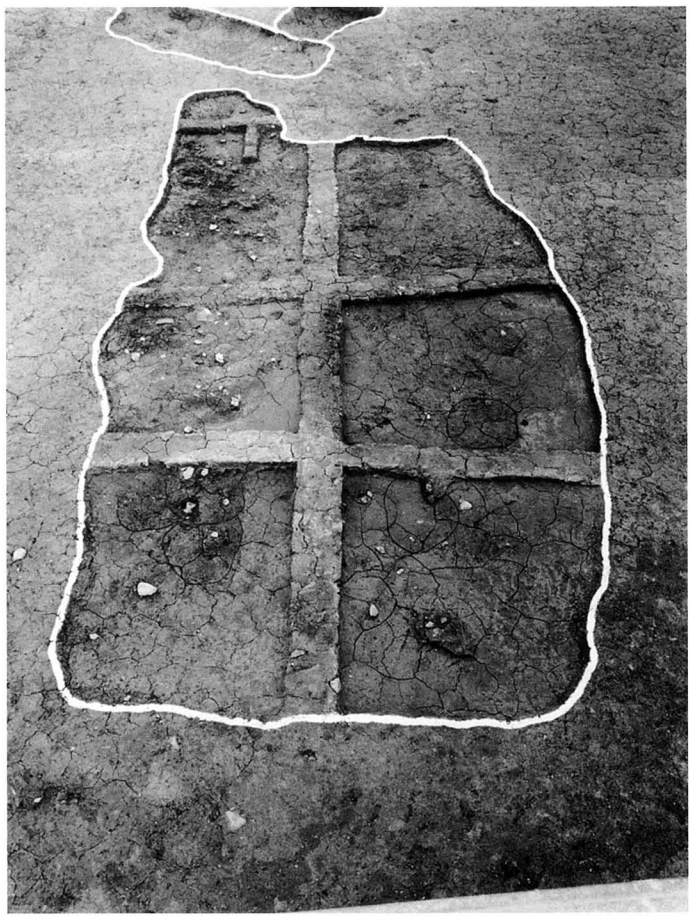
河道3内抗検出状況（南から）

080溝全景（北から）

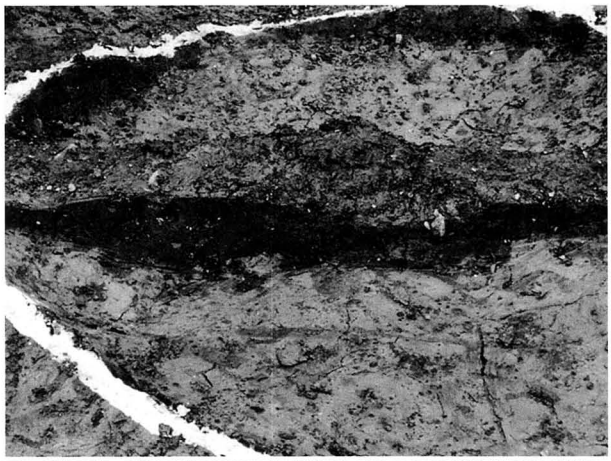


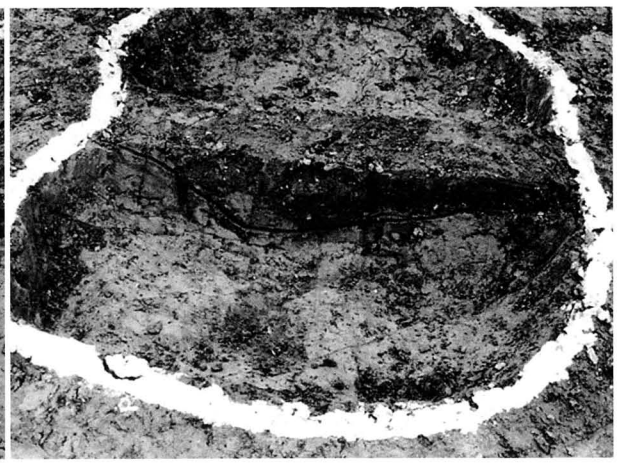
075竪穴状遺構全景（南西から）

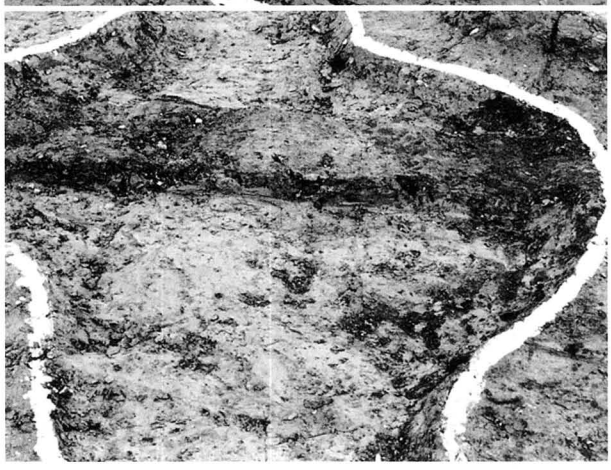
075竪穴状遺構全景（北西から）



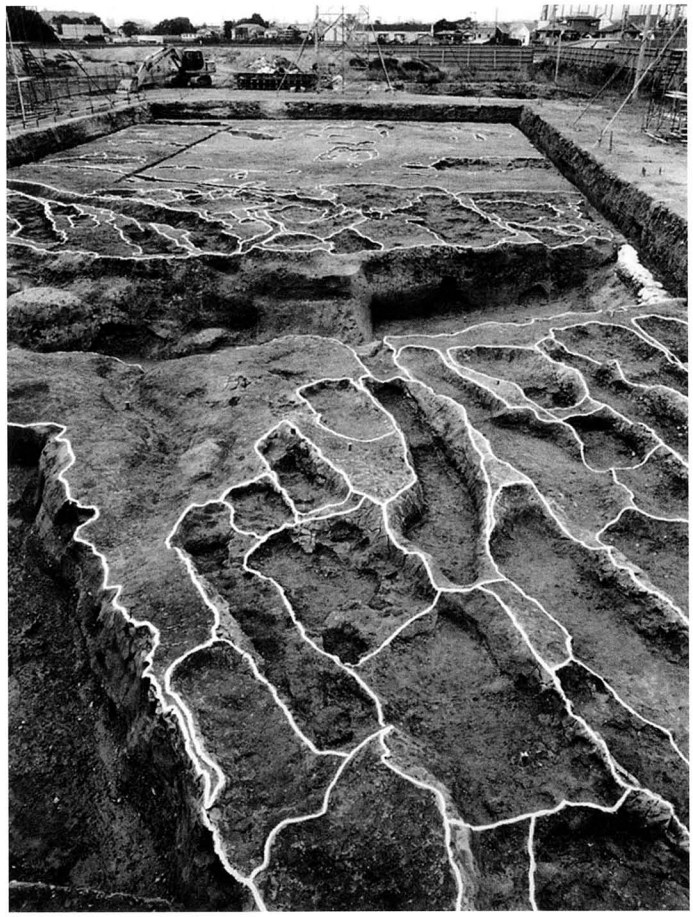
075竪穴状遺構遺物出土状況（北西から）







上左：小穴3土層断面
上右：小穴2土層断面
下左：小穴1土層断面



長方形土抗群全景（南西から）

04-1区ベルト3土層断面（南西から）

04-2区全景（北西から）

河道1土層断面（南東から）

図版16

NR001出土遺物

12

32

29

35

40

41

図版17　NR001出土遺物

44

51

50

52

76

53

59

図版18　NR001出土遺物

64

75

73

77

58

79

69

79

図版19 NR001出土遺物

85

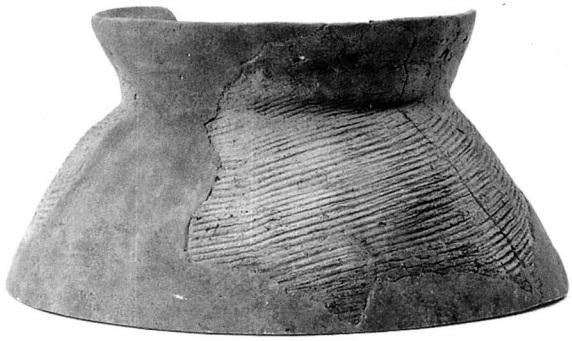
86

88

91

92

100

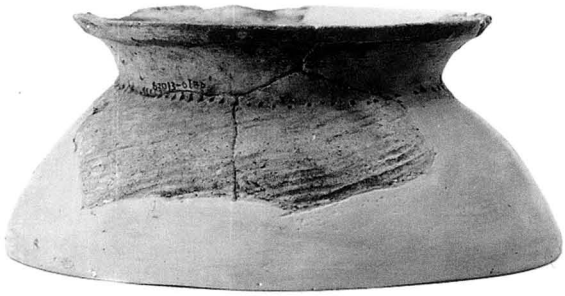


111

126

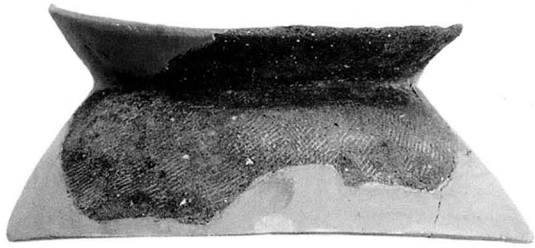
132

144



171

158



173

174

181

185

186

187

193

194

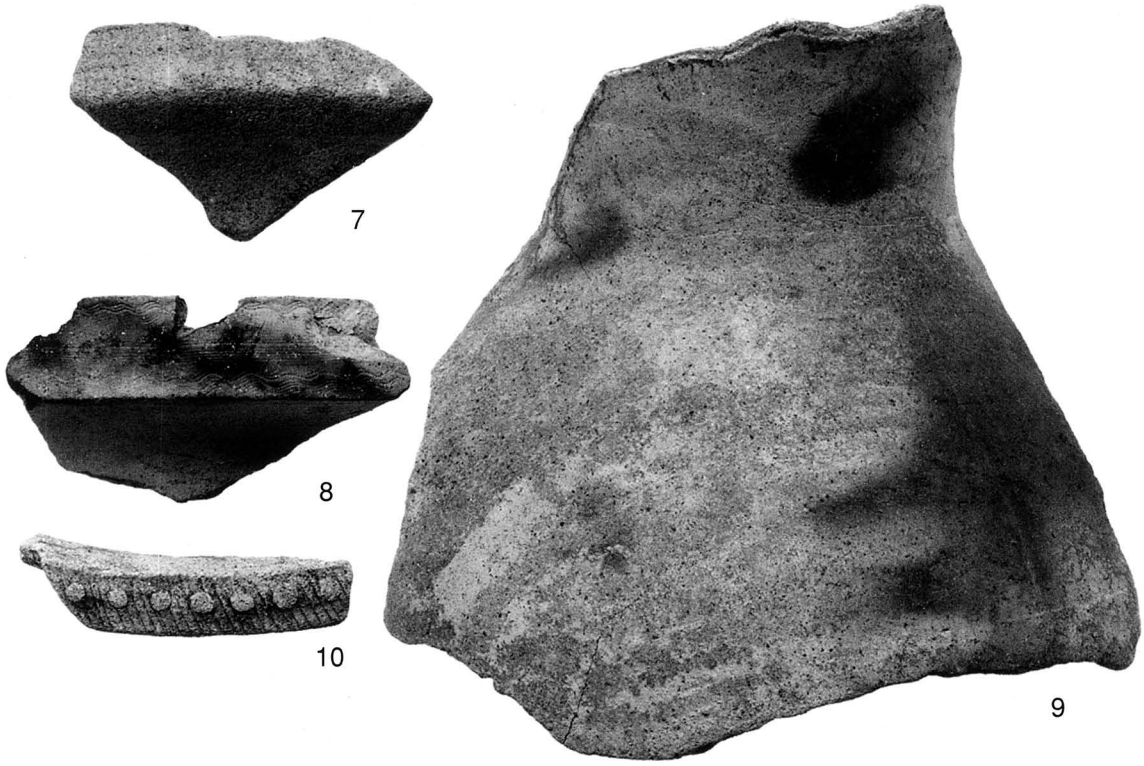
197

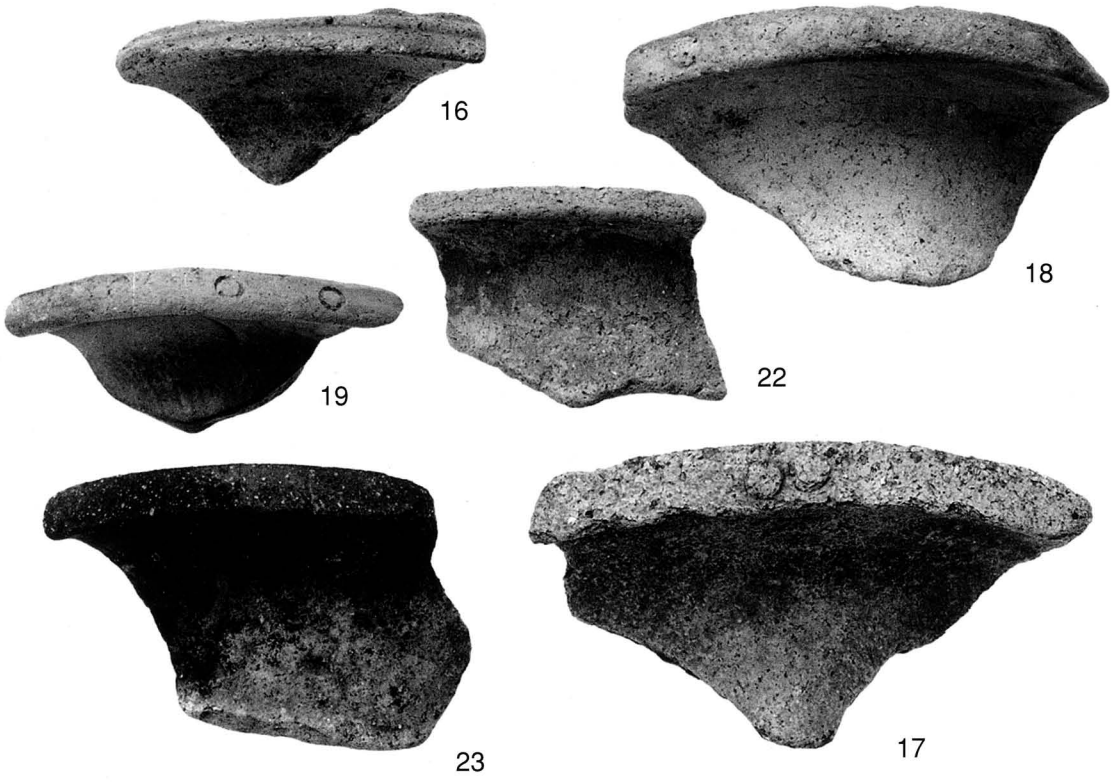
198

199

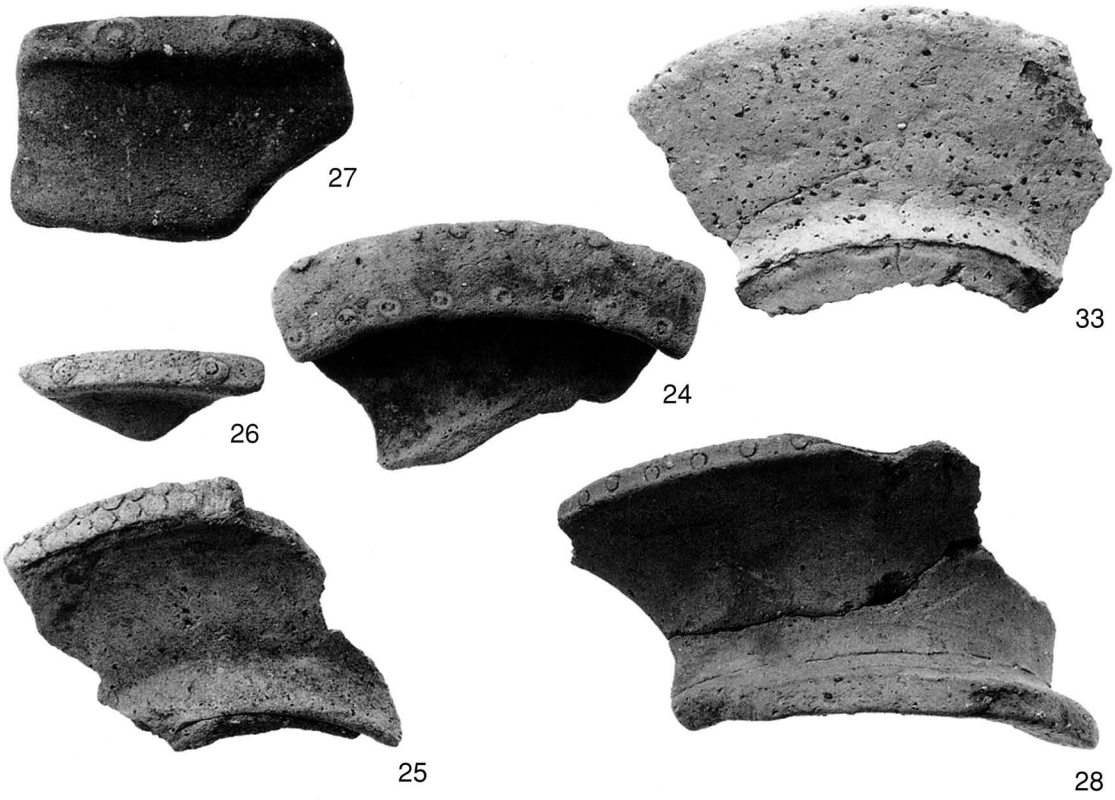
200

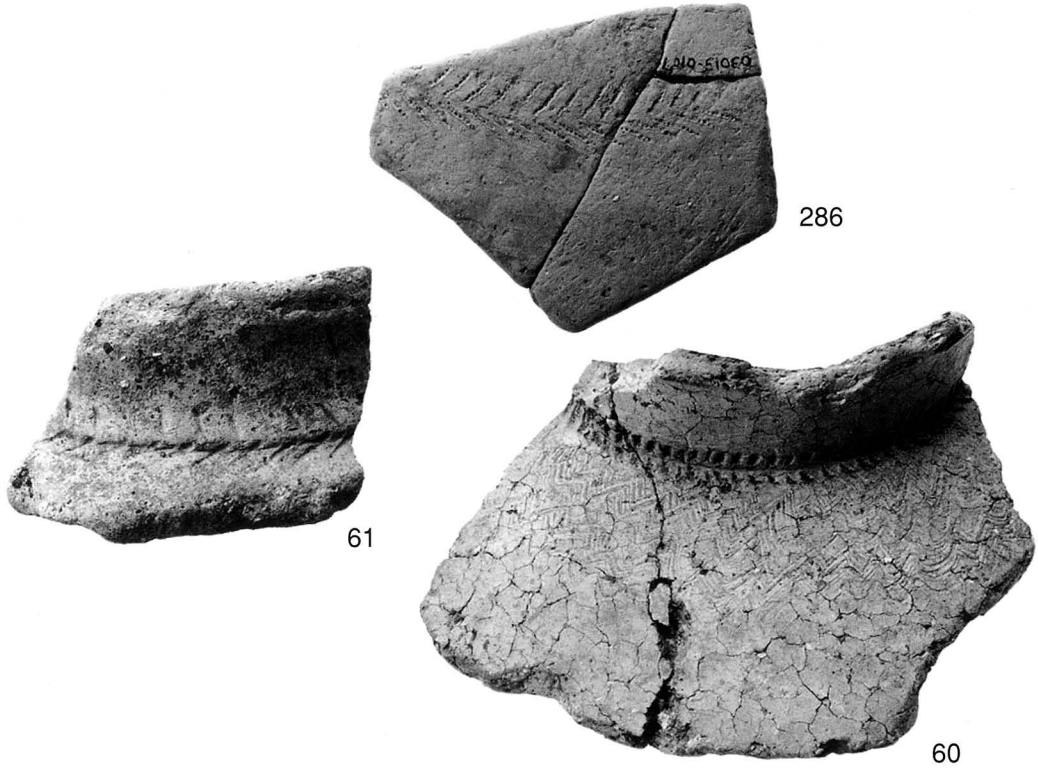
202～208


7
8
10
9


16
18
19
22
23
17

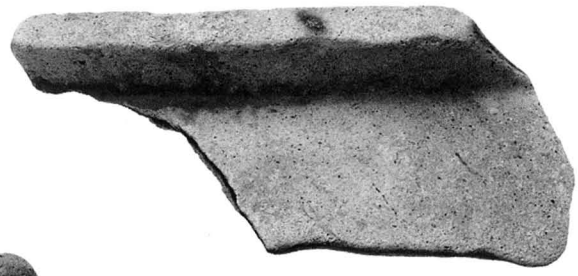
図版24 NR001出土遺物

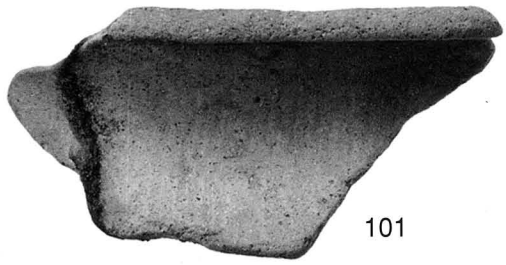




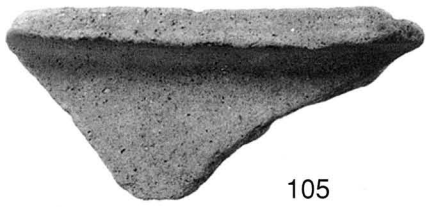
図版25 NR001出土遺物

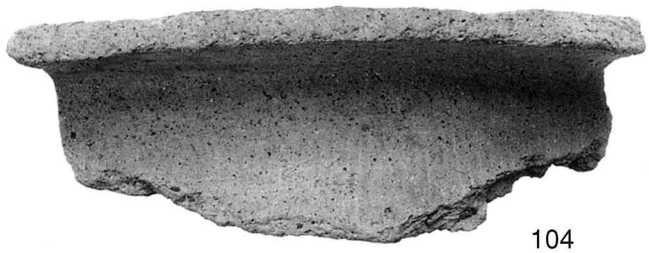
109


102


101

107

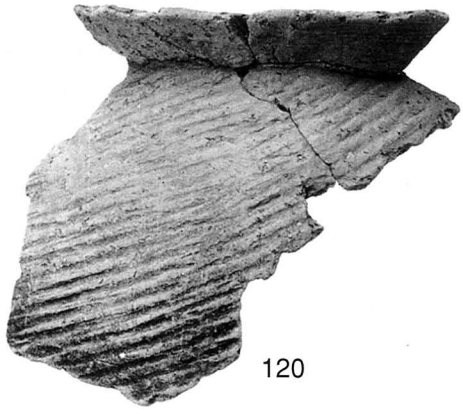

105


104

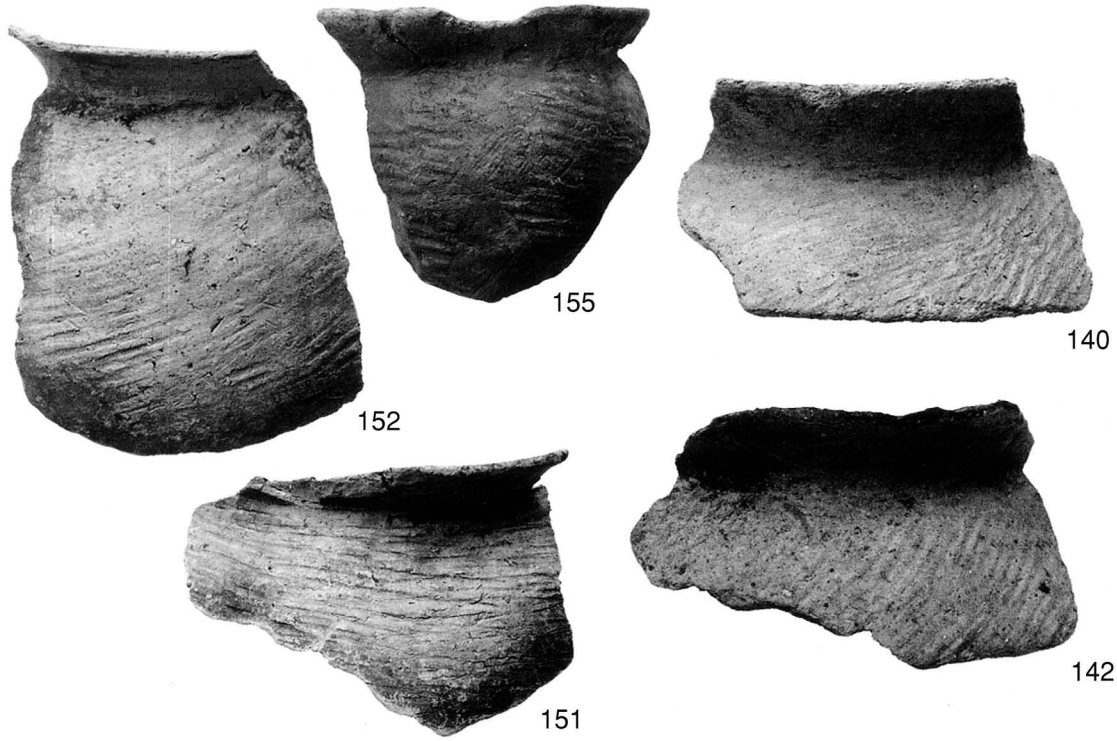
119

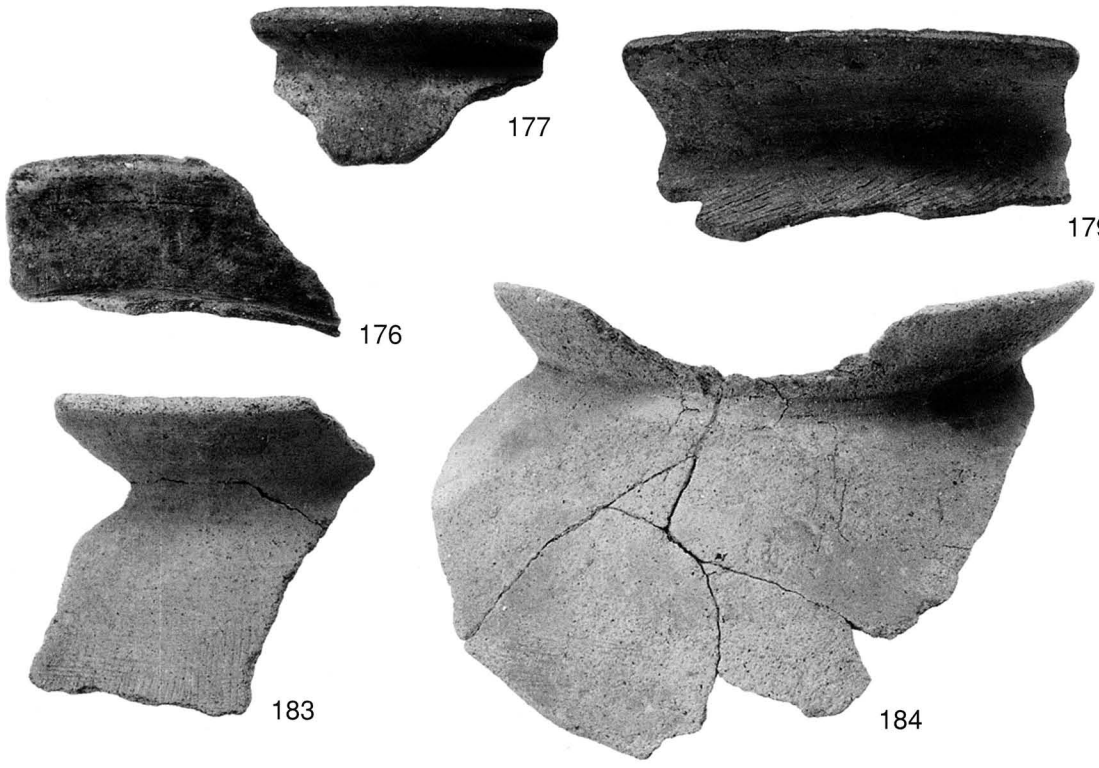
117

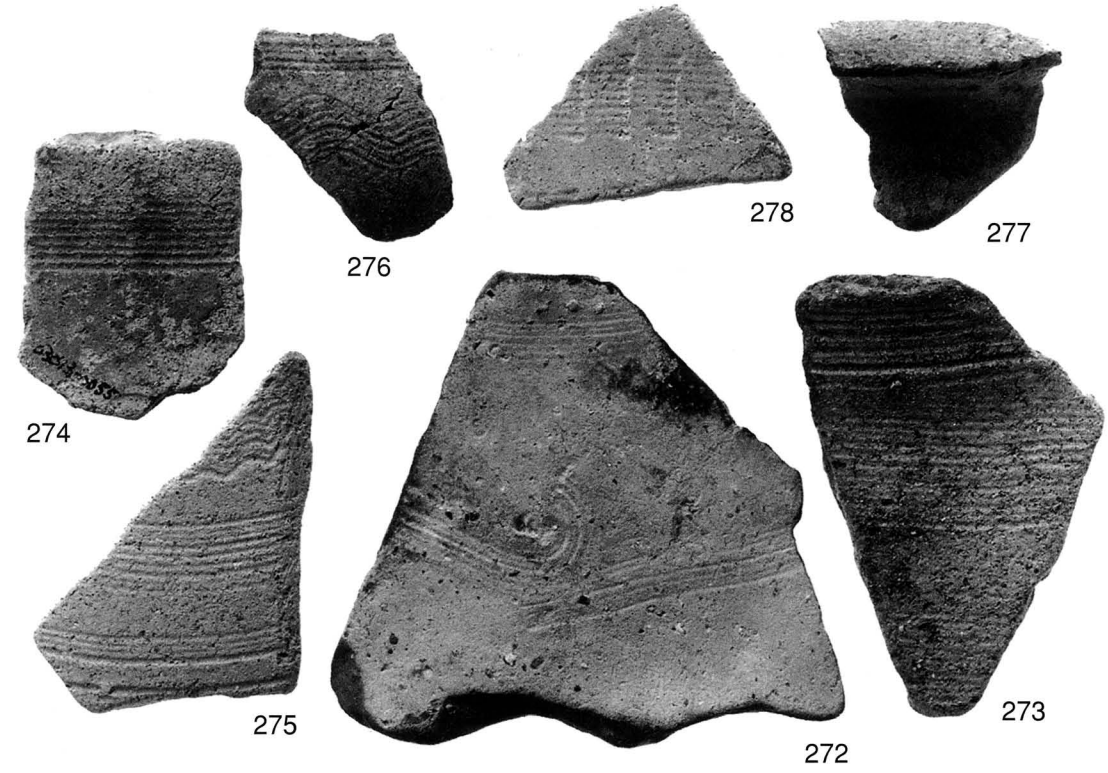
113

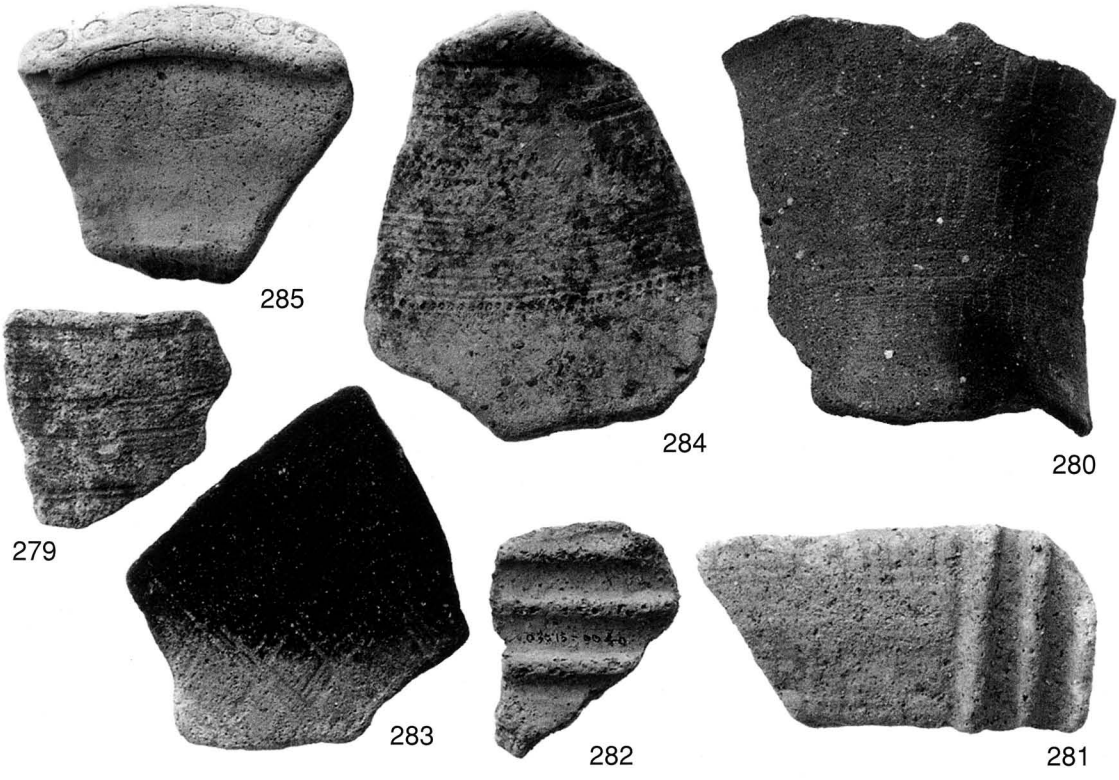

120

131

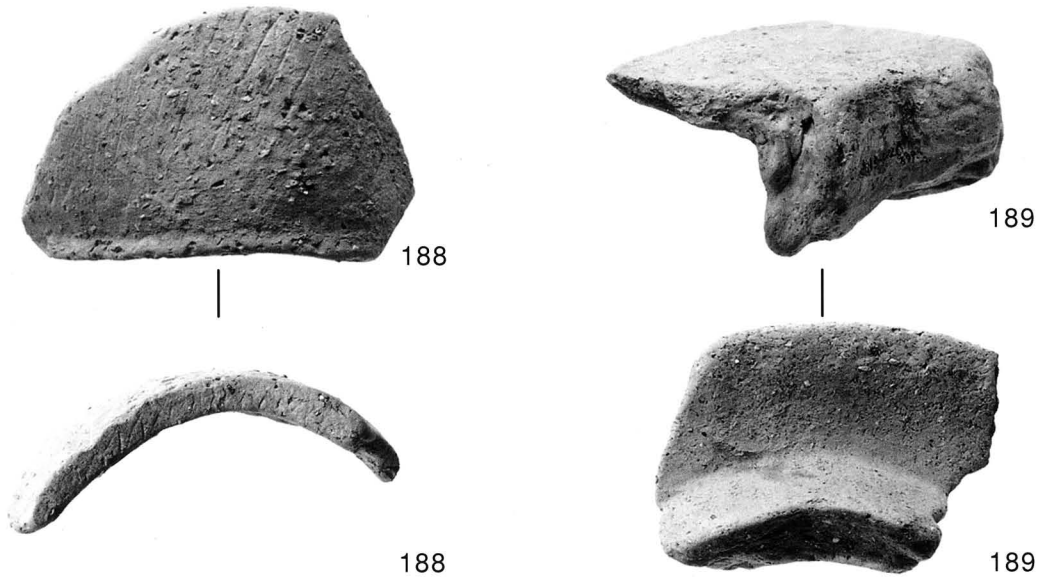

155
140
152
142
151


177
179
176
183
184


276
278
277
274
275
272
273

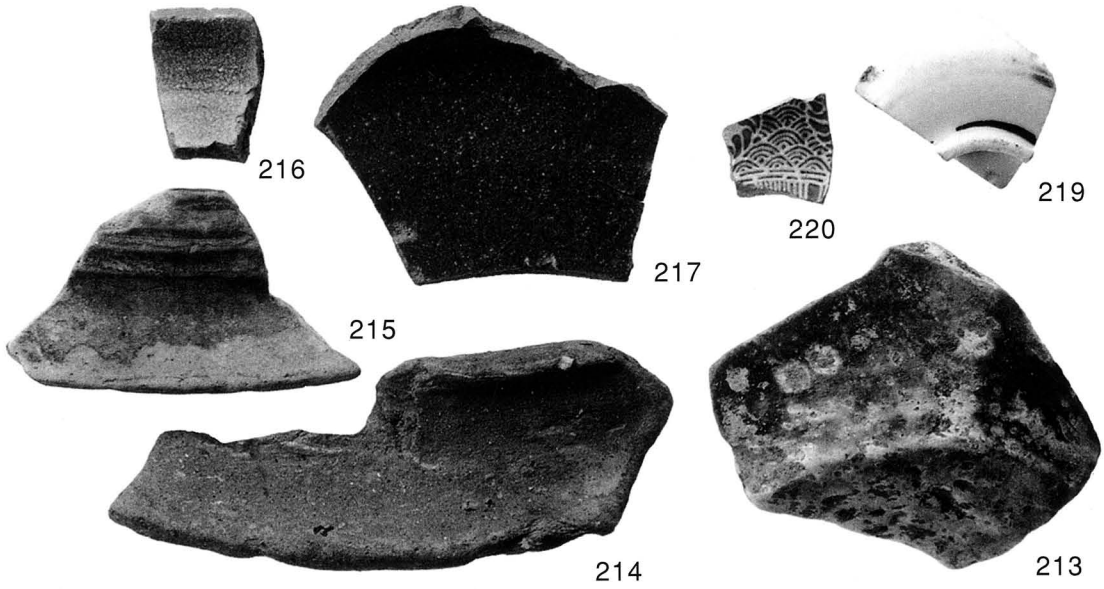

285
284
280
279
283
282
281

図版28 NR001・NR001東肩整地土出土遺物



NR001出土遺物

NR001出土遺物



NR001東肩整地土出土遺物

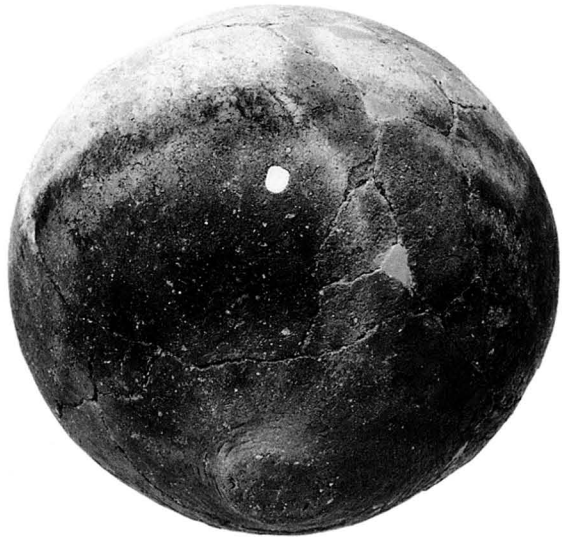
225

226

237

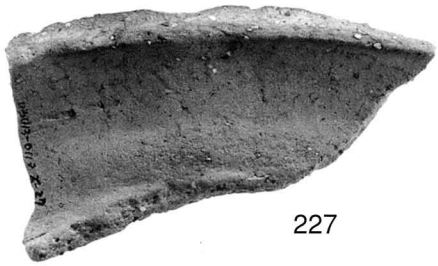
249

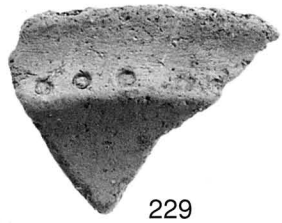
238



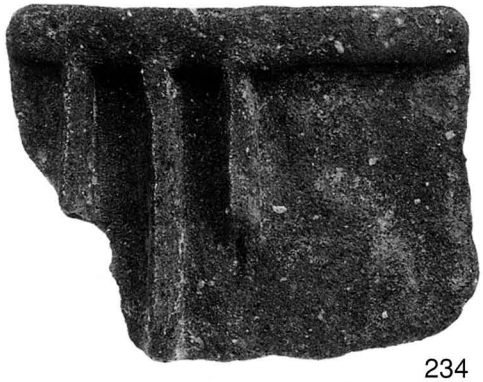
249

232


227


229

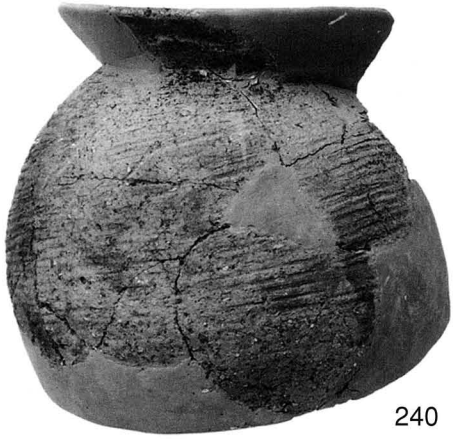
235


234

231

251

250


240

239

312

313

313

315

315

332

341

349

348

344

358

356

360

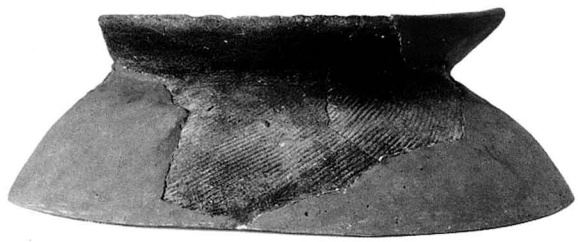
383

389

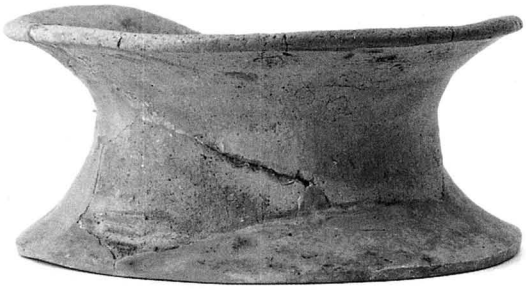
396

400

403



397



412

425

429

432

438